

Facilitation White Paper 2014

ファシリテーション 白書 2014

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 白書チーム [編著]

ファシリテーション白書2014 目次

第1部 ファシリテーション白書2014について

- 1. 1 はじめに …… 3
- 1. 2 ファシリテーションとは …… 4
- 1. 3 ファシリテーションのスキル …… 6
- 1. 4 ファシリテーションの歴史 …… 8
- 1. 5 ファシリテーションの効用 …… 9

第2部 アンケート調査

- 2. 1 調査方法 …… 11
- 2. 2 調査総評 …… 14
- 2. 3 回答内容 調査1 …… 15
- 2. 4 回答内容 調査2 …… 22
- 2. 5 回答内容 調査3 …… 31

第3部 文献調査

- 3. 1 引用文献調査 …… 34
- 3. 2 博士論文出版状況調査 …… 40

3. 3 出版状況調査 …… 43

第4部 地域活用調査

4. 1 地域活用事例調査 …… 45

第5部 大学調査

5. 1 ファシリテーション講義調査 …… 65

第6部 日本ファシリテーション協会について

6. 1 日本ファシリテーション協会とは …… 67

付録

付録A 調査2 回答結果 職種別／会議種別毎 …… 69

付録B 出版数調査詳細 …… 94

第1部 ファシリテーション白書2014について

1. 1 はじめに

2014年版白書の発刊について

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会(以下 FAJ)は、ファシリテーションの普及を目指してつくられた民間非営利団体です。

FAJは2008年に、日本で始めてファシリテーションの普及度調査を行い、「ファシリテーション白書」を編纂しました。その結果はFAJのホームページ上で掲載しています。

(掲載先: https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=115)

今回は2014年度版の白書として、前回2008年の調査時と比べてどの程度変化があったのか、また新たな調査の軸を設定し、多方面からファシリテーションの普及度調査を試みました。

ファシリテーションの普及度を調べるための4つの調査

今回の白書では、以下の4つの調査を行いました。

① アンケート調査

WEBのアンケートパネルを利用した無作為抽出アンケート調査を行いました。

② 文献調査

公開されている論文や、書籍からファシリテーションに関連する記述があるものを抜き出し、調査しました。

③ 地域活用調査

地域で継続的にファシリテーションを用いた活動を行っている組織、団体を調査しました。

④ 大学調査

大学の学部でファシリテーションに関する講義がどの程度実施されているか調査しました。

1. 2 ファシリテーションとは

ファシリテーションとは？

ファシリテーション(facilitation)とは、「促進する」「容易にする」「円滑にする」「スムーズに運ばせる」というのが原意です。人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶように舵取りするのがファシリテーションです。

具体的には、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、自己表現・成長など、あらゆる知識創造活動を支援し促進していく働きを意味します。

またその役割を担う人がファシリテーター(facilitator)であり、日本語では「協働促進者」または「共創支援者」と呼びます。分かりやすく言えば、裏方で黒子のリーダーです。会議で言えば、メンバーの参加を促進し、プロセスの舵取りをする人がファシリテーター(進行役)です。

ファシリテーターはプロセスに関わる

ファシリテーターは、チーム活動の二つのプロセスに関わっていきます。一つは、段取り、進行、プログラムといった、活動の目的を達成するための外面的なプロセスです。

もう一つは、メンバー一人ひとりの頭や心の中にある内面的なプロセスです。具体的には、考え方や筋道などの思考的なプロセスや、感情の動きやメンバー同士の関係性などの心理的なプロセスです。チーム活動を円滑に進めるには外面的なプロセスが大切ですが、成果や満足感を左右するのは内面的なプロセスです。

チーム活動の中では、メンバーの考え方の枠組みや様々な思いがぶつかりあって、感情も関係性も常に変化しています。変化するからこそ、新しい考えが生まれたり、対立している人と合意形成ができます。まさにこれこそがチーム活動のダイナミズムであり、ファシリテーターは両方のプロセスに関わることで、人と人の相互作用を促進しているのです。

相互作用を使って枠組みを打ち破る

チーム活動の成果の質を上げるには、精神論だけでは心もとなく、行動を変えなければいけません。そのためには、まずは考え方を変えることが求められます。ところが、これはまさに至難の業であり、そう簡単には固定化された思考の枠組みが打ち破れません。考え方を変えるには、大きく二つの方法があります。

一つは、自分自身の心の中を深く省みる内省です。多くの場合、自分一人ではなかなか壁は砕けず、それを手助けしてくれるのがコーチやカウンセラーです。

もう一つは、相互作用を使って自分の枠を打ち破る方法、すなわちファシリテーションです。他者とぶつかり合い、互いの違いを知ることで自分の壁を悟り、新しい自分を発見していくのです。

もちろんどちらが一方向的に優れているということはなく、単にアプローチが違うだけです。両者とも目指す姿は人と組織の活性化であり、課題や状況に応じて組み合わせる使うのが理想的でしょう。

ファシリテーションが人・組織・社会を変える

ファシリテーションの応用分野は、大きく「組織系」「社会系」「人間系」の三つに分かれます。

組織系とは、チーム活動の中での問題解決や組織活性化などに用いられるファシリテーションです。ビジネス活動に一番なじみが深い分野であり、合理的な成果とスピードが何よりも求められます。

社会系とは、まちづくり、コミュニティ、NPO など、社会的な合意形成が必要となる場面で用いられます。共通の目標や課題を発見することが成果であり、納得感を高めるために、そこにいたるプロセスが重要となります。企業でいえば労働組合やCSR活動などで用いられます。

最後に人間系ですが、人間教育、社会教育、学校教育、国際教育など広範囲の分野を含むファシリテーション発祥の地です。ファシリテーターは内面的なプロセスに関わり、様々な学習のお手伝いをします。企業では、参加型研修やキャリアデザインなどに用いられています。

1. 3 ファシリテーションのスキル

ファシリテーションの四つのスキル

ファシリテーターに求められるスキルは広範囲に及び、活用分野によっても変わってきます。分かりやすいよう、一般的な話し合いでのファシリテーションを念頭に紹介します。

① 場のデザインのスキル～場をつくり、つなげる～

何を目的にして、誰を集めて、どういうやり方で議論していくのか、相互作用がおこる場づくりからファシリテーションは始まります。単に人が集まればチームになるわけではありません。

目標の共有から、協働意欲の醸成まで、チームづくりの成否がその後の活動を左右します。中でも大切なのが活動のプロセス設計です。問題解決プロセスをはじめ、基本となるパターンをベースに、活動の目的とチームの状態に応じて一つひとつ段取りを組み立てていきます。

② 対人関係のスキル～受け止め、引き出す～

活動がスタートすれば、自由に思いを語り合い、あらゆる仮説を引き出しながら、チーム意識と相互理解を深めていきます。問題解決でいえば、発散のステップです。

ファシリテーターは、しっかりとメッセージを受け止め、そこにこめられた意味や思いを引っ張り出していかなければなりません。具体的には、傾聴、復唱、質問、主張、非言語メッセージの解読など、コミュニケーション系(右脳系・EQ系)のスキルが求められます。

③ 構造化のスキル～かみ合わせ、整理する～

発散が終れば収束です。論理的にもしっかりと議論をかみあわせながら、議論の全体像を整理して、論点を絞り込んでいきます。図解を使いながら、議論を分かりやすい形にまとめていくのが一般的です。

今度はロジカルシンキングをはじめとする、思考系(左脳系・IQ系)のスキルが求められます。加えて、図解ツールをできるだけ多く頭に入れておいて、議論に応じて自在に使い分けていきます。

④ 合意形成のスキル～まとめて、分かち合う～

議論がある程度煮詰まってきたなら、創造的なコンセンサスに向けて意見をまとめていきます。問題解決でいえば、意思決定のステップです。

多くの場合には、ここで様々な対立が生まれ、簡単には意見がまとまりません。対立解消のスキルが求められ、ファシリテーターの力量が最も問われるところです。ひとたび合意ができれば、活動を振り返って個人や組織の学びを確認し、次に向けての糧としていきます。

1. 4 ファシリテーションの歴史

ファシリテーションの歴史

ファシリテーションが生み出された流れはいくつかあり、その歴史をかいつまんで説明しましょう。

FAJ と関わりの深い分野で言えば、まずは体験学習の流れがあります。エンカウンターグループと呼ばれる、グループ体験によって学習を促す技法が 1960 年代にアメリカで生まれました。その時に、メンバーやグループが成長するために働きかける人をファシリテーターと名づけました。この流れは、体験学習や教育系のファシリテーションとして現在まで続いています。

それとほぼ同時期に、アメリカのコミュニティ・デベロップメント・センター(CDC)で、コミュニティの問題を話し合う技法としてワークショップやファシリテーションが体系化されていきました。こちらは、市民参加型のまちづくり活動へと受け継がれています。

ビジネス分野での応用は、少し遅れた 1970 年代あたりから、やはりアメリカで始まりました。こちらは、会議を効率的に進める方法として開発され、やがて「ワークアウト」と呼ばれるチームによる現場主導型の業務改革手法に応用されていきました。今ではファシリテーションが専門技能として認知され、重要な会議にファシリテーターを置くのは珍しいことではなくなり、最近では支援型リーダーへと関心が移ってきています。

このような動きは、ほどなく日本にも入り、分野毎に応用や研究がなされてきました。中には、世田谷のまちづくり活動のように日本独自に進化を遂げたものもあります。ビジネス分野で言えば、かつて QC(品質管理)のリーダー達がやっていた仕事は、ファシリテーションそのものだといってよいでしょう。ところが、それが専門技能としては認識されておらず、一部の外資系企業を除いて、その言葉すら知らないという状態が長く続きました。

ようやく、21 世紀に入った頃からビジネスの世界でも注目を集めるようになり、ファシリテーションに関する書物が店頭にも並ぶようになりました。ファシリテーションを専門的に研究する大学院の講座も開講されるようになり、学問的にも注目されはじめました。様々な分野でファシリテーションという言葉が普通に使われる時代がようやくやってきたのです。

1. 5 ファシリテーションの効用

●コンサルタント／士業／研修講師

一方的に押し付けた答(コンテンツ)では人は動かず、その時は分かった気になっても、いずれ忘れてしまうか、神棚に上がってしまいます。自分達で答を見つけるからこそ、人は変わろうと思うものであり、そのプロセスを踏まないと本当の意味での成果に結びつきません。

経験を軸にした内省や相互作用を通じて、自己(組織)変容のプロセスをつくっていくファシリテーション能力が、これからのコンサルタントや講師に求められます。コンテンツを押し付ける指導の場から、プロセスを舵取りする参加型の場へと、大きく変化しつつあるのです。

●コーチ／カウンセラー

自己変容を図るアプローチは二つあり、一つは、コーチやカウンセラーの傾聴と質問を触媒とした「内省」によるものです。もう一つは、クライアント同士の経験や考えをぶつけ合い、「相互作用」によって気づきを生み出す方法です。

集団を扱うファシリテーションは後者をベースにしており、関係を使って思考を変え、思考から行動を変えていきます。両方を身につければ、クライアントの状況に応じて、効果的なセッションが行えるようになります。中でもグループプロセスを使ったグループコーチング(カウンセリング)を効果的に行うためには欠かせないスキルです。

●社会教育／生涯教育

人間関係、環境教育、人権教育、開発教育、キャリア開発等の社会教育の分野では、ファシリテーションは必要不可欠なものです。知識を得るだけでは本当の理解はできず、参加者がその場で得た体験や過去の経験をもとに深く考えることで、真の学びが生まれてくるからです。

グループプロセスを促進するファシリテーターは、体験の中から安心して自分を開く場をつくり、その場で起こった気づきを引き出して分かち合い、学んだことの意味をつむいでいきます。特に大人の学習では、インストラクター(講師)ではなくファシリテーター(学習促進者)の役割が重要となってきます。

●教員／教育委員会

一方的に教科書の内容を伝えるだけの授業は限界にきています。生徒の学びを引き出すファシリテーションが、通常の教科、総合学習、環境などの社会教育の授業を効果的に進めるのに役に立ちます。また、以前から生徒同士の関係を促進するのに活用され、クラスづくりやいじめ問題への応用が進んでいます。

一方、学校の運営においても、特別支援教育をはじめ、課題に応じてチームやコーディネーターをつくって対応する機会が増え、話し合いを円滑に進めるファシリテーション能力が求められるようになってきました。さらには、PTAに代表される地域社会との連携・協働や学校外への問題への対応にも応用ができます。

●学生／子ども

学生自治会、クラブ(サークル)活動、学園祭などのイベント運営、コンパなどのボランティアな組織でファシリテーションが役立つのは前述の通りです。ファシリテーション能力があれば、学生生活をエンジョイできること間違いありません。就職活動でも圧倒的に有利になります。最近の企業面接では、グループディスカッションを取り入れているところが多く、議論をうまくリードできれば社会的なスキルの高さをアピールできるからです。

●お父さん／お母さん

家族が一番身近なチームでありながら、コミュニケーションが疎かになりがちです。ファシリテーションのスキルをベースにした対話やプロセスの促進技法は、親と子、夫婦の関係性を高めるのに大いに役に立ちます。ファシリテーションをうまく使うことが、家庭円満、夫婦円満の秘訣でもあるのです。

このようにファシリテーションは特定の誰かが使う、特殊なスキルではありません。リーダーシップと同様、全ての人が等しく持つべき「社会的なスキル」だと言ってよいでしょう。

第2部 アンケート調査

ファシリテーションの普及度合いを把握するために、WEB アンケート調査を実施しました。

2. 1 調査方法

●調査1

調査方法: WEB アンケートパネルを利用した無作為アンケート調査

調査対象:

年齢: 18 歳以上 70 歳未満の男女

職業: 民間企業勤務、公務員、教職員、NPO 法人勤務、独立事業者、学生、
無職・家事手伝い・その他

回答数: 7,049 人

内訳: 民間企業勤務: 2,735 人

公務員: 209 人

教職員: 213 人

NPO: 25 人

独立事業者: 516 人

学生: 104 人

無職・家事手伝い・その他: 3,247 人

調査地域: 全国

実施時期: 2014 年 5 月 8 日

質問内容:

1. あなたは「ファシリテーション」という用語についてご存知ですか？
2. あなた自身はファシリテーションをどのくらい使われていますか？
3. あなたの周囲でファシリテーションの必要性が増していると思いませんか？
4. あなたの周囲ではファシリテーションについて知っている人は増えていますか？

●調査2

調査1のアンケートに答えていただいた方のうち、職業別に会議についての調査を行いました。

調査方法: WEB アンケートパネルを利用したアンケート調査

調査対象:

年齢: 18歳以上 70歳未満の男女

職業: 民間企業勤務、公務員、教職員、NPO 法人勤務、独立事業者、学生、
無職・家事手伝い・その他

回答数: 民間企業勤務: 240人

公務員: 135人

教職員: 135人

NPO: 25人

独立事業者: 240人

学生: 104人

無職・家事手伝い・その他: 135人

調査地域: 全国

実施時期: 2014年5月22日～5月29日

質問内容:

1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか
2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか
3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか
4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか
5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか。
6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか。
7. 話し合い・会議がうまくいくために取り組んでいることはなんですか。

それぞれの設問で、以下の5種類の話し合いの場について回答をいただきました。

- A. 情報共有や周知のための話し合い
- B. アイデアを創造したり問題解決をするための話し合い
- C. 役割や利害を調整するための話し合い
- D. 意思決定を行うための話し合い
- E. 勉強会や研修など教育・指導のための話し合い

●調査3

調査1のアンケートに答えていただいた方のうち、「ファシリテーションをよく使う、たまに使う」と解答された方にファシリテーションについての調査を行いました。

調査方法: WEB アンケートパネルを利用したアンケート調査

調査対象:

年齢: 18 歳以上 70 歳未満の男女

職業: 民間企業勤務、公務員、教職員、NPO 法人勤務、独立事業者、学生、
無職・家事手伝い・その他(以下、無職)

回答数: 「ファシリテーションをよく使う、たまに使う」と回答された方のうち、ファシリテーションを(独学でも)学んだことはないとは回答された方以外: 197 人

調査地域: 全国

実施時期: 2014 年 5 月 22 日~5 月 23 日

質問内容:

1. あなたはファシリテーションを意識的に使っていますか？
2. あなたの周囲でファシリテーションを学んで欲しい人がいますか？
3. あなたの周囲の人にファシリテーションについて伝えたことがありますか？
4. ファシリテーションを説明する際にうまく伝えられていますか？
5. ファシリテーションを学んだことが役立っていますか？
6. ファシリテーションのスキルは高まったと思いますか？
7. ファシリテーションを学んであなた自身は変わったと思いますか？
8. 今の社会や地域でファシリテーションは必要だと思いますか？
9. どんな場面でファシリテーションの有効性を感じますか？
10. ファシリテーションを学んであなたの中で変わった、成長できたという体験について体験談をお書きください
11. ファシリテーションを行なううえで、特に強化したいスキルを教えてください

2. 2 調査総評

今回の調査は、調査1で全体の傾向、職業別のばらつきを調べ、調査2、調査3で細かく調査を行いました。

調査1は、WEB アンケートということもあり、半分が無職、またそのうち女性が7割以上と、偏りがある結果となっています。このまま全体の平均などから傾向を分析すると、偏った分析結果になりますので、あえて全体をまとめずに職業別に傾向を分析することにしました。

調査1の調査結果としては、2008年のファシリテーション白書が、ファシリテーションをほとんど知らない人が86%、反対に見て少し以上知っている人が14%だったことを考慮すると、無職を除いて全体的に10%以上2008年度より高く、無職についても、2008年度と同程度が少し以上知っているという結果ですので、全体的に認知度が高まっているといえます。また、その中でも20%程度の方が実際にファシリテーションを利用しているとの結果でした。

調査2では職業別／会議の種別毎に、会議における印象と経験を調査しました。どの職種でもそもそも話し合いを行っていないと回答する方が半分程度いたことが印象的でした。ファシリテーションについて知っている方に回答していただいたので、もう少し話し合い経験があることを想定していたのですが、知識としてファシリテーションを知っているけれども、実際は使う場がない方が半数程度いらっしゃるという印象になりました。

調査2の調査結果としては、全体的な傾向として、話し合いがなんとなくうまくいっているように見えるが、うまくいった点、うまくいかなかった点を個別に見ると、発言をしている人が一部に偏っている等の問題を抱えていることが推察される調査結果となりました。

調査3ではファシリテーションを「たまに使う」以上の人にアンケートを行った結果、全体的にファシリテーションに対してポジティブな回答が得られています。2008年のファシリテーション白書では、ファシリテーションを少しでも知っている人へのアンケートでしたので、比較する際には注意してください。

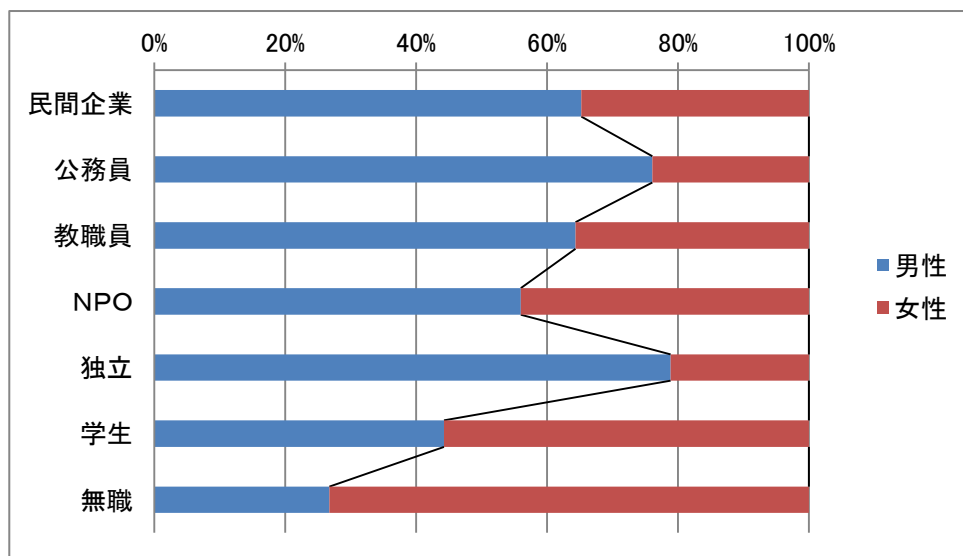
調査3の調査結果としては、概ねポジティブな回答の中で、ファシリテーションを伝える、うまく伝え切れているか、という部分で若干伝える必要性を感じていない、伝え切れていない感が数字に表れています。個人のスキルとしてファシリテーションを知る／学ぶという部分がまだ強いのかなと推察されます。

2. 3 回答内容 調査1

●調査1の回答

調査1は、特定の期間に、職業、性別、地域を問わず無作為にWEB アンケートを行いました。WEB アンケートの特性から、調査結果のほぼ半数が「無職・家事手伝い・その他」の方からの回答でした。結果を全体の比率で出すと結果が特定の職業の影響を受ける可能性がありますので、調査1では結果を職業別に表しています。

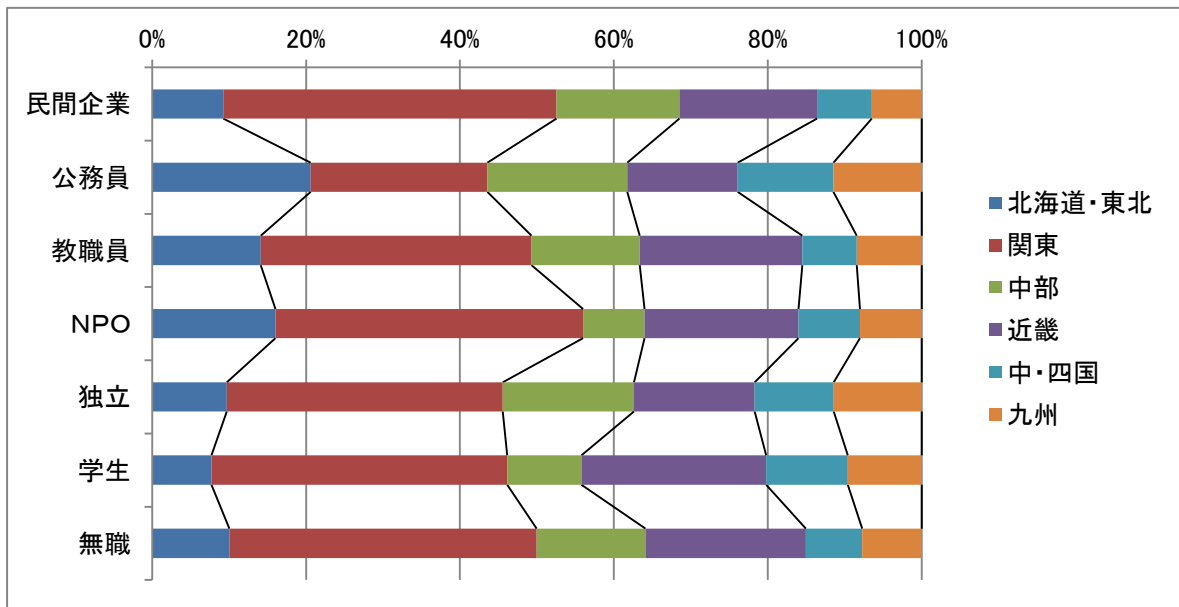
・職業別 男女比率



	合計	男性	女性
民間企業	2,735	1,784	951
公務員	209	159	50
教職員	213	137	76
NPO	25	14	11
独立	516	407	109
学生	104	46	58
無職	3,247	868	2,379

アンケートにお答えいただいた方は、職業が民間企業と無職に大きく偏り、また職業別の男女比率にもかなりのばらつきがあります。

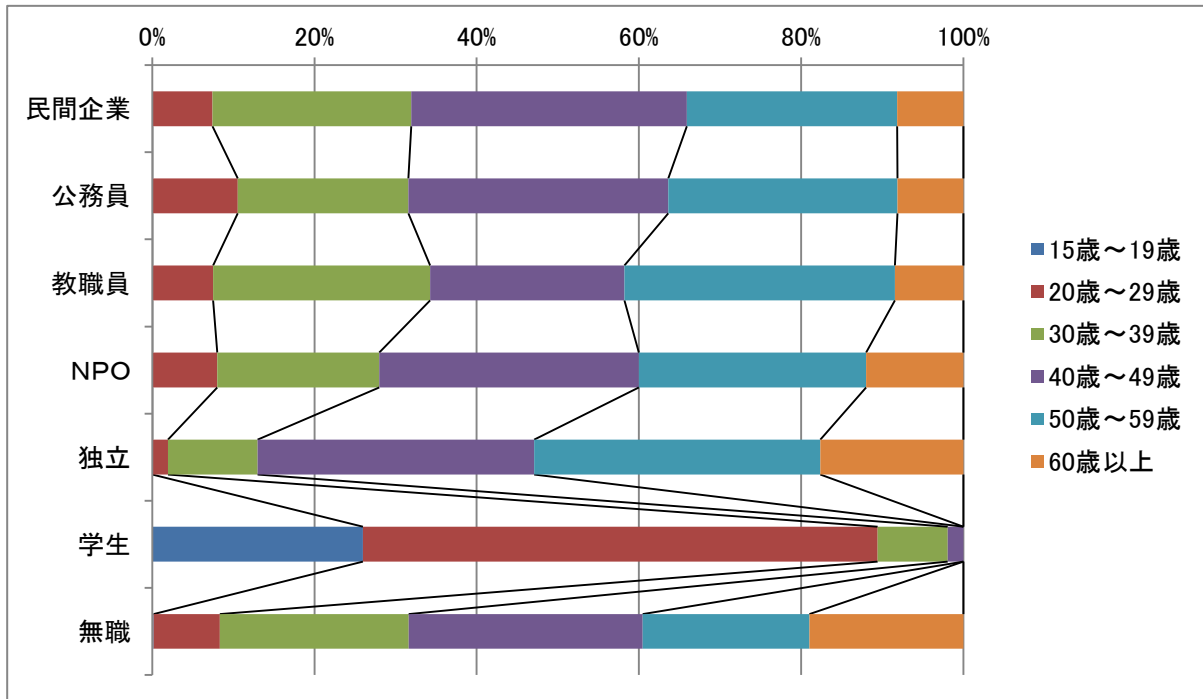
・職業別 エリア比率



	合計	北海道・東北	関東	中部	近畿	中・四国	九州
民間企業	2,558	253	1,184	437	489	195	177
公務員	185	43	48	38	30	26	24
教職員	195	30	75	30	45	15	18
NPO	23	4	10	2	5	2	2
独立	457	50	185	88	81	53	59
学生	94	8	40	10	25	11	10
無職	2,996	326	1,297	458	678	237	251

職業によらず、全体的に関東エリアからの回答が多いことがわかります。

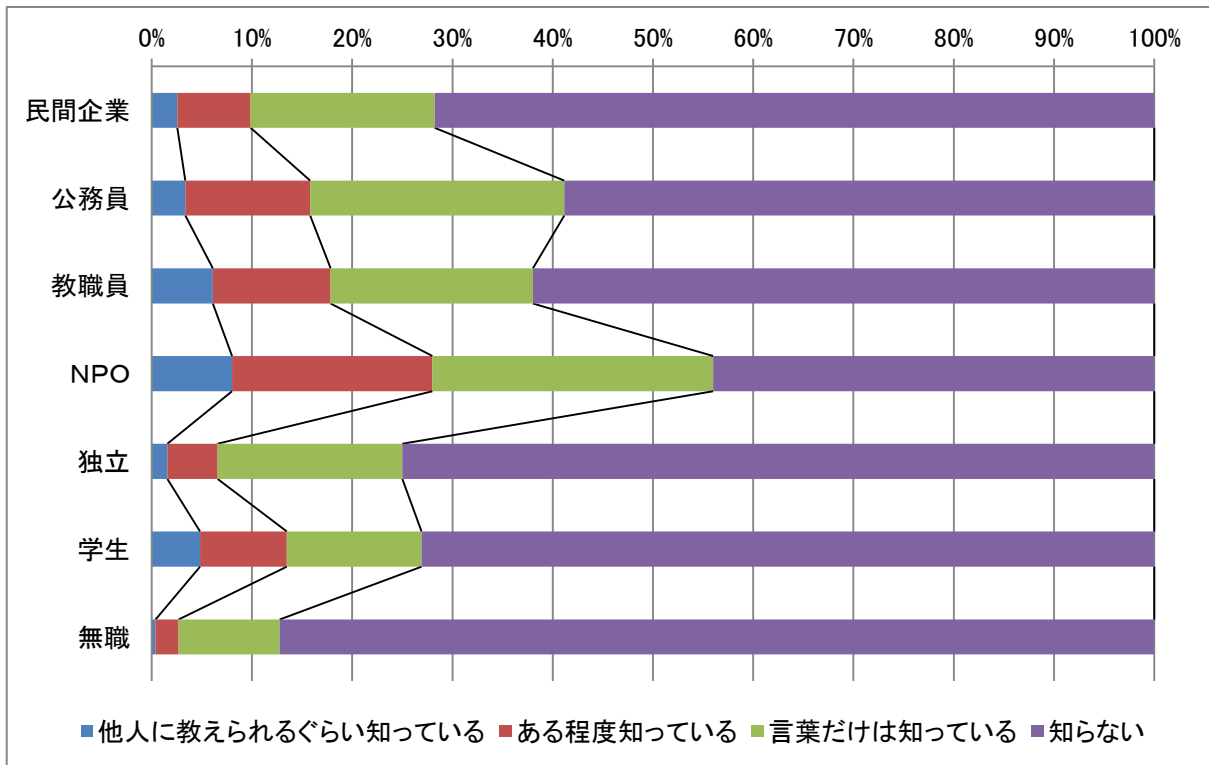
・職業別 年齢比率



	合計	15歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
民間企業	2,735	0	203	670	930	709	223
公務員	209	0	22	44	67	59	17
教職員	213	0	16	57	51	71	18
NPO	25	0	2	5	8	7	3
独立	516	0	10	57	176	182	91
学生	104	27	66	9	2	0	0
無職	3,247	5	265	757	936	668	616

学生は、20代までにほぼ集中しています。それ以外は全体的に30代から50代までの回答が多いことがわかります。

問1. あなたは「ファシリテーション」という用語についてご存知ですか？

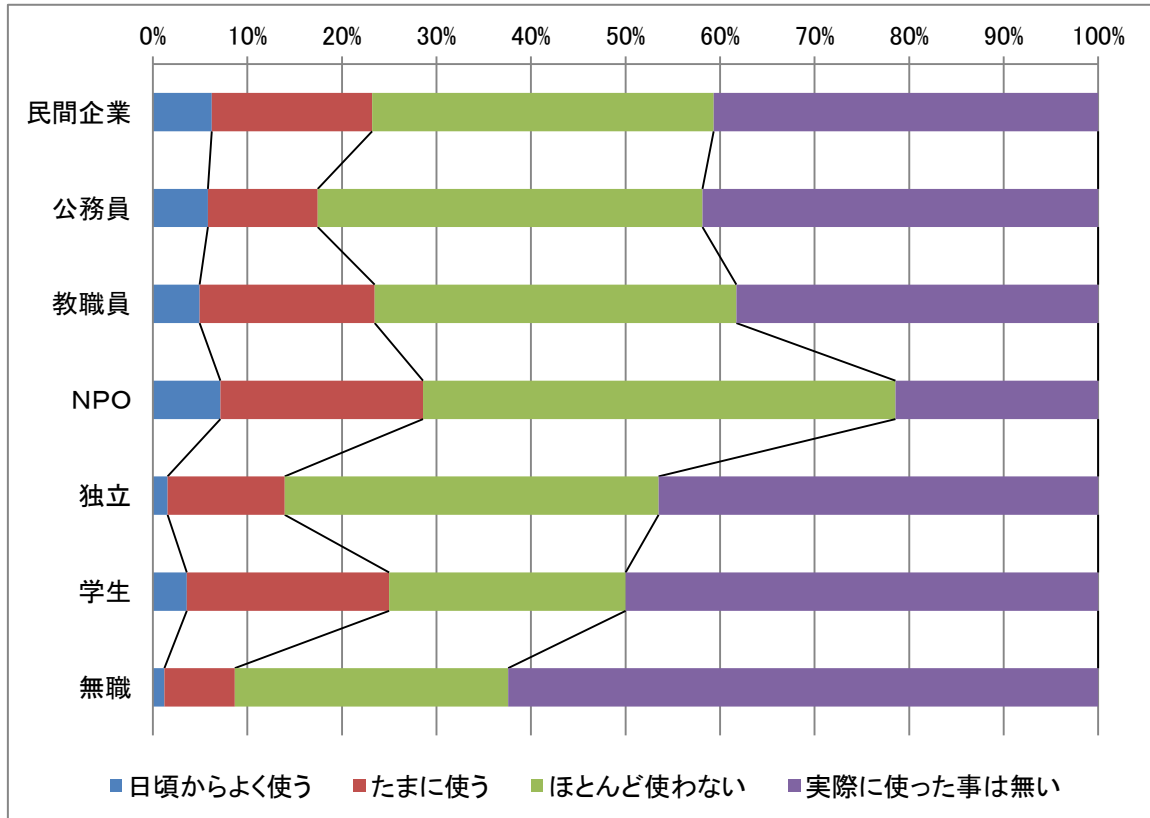


	合計	他人に教えられる	ある程度	言葉だけ	知らない
民間企業	2,735	70	200	502	1,963
公務員	209	7	26	53	123
教職員	213	13	25	43	132
NPO	25	2	5	7	11
独立	516	8	26	95	387
学生	104	5	9	14	76
無職	3,247	12	75	328	2,832

職業によってばらつきがありますが、働いている方については概ね 25%以上の方が、ファシリテーションについて耳にしたことがあることがわかります。

問2. あなた自身はファシリテーションをどのくらい使われていますか？

「1. あなたは「ファシリテーション」という用語についてご存知ですか？」の質問で、「他人に教えられるくらい知っている」「ある程度知っている」「言葉だけは知っている」と答えた方みの回答となります。

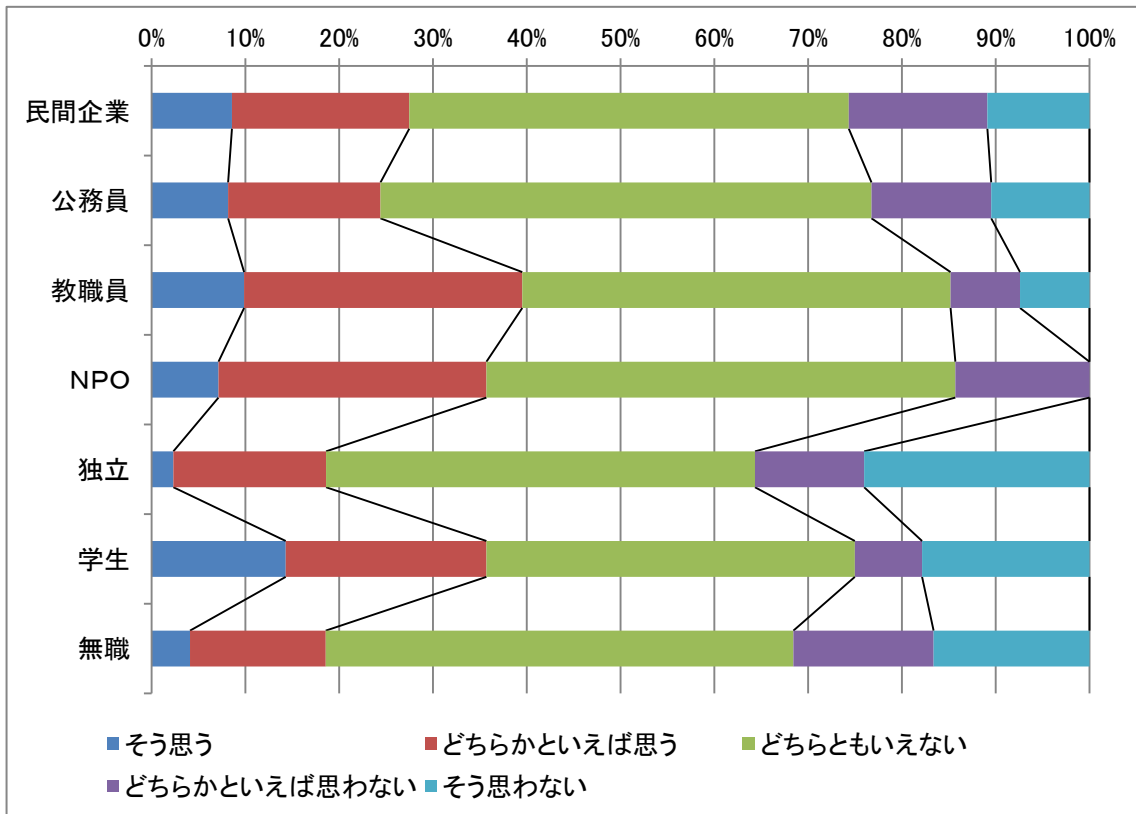


	合計	日頃から良く使う	たまに使う	ほとんど使わない	使ったことはない
民間企業	772	48	131	279	314
公務員	86	5	10	35	36
教職員	81	4	15	31	31
NPO	14	1	3	7	3
独立	129	2	16	51	60
学生	28	1	6	7	14
無職	415	5	31	120	259

職業によってばらつきがありますが、ファシリテーションについて知っている1～2割程度の方がファシリテーションを実際に利用されていることがわかります。

問3. あなたの周囲でファシリテーションの必要性が増していると思いますか？

「1. あなたは「ファシリテーション」という用語についてご存知ですか？」の質問で、「他人に教えられぐらい知っている」「ある程度知っている」「言葉だけは知っている」と答えた方だけの回答となります。

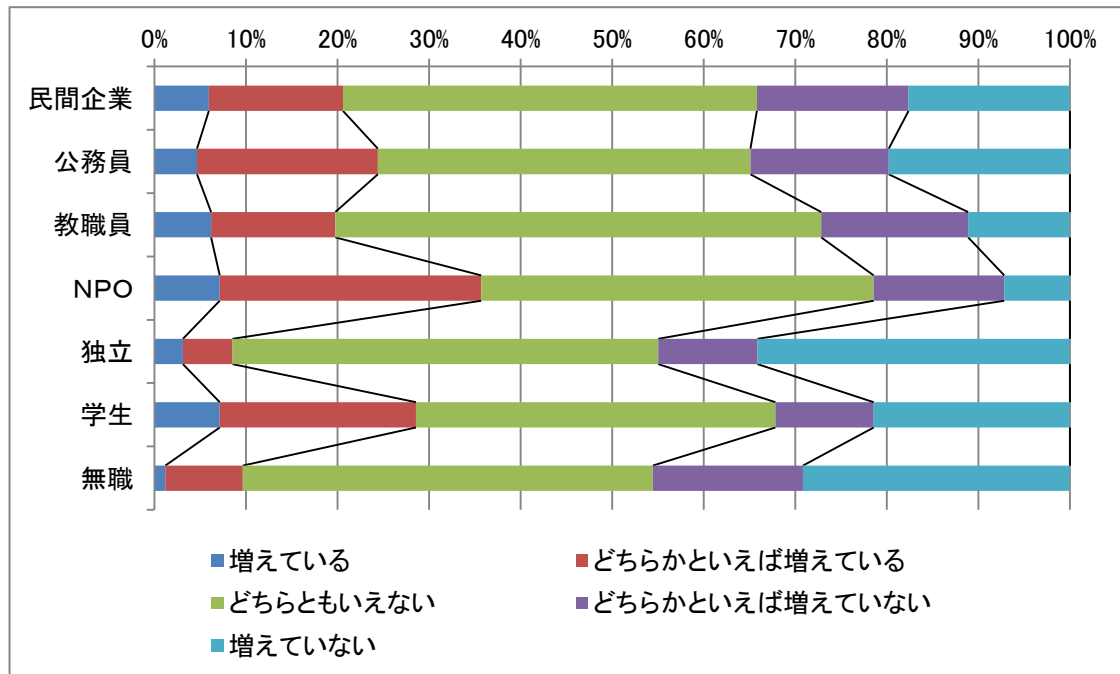


	合計	そうですね	どちらかといえば思う	どちらともいえない	どちらかといえば思わない	そう思わない
民間企業	772	66	146	362	114	84
公務員	86	7	14	45	11	9
教職員	81	8	24	37	6	6
NPO	14	1	4	7	2	0
独立	129	3	21	59	15	31
学生	28	4	6	11	2	5
無職	415	17	60	207	62	69

職業によってばらつきがあるものの、「そうですね」、「どちらかといえば思う」側に寄っていることがわかります。

問4. あなたの周囲ではファシリテーションについて知っている人は増えていますか？

「1. あなたは「ファシリテーション」という用語についてご存知ですか？」の質問で、「他人に教えられるぐらい知っている」「ある程度知っている」「言葉だけは知っている」と答えた方だけの回答となります。



	合計	増えている	どちらかといえば増えている	どちらともいえない	どちらかといえば増えていない	増えていない
民間企業	772	46	113	349	128	136
公務員	86	4	17	35	13	17
教職員	81	5	11	43	13	9
NPO	14	1	4	6	2	1
独立	129	4	7	60	14	44
学生	28	2	6	11	3	6
無職	415	5	35	186	68	121

職業によってばらつきがあるものの、NPOの方の職業については、「どちらかといえば増えていない」、「増えていない」側に寄っていることがあることがわかります。

2. 4 回答内容 調査2

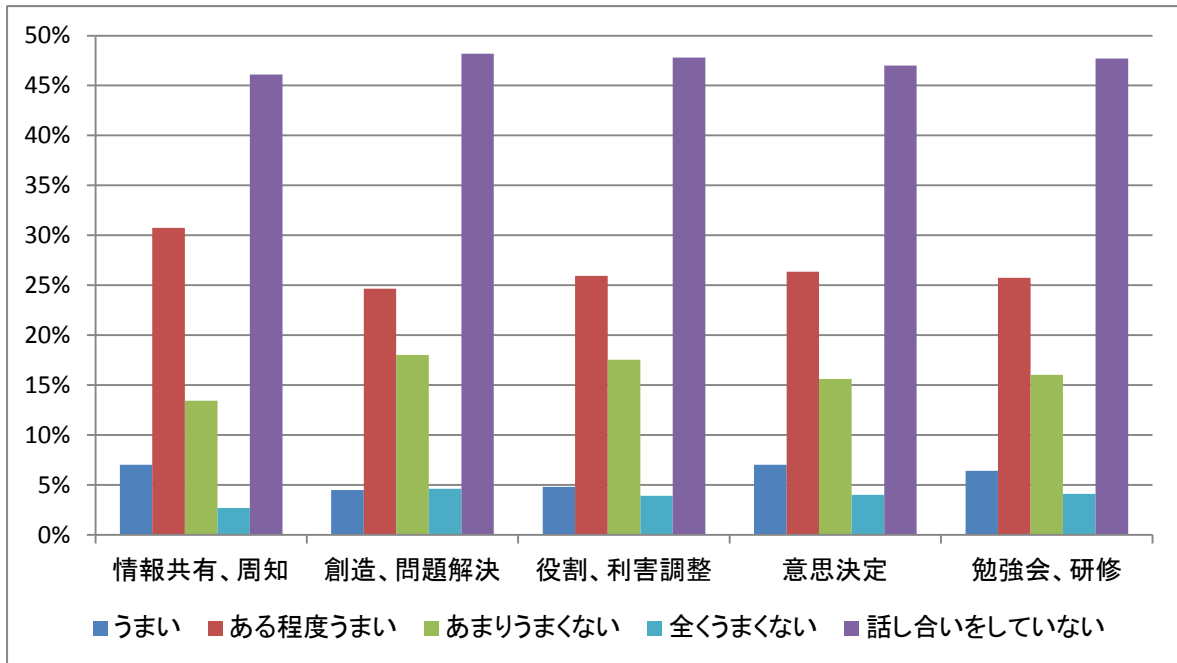
●調査2の回答

調査2は、調査1で回答いただいた方を対象に、職業別に人数を決めて会議に関する WEB アンケートを行いました。

アンケート結果は、職種全体を合計して、会議種別毎に傾向を表したグラフになります。

職業別、会議種別毎のグラフは、付録 A として添付いたしましたので、そちらをご確認ください。(NPO は調査1での人数が少なかったこともあり、調査 1 で回答いただいた方全員からアンケート回収しましたがグラフからは外しています)

問1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか？

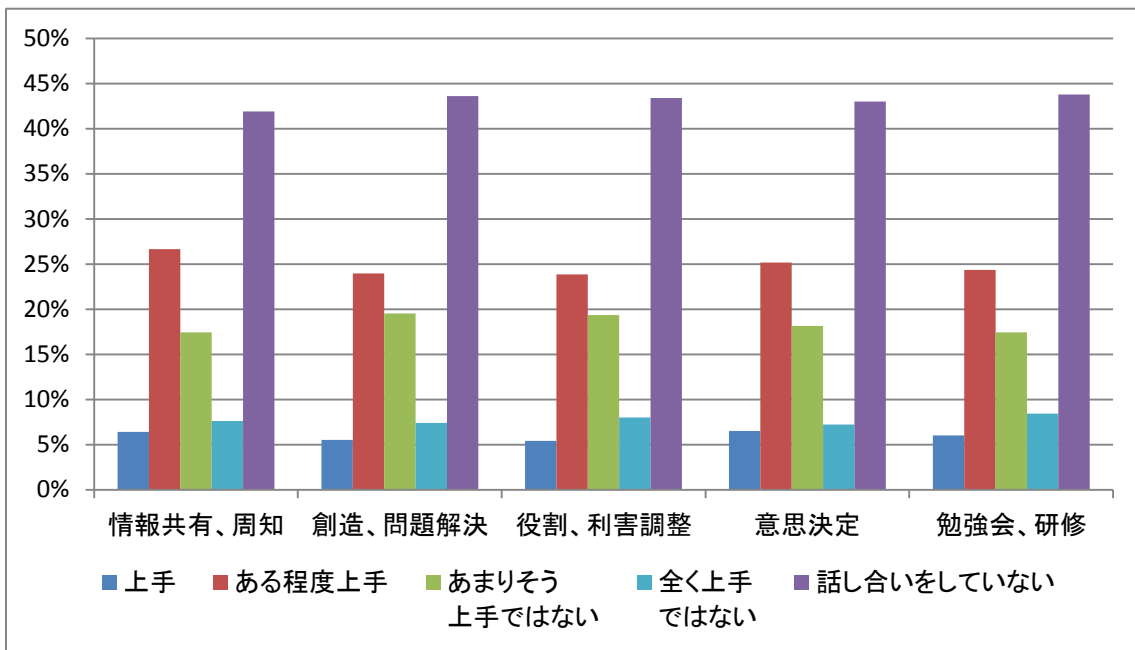


	全体	うまく運営されている	ある程度うまく運営されている	あまりうまく運営されていない	全くうまく運営されていない	そのような話し合いは行っていない
情報共有、周知	998	70	307	134	27	460
創造、問題解決	998	45	246	180	46	481
役割、利害調整	998	48	259	175	39	477
意思決定	998	70	263	156	40	469
勉強会、研修	998	64	257	160	41	476

どの会議も傾向は似ていますが、その中でも「情報共有、周知」の会議が他の会議に比べて、ある程度うまくいっている傾向が高いことがわかります。他の会議に比べて、議論する部分が少ないからともいえます。

また、全体の半分はそのような話し合いは行っていないということがわかりました。以降の問いについても同様ですので、以降の見解については、話し合いを行った中での傾向を分析しています。

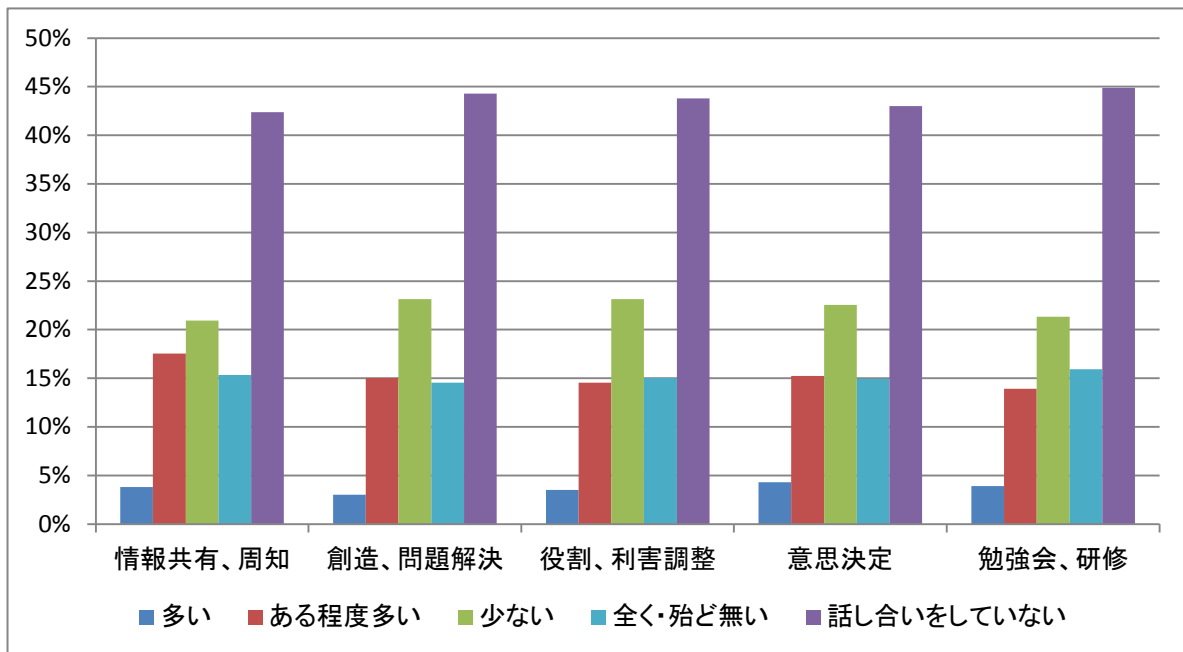
問2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか？



	全体	上手に進行できる	ある程度上手に進行できる	あまりそう上手に進行できない	全く上手に進行できない	そのような話し合いは行っていない
情報共有、周知	998	64	266	174	76	418
創造、問題解決	998	55	239	195	74	435
役割、利害調整	998	54	238	193	80	433
意思決定	998	65	251	181	72	429
勉強会、研修	998	60	243	174	84	437

どの会議も傾向は似ていますが、1と同様に「情報共有、周知」の会議が他の会議に比べて、ある程度うまくいっている傾向が高いことがわかります。

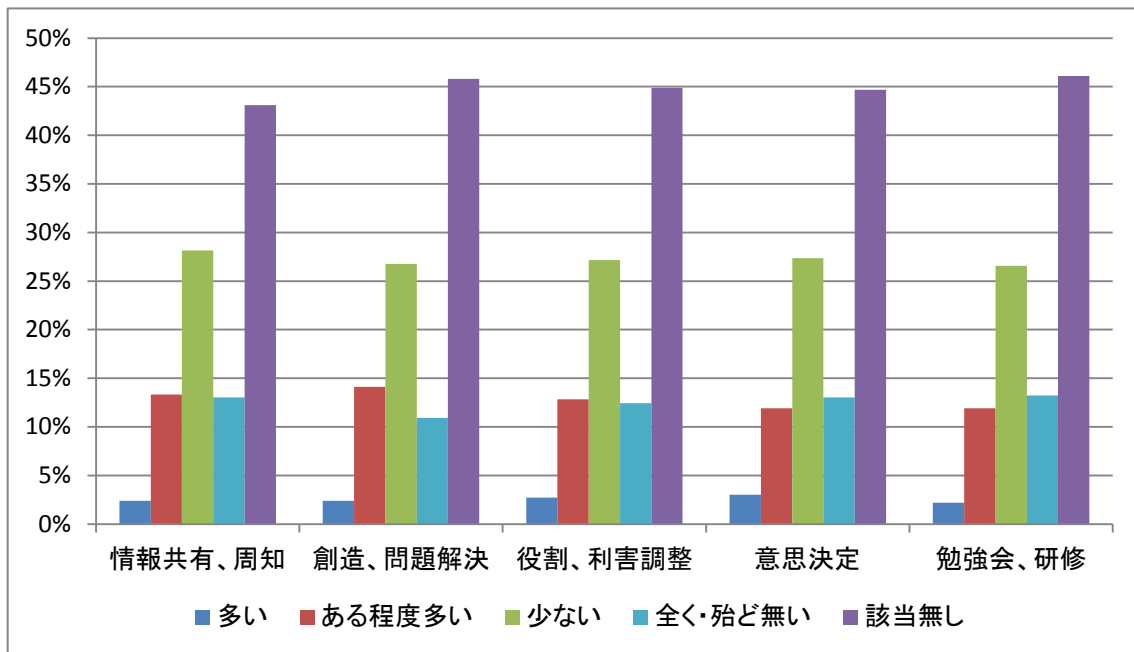
問3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか？



	全体	多い	ある程度多い	少ない	全く・殆ど無い	そのような話し合いは行っていない
情報共有、周知	998	38	175	209	153	423
創造、問題解決	998	30	150	231	145	442
役割、利害調整	998	35	145	231	150	437
意思決定	998	43	152	225	149	429
勉強会、研修	998	39	139	213	159	448

問2では、話し合い・会議の進行役を行うことが上手、という傾向が見られましたが、問3では話し合い・会議の進行役を実際に行うのは半分を大きく下回っていることがわかります。

問4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか？



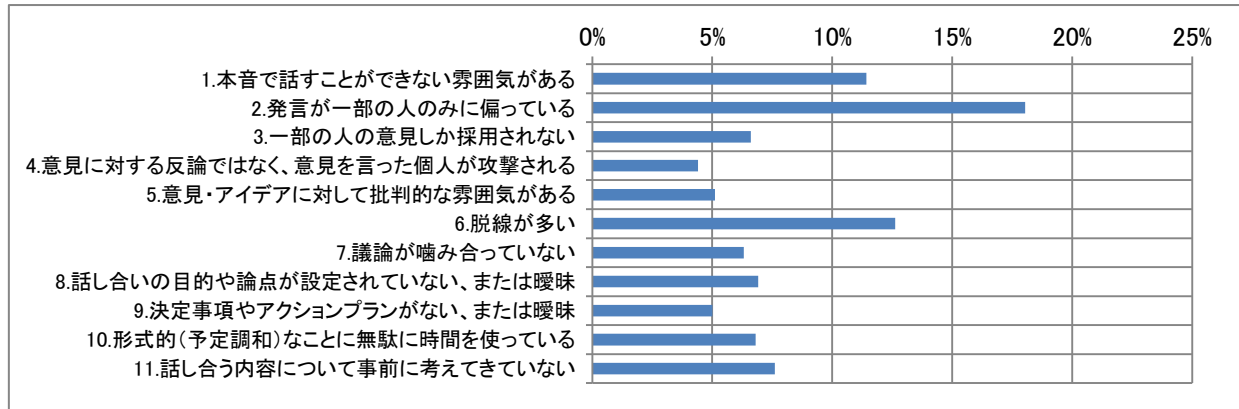
	全体	多い	ある程度多い	少ない	全く・殆ど無い	そのような話し合いは行っていない
情報共有、周知	998	24	133	281	130	430
創造、問題解決	998	24	141	267	109	457
役割、利害調整	998	27	128	271	124	448
意思決定	998	30	119	273	130	446
勉強会、研修	998	22	119	265	132	460

進行役ではなく参加した話し合い・会議では概ねスムーズに会議が進行したという回答が全体の半数を大きく超えていることがわかります。

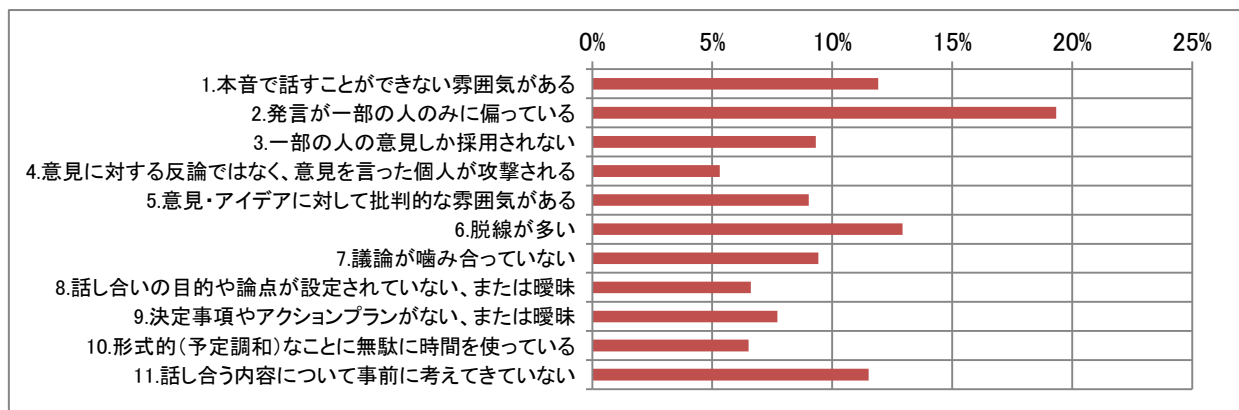
問5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか？
(5問まで選択式)

※「話し合いを行っていない」の数字はグラフからは外しています。

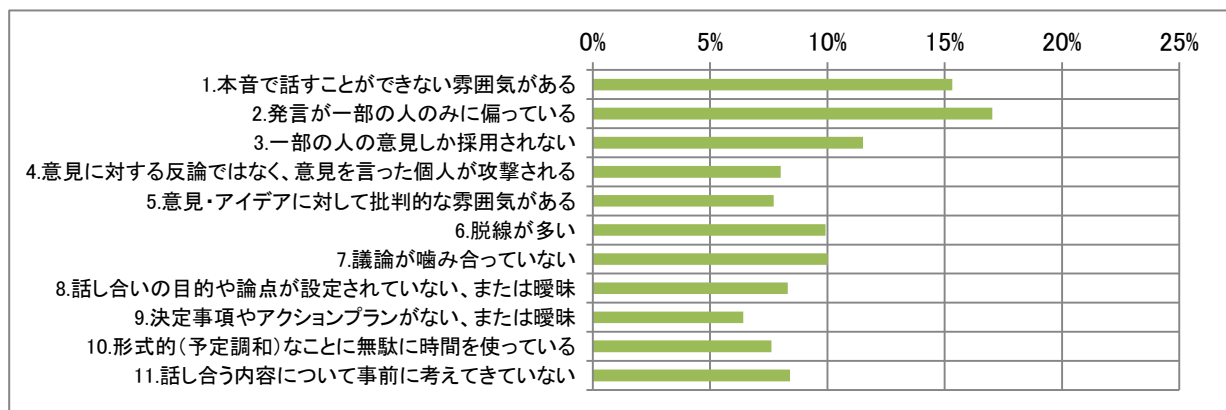
●情報共有・周知



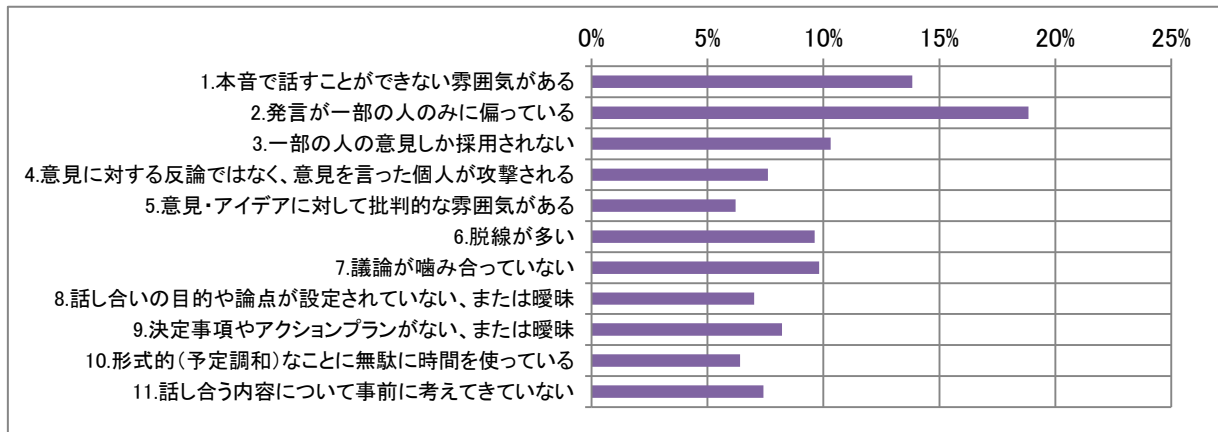
●創造、問題解決



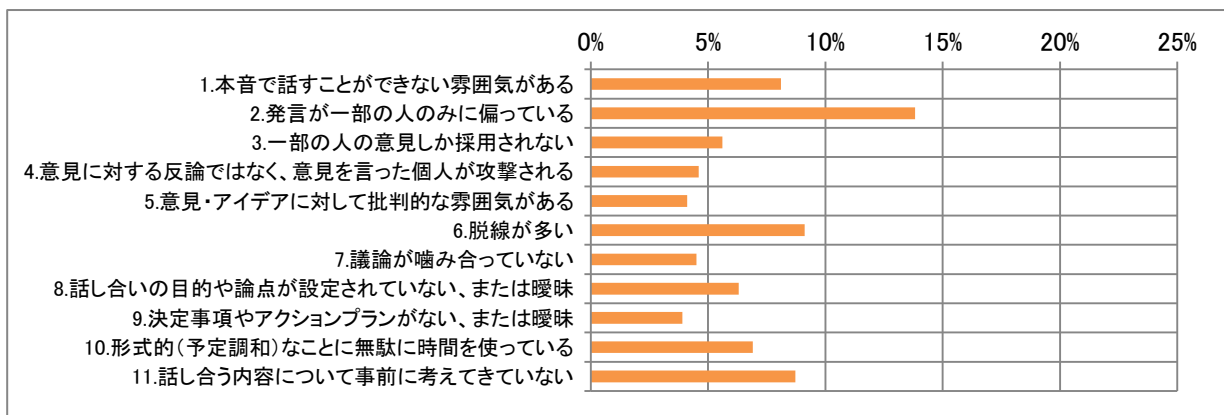
●役割、利害調整



●意思決定



●勉強会、研修



	情報共有、 周知	創造、問題 解決	役割、利害 調整	意思決定	勉強会、研 修
全体	998	998	998	998	998
1.本音で話すことができない雰囲気がある	114	119	153	138	81
2.発言が一部の人のみに偏っている	180	193	170	188	138
3.一部の人の意見しか採用されない	66	93	115	103	56
4.意見に対する反論ではなく、意見を言った個人が攻撃される	44	53	80	76	46
5.意見・アイデアに対して批判的な雰囲気がある	51	90	77	62	41
6.脱線が多い	126	129	99	96	91
7.議論が噛み合っていない	63	94	100	98	45
8.話し合いの目的や論点が設定されていない、または曖昧	69	66	83	70	63
9.決定事項やアクションプランがない、または曖昧	50	77	64	82	39
10.形式的(予定調和)なことに無駄に時間を使っている	68	65	76	64	69
11.話し合う内容について事前に考えてきていない	76	115	84	74	87
12.そのような話し合いは行っていない	505	514	508	503	549

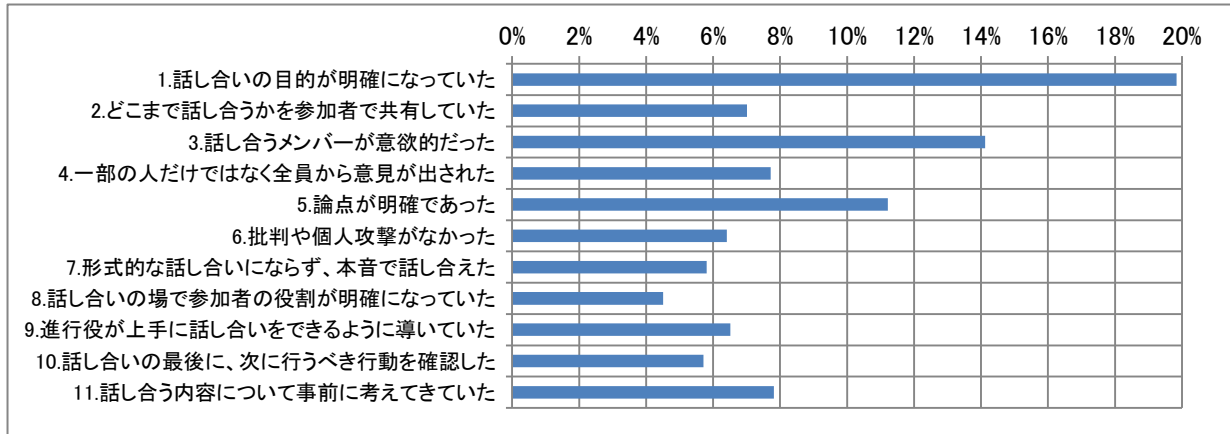
全体的な傾向としては、うまくいかなかった最大の原因は「発言が一部の人のみに偏っている」ということにあると考えていることわかります。

個別には、役割、利害調整の会議や、意思決定の会議で、「本音で話すことができない雰囲気がある」「一部の人の意見しか採用されない」という傾向が他の会議よりも高いことがわかります。

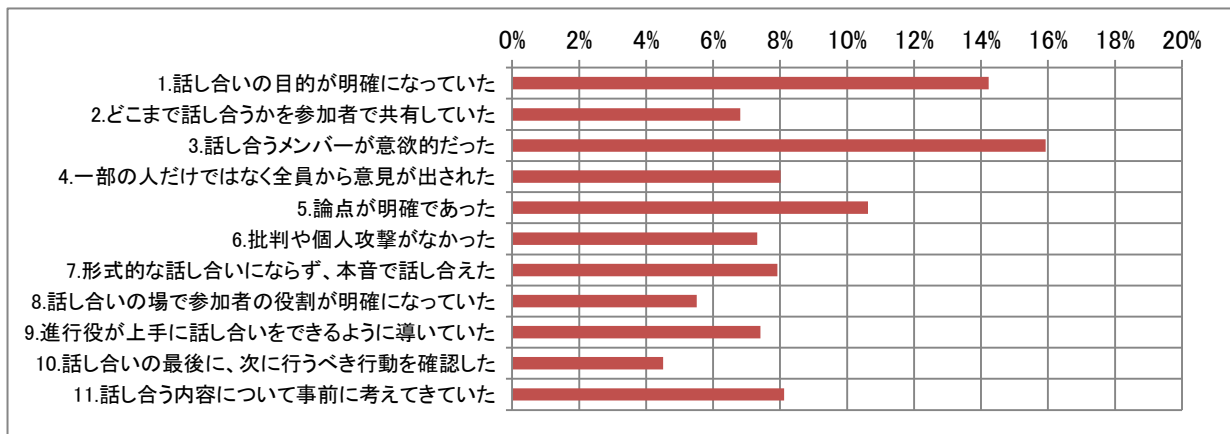
問6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか？
(5問まで選択式)

※「話し合いを行っていない」の数字はグラフからは外しています。

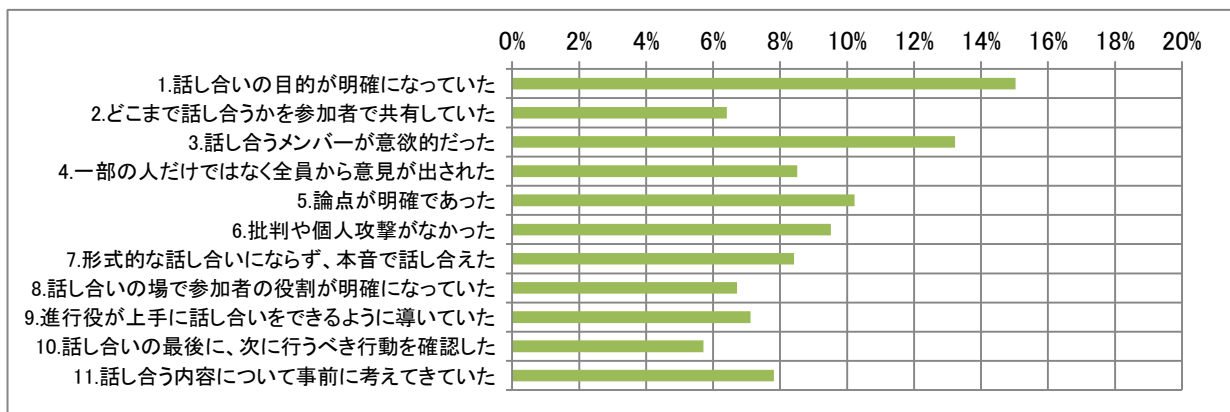
●情報共有・周知



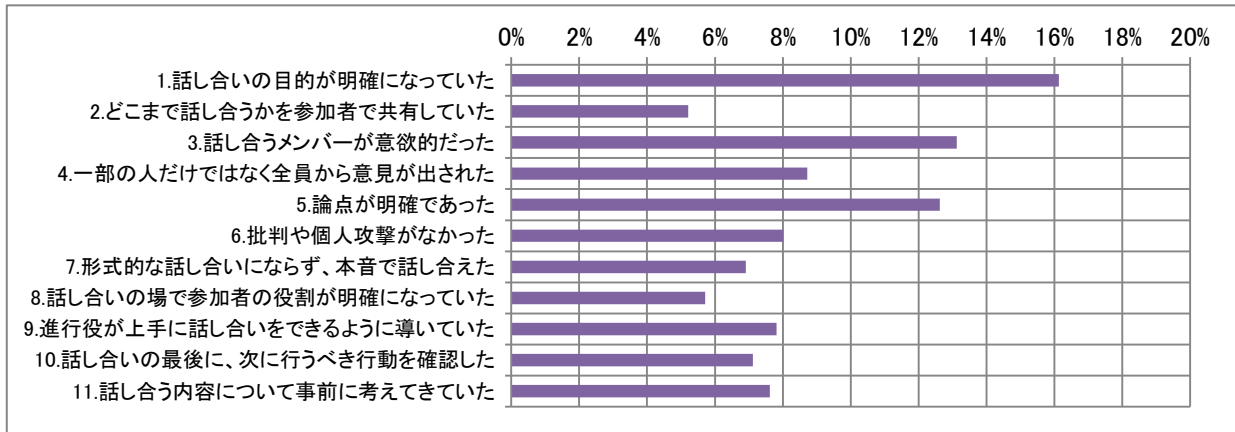
●創造、問題解決



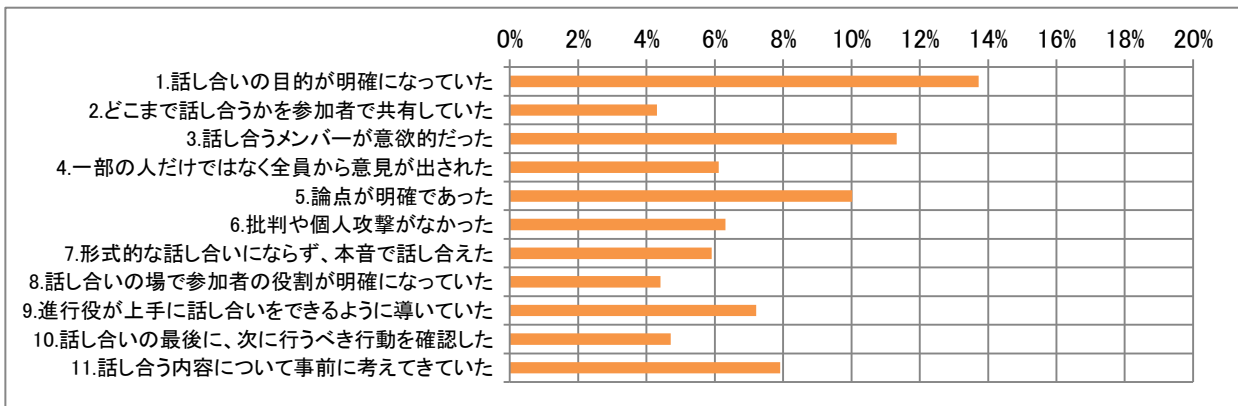
●役割、利害調整



●意思決定



●勉強会、研修



	情報共有、周知	創造、問題解決	役割、利害調整	意思決定	勉強会、研修
全体	998	998	998	998	998
1.話し合いの目的が明確になっていた	198	142	150	161	137
2.どこまで話し合うかを参加者で共有していた	70	68	64	52	43
3.話し合うメンバーが意欲的だった	141	159	132	131	113
4.一部の決まった人だけが発言するのではなく全員から意見が出された	77	80	85	87	61
5.論点が明確であった	112	106	102	126	100
6.批判や個人攻撃がなかった	64	73	95	80	63
7.形式的な話し合いにならず、本音で話し合えた	58	79	84	69	59
8.話し合いの場で参加者の役割が明確になっていた	45	55	67	57	44
9.話し合いの進行役が上手に話し合いをできるように導いていた	65	74	71	78	72
10.話し合いの最後に、次に行うべき行動を確認した	57	45	57	71	47
11.話し合う内容について事前に考えてきていた	78	81	78	76	79
12.そのような話し合いは行っていない	511	533	518	518	553

全体的な傾向としては、「話し合いの目的が明確になっていた」「話し合うメンバーが意欲的だった」「論点が明確であった」という3つのキーワードがうまくいった要因と考えられていることがわかります。

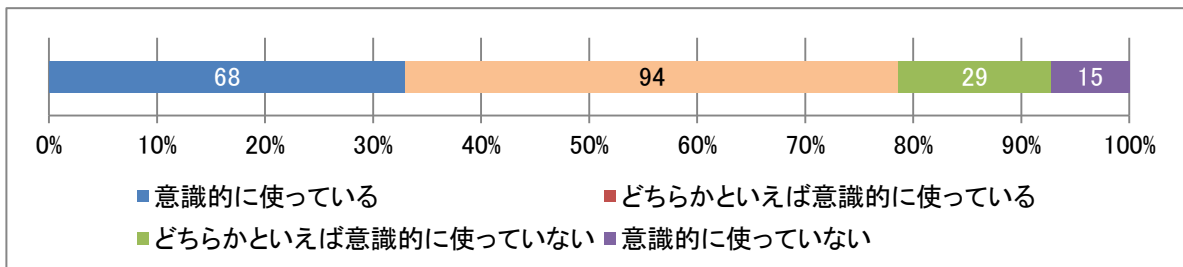
個別には、「創造、問題解決」の会議は他の会議と傾向が異なり、「話し合うメンバーが意欲的だった」ことが、他の要因よりも重要であると考えられていることがわかります。

2. 5 回答内容 調査3

●調査3の回答

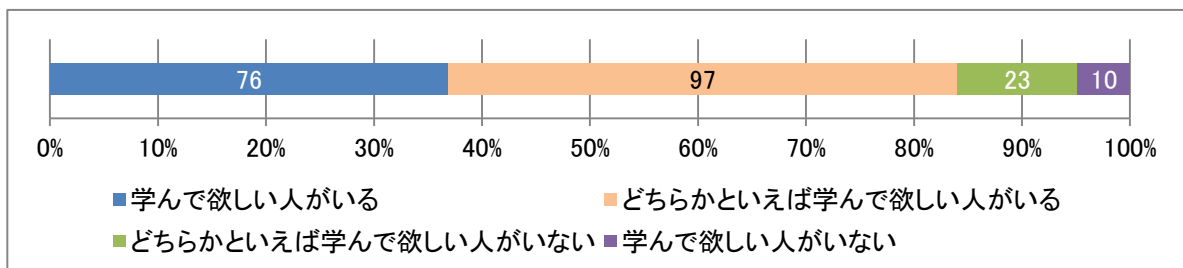
調査3は、調査1で、「ファシリテーションをよく使う、たまに使う」と回答された方を対象にファシリテーションに関するWEB アンケートを行いました。

問1. あなたはファシリテーションを意識的に使っていますか？



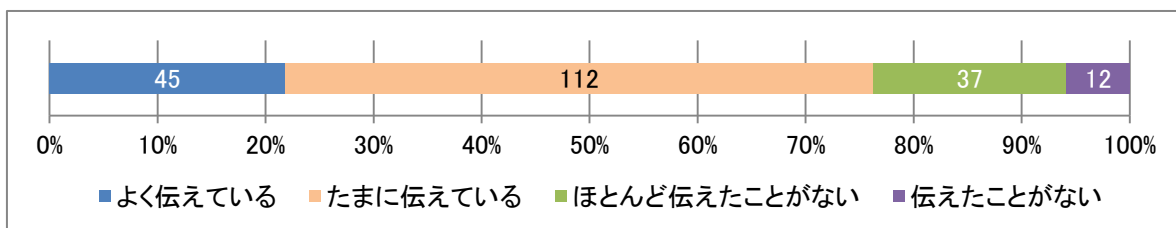
8 割弱の方が意識的にファシリテーションを使っていると思われています。

問2. あなたの周囲でファシリテーションを学んで欲しい人がいますか？



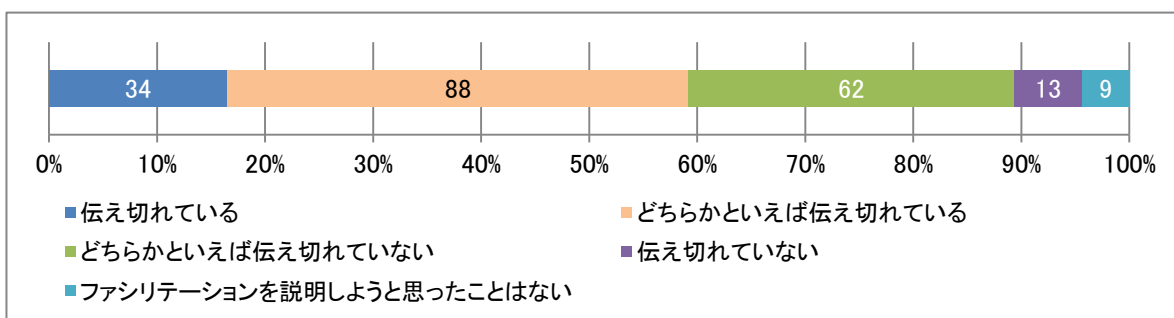
8 割強の方が、周囲にもファシリテーションを学んで欲しいと考えていることがわかります。

問3. あなたの周囲の人にファシリテーションについて伝えたことがありますか？



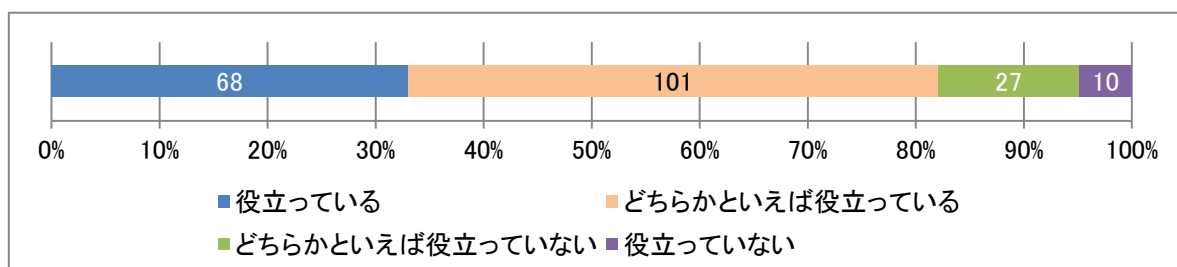
問2で、8割強の方が学んで欲しいと思っていると回答されましたが、伝えるという行為については7割5分程度と、若干下がっていることがわかります。伝えるのがそれほど容易ではないことがうかがえます。

問4. ファシリテーションを説明する際にうまく伝えられていますか？



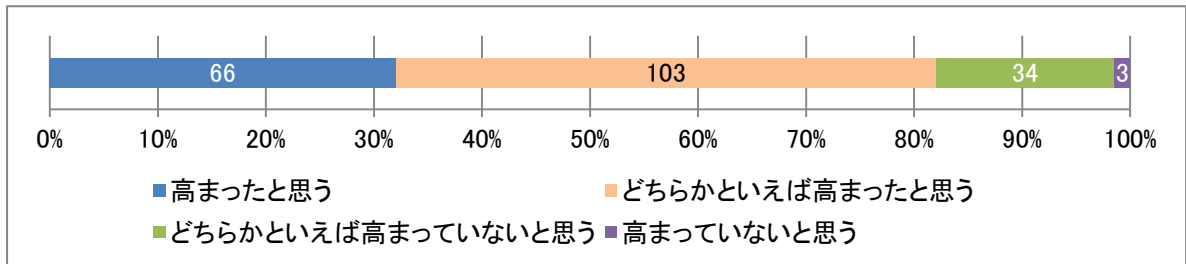
6割弱の方がうまく伝え切れていると回答しています。他のアンケート結果と比べてポジティブな回答が減っていることから、伝えるのが容易ではないことがうかがえます。

問5. ファシリテーションを学んだことが役立っていますか？



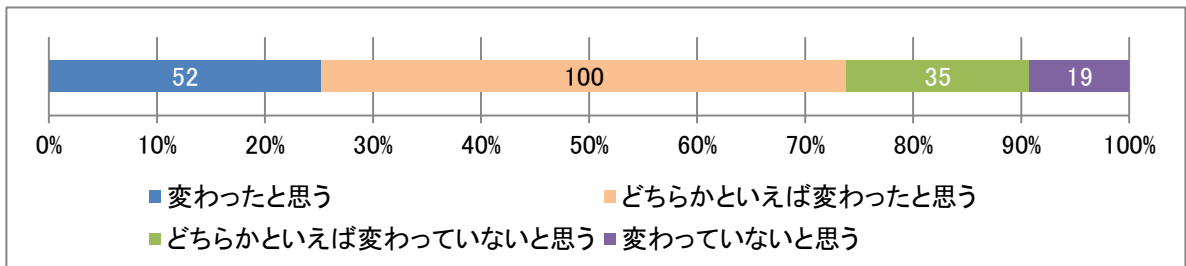
8割強の方が、ファシリテーションで学んだことが役立っていると考えていることがわかります。

問6. ファシリテーションのスキルは高まったと思いますか？



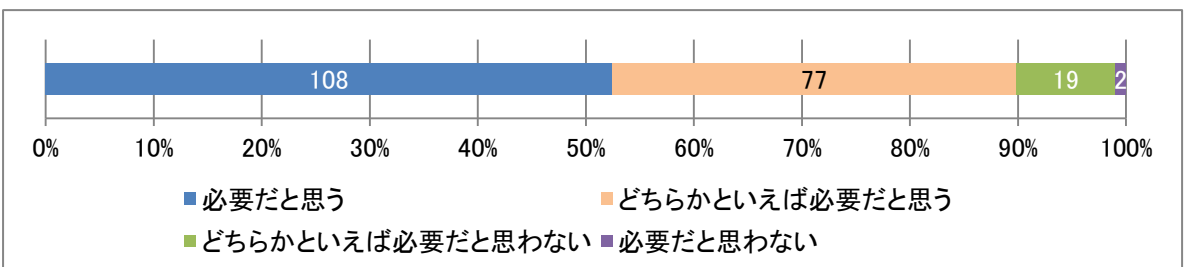
8割強の方が、ファシリテーションのスキルが高まったと感じていることがわかります。

問7. ファシリテーションを学んであなた自身は変わったと思いますか？



7割強の方が、ファシリテーションによって自分自身が変わったと感じていることがわかります。

問8. 今の社会や地域でファシリテーションは必要だと思いますか？



9割の方が、ファシリテーションは社会や地域に必要であると考えていることがわかります。

第3部 文献調査

3. 1 引用文献調査

●背景・目的

ファシリテーションという単語は徐々に社会に浸透しつつあり、ファシリテーション関連書籍のコーナーを書店で見かける事も少なくありません。学術分野でも武田(2012)は参画型共働学習の視点から、佐々木(2011)は教育分野におけるファシリテーターの視点から、野島(2000)はエンカウンターグループのファシリテーションという視点から、理論的考察を行い、ファシリテーションの研究を行っています。後述の3. 2では学術分野でのファシリテーションと題する博士論文の出版状況について調査を行いました。その他の分野における論文の発行状況や、文献の引用・参照の状況は十分に調査されていないのが現状です。

そこで、ファシリテーションを検索ワードに持つ論文の現状調査と、それらの論文の引用文献を調査いたしました。ファシリテーションが活用されている分野は様々であるため、引用・参照されている文献も多岐にわたると推測されます。引用文献の傾向や集中度を調査することで、その分野の鍵となる論文や書籍を見出すことで、ファシリテーションを学習・研究する者にとっての一助となることを期しました。

●調査方法

国内で発行された論文を調査するために、検索データベース「CiNii Articles (NII 学術情報ナビゲータ) <http://ci.nii.ac.jp/>」を用いました。Key Word「ファシリテーション」で抽出された論文の現状と、引用文献の傾向や集中度を調査いたしました。調査に際し、同一書籍中の一章が引用されている場合は各章を合わせて一つの書籍とみなしました。さらに、海外の書籍が翻訳出版されている場合、原著・翻訳書を合わせて一つの書籍とみなして分析を行いました。

●結果

検索結果を図1に示します。「ファシリテーション」で検索された論文は484件でした。「CiNii に本文あり、または連携サービスへのリンクあり」でフィルターをかけ、本

文の pdf データを取得できた論文は 116 件ありました。理学療法領域の「ファシリテーションメソッド」に関する論文は今回の調査趣旨から外れるため除外しました。最終的に引用文献が明記されていた 76 件の論文を調査対象としました(検索日 2014 年 3 月 30 日)。

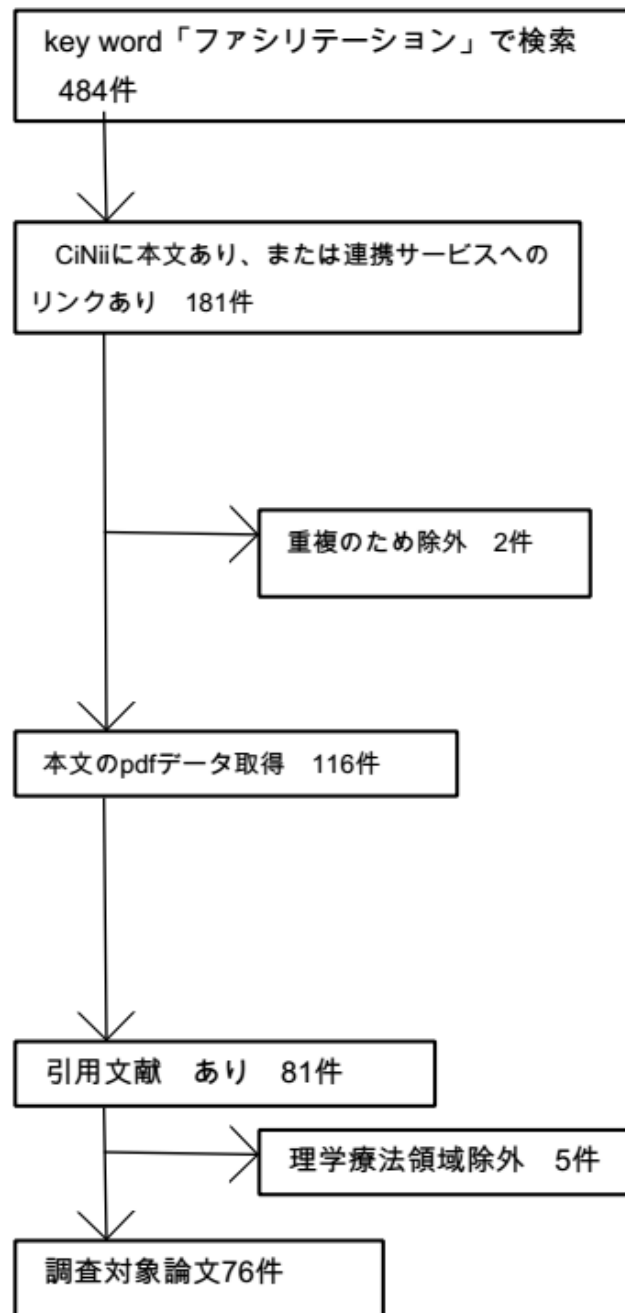


図1. 検索結果と調査対象

調査対象の論文の引用文献は、述べ 808 件でした。そのうち、複数の論文で引用された文献は 77 件でした。引用された論文が 3 以上の文献を表 1 に示します。表 1 に示される文献に対し、どのような引用が行われていたかを図 2 に示します。赤枠

で囲まれた番号は、Key word「ファシリテーション」で検索された論文、黒枠で囲まれた番号は、引用文献として抽出された文献です。相互引用が行われている領域と、引用頻度の高い文献に集約する領域があることが示され、文献の集中傾向を見ることができました。

表1. 被引用数別文献一覧

被引用数	引用番号	著者	書籍 論文	書名・論文タイトル	出版元・掲載誌	出版年度
12	1768	L.P.ブラッドフォード [ほか] 編;	書籍	感受性訓練：Tグループの理論と方法	日本生産性本部	1971
10	507	堀 公俊	書籍	ファシリテーション入門	日本経済新聞社	2004
9	373	中野 民夫	書籍	ファシリテーション革命：参加型の場づくりの技法	岩波書店	2003
7	1387	野島 一彦	書籍	エンカウンター・グループのファシリテーション	ナカニシヤ出版	2000
5	1456	堀 公俊・加藤 彰	書籍	ファシリテーション・グラフィック：議論を「見える化」する技法	日本経済新聞社	2006
5	1817	武田 正則・大迫 正弘	書籍	はじめてのAHP：analytic hierarchy process「階層分析法」	工学社	2008
4	123	大石 加奈子	論文	エンジニアリングデザイン教育を活性化するファシリテーション：話し合いの技術	工学教育	2008
4	382	Schwarz, Roger M. 著; 寺村 真美・松浦 良高 訳	書籍	The skilled facilitator : a comprehensive resource for consultants, facilitators, managers, trainers, and coaches (ファシリテーター完全教本：最強のプロが教える理論・技術・実践のすべて)	Jossey-Bass (日本経済新聞社)	2002 (2005)
4	1425	中野 民夫	書籍	ワークショップ：新しい学びと創造の場	岩波書店	2001
4	1800	武田, 正則	書籍	「問題解決力を高める参画学習	学事出版	2009
3	510	堀 公俊	書籍	問題解決ファシリテーター：「ファシリテーション能力」養成講座	東洋経済新報社	2003
3	515	木下 勇	書籍	ワークショップ：workshop：住民主体のまちづくりへの方法論	学芸出版社	2007
3	1365	森園絵里奈・野島一彦	論文	「半構成方式」による研修型エンカウンター・グループの試み	心理臨床学研究	2006
3	1369	Rogers, Carl R. 著; 畠瀬 稔・畠瀬 直子 訳	書籍	Carl Rogers on encounter groups (エンカウンター・グループ：人間信頼の原点を求めて)	Harper & Row (創元社)	1970 (1982)
3	1422	Rees, Fran 著; 黒田 由貴子 訳	書籍	The Facilitator Excellence Handbook: Helping People Work Creatively and productively Together (ファシリテーター型リーダーの時代)	Pfeiffer (プレジデント社)	1998 (2002)
3	1464	Johnson, David W. [ほか] 著; 杉江 修治 他 訳	書籍	Circles of learning : cooperation in the classroom (学習の輪：アメリカの協同学習入門)	Association for Supervision and Curriculum Development (二瓶社)	1984 (1998)
3	1468	Sharan, Yael・Sharan, Shlomo 著; 石田裕久 [ほか] 訳	書籍	Expanding cooperative learning through group investigation (「協同」による総合学習の設計：グループ・プロジェクト入門)	Teachers College Press (北大路書房)	1992 (2001)
3	1799	武田, 正則	書籍	教育現場の協働性を高めるファシリテーション実践学	学事出版	2011
3	1806	Schwarz, Roger M.	書籍	The skilled facilitator fieldbook : tips, tools, and tested methods for consultants, facilitators, managers, trainers, and coaches	Jossey-Bass	2005

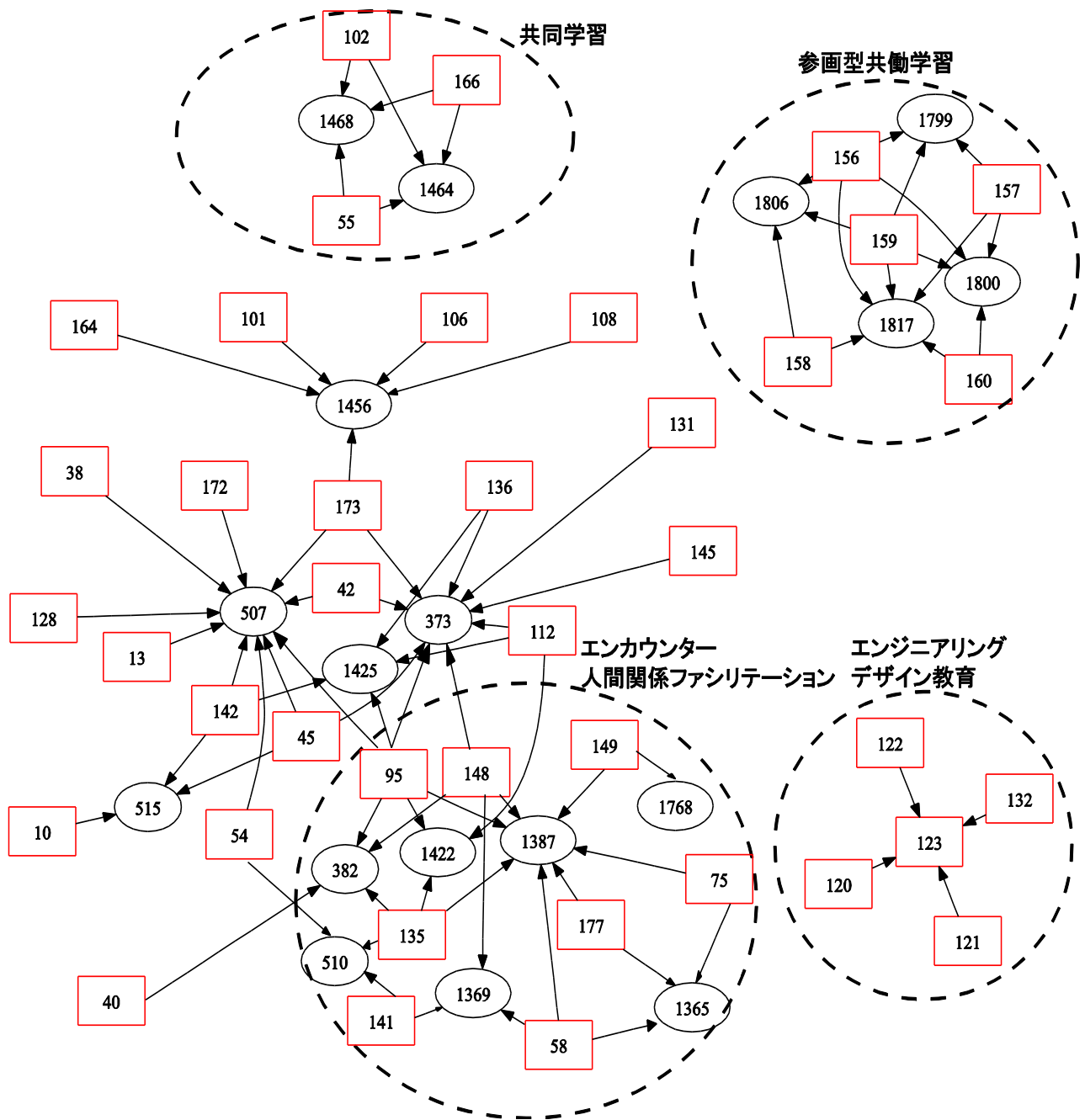


図2. 引用グラフ図(赤四角:調査論文、黒丸:引用文献)

●調査結果

Key Word「ファシリテーション」で検索した論文のうち、76件が引用文献を明記していました。しかし、そのうち19件は学会発表要旨であり、26件が大学年報や紀要に掲載されている論文であることを考えますと、ファシリテーションについて研究や実践が行われ、引用文献を示したうえで広く議論されている論文は論文全体の1割前

後といえます。検索段階で初めに抽出された論文の約 85%が調査対象から除外されたことから、ファシリテーションについて学術的に議論できる場がほとんどないと考えられます。

被引用文献の集中度からは、共同学習やエンジニアリングデザイン教育などの分野において文献が相互に引用されていることが示されました。しかし、同一著者が自著を相互に引用しているケースもあり、被引用文献数をもってその分野の鍵となる論文とは判断できないことが示唆されました。

被引用文献の傾向は、多くの分野で複雑に関連しているものの、エンカウンターグループや人間関係を扱う体験学習などのファシリテーションでは、一定の引用傾向が見られました。しかしながら、被引用文献の引用状況からは鍵となる文献と分野の関連性は認められませんでした。

鍵となる文献が見つからない理由として、佐々木(2010)も指摘している通り、「ファシリテーション」や「ファシリテーター」の定義が曖昧であり、体系化されていないことがあげられます。「ファシリテーション」の再定義を行い、体系化していくことは社会の共通理解を促し、ファシリテーションの普及につながると考えられます。

本調査の限界として、今回の調査では、Key word をファシリテーションとし、関連語は含めませんでした。ファシリテーター、ワークショップなどの単語を加えて検索を行うことで、より網羅的な調査を行うことができると考えられます。しかし、岡田の報告にもある通り、どのような基準で単語を加えるかに課題が残ります。

●結論

本調査ではファシリテーションで検索される論文の状況と、ファシリテーションが活用される分野ごとに鍵となる文献の有無を調査しました。調査対象の 76 件の論文からは、複数の論文から引用されている文献があることが示されました。しかし、引用の傾向はみられるものの、鍵となる文献の提示には至りませんでした。今後、ファシリテーションが社会に認知され普及するためには、「ファシリテーション」という用語の定義・体系化を促進すること、引用文献を明示したうえで、ファシリテーションについて研究・報告された文献が増えること、それぞれの学問領域で原著論文が発行され、活発な議論がなされることなどがあげられます。

●参考文献

佐々木英和. (2011). ファシリテーター概念に関する理論的考察:ファシリテーション実践の体系的把握につなげるための覚書. 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 34, 129-136.

武田正則. (2012). 参画型協働学習におけるファシリテーションに関する理論的背

景. 教育情報研究: 日本教育情報学会学会誌, 27(4), 17-28.

野島一彦. (2000). 日本におけるエンカウンター・グループの実践と研究の展開:
1970-1999. 九州大学心理学研究, 1, 11-19.

3. 2 博士論文出版状況調査

●はじめに

昨今、ファシリテーションという言葉を目にすることも多くなり、徐々に社会に浸透しつつあります。ファシリテーションに関連した本も出版され、2008年度版ファシリテーション白書、また本白書で、ファシリテーションに関連する書籍の出版状況についての調査がされていました。

前回の白書から6年が経過し、関連書籍は増加しているように思いますが、この6年間でファシリテーションに関連する学会が設立されたわけではないので、ファシリテーションの学術論文が増加しているのか不明のままです。

そこで、今回は、ファシリテーションが学術の分野にまで浸透しているかどうかの目安としてファシリテーションに関連する学術論文の出版状況を調査することにしました。全体の文献調査については、3.1の報告に記しました。本章では、日本国内でファシリテーションと題した博士論文の出版状況を調べ、ファシリテーションが普及しているかどうかの示唆を得ることにしました。

●方法

日本国内の大学で出版された博士論文は、国立国会図書館に所蔵されることを利用し、「国立国会図書館サーチ」(<http://iss.ndl.go.jp/>)を用いて、日本国内の大学で出版された博士論文の出版状況を調べました。キーワードは「ファシリテーション」を用いました。フィルターは、記事・論文検索と国立国会図書館蔵書でフィルターをかけました。

調査内容は、著者名、発行年、論文タイトル、論文種別(博士論文)、学位名、学位授与大学です。

●結果

検索結果を表1に示します(検索日2014年5月23日)。ファシリテーションと題した博士論文は8件抽出されました。発行年は90年代が1件、2000年～2009年が2件、2010年～2014年5件でした。学位は、教育心理学が2件、その他は1件ずつでした。学位授与大学は、九州大学が4件、その他は1件ずつでした。

●考察

博士論文の出版状況を調べた結果、全部で8件が抽出されました。そのうち1件の論文タイトルが「薬物によるhERGチャネルファシリテーション作用の解析とファーマコフォアモデル構築」というタイトルでしたので、この調査の趣旨に該当する内容には当たらないと判断し、全部で7件が抽出されました。

発行年は、2010年以降が4件であり、2010年以前はファシリテーションに関連する学位論文がほとんどなかったことを示しています。

学位の種類に関しては、教育心理学が2件、他は、心理学、教育学、学校教育学、人間環境学、国際協力学であり、概ね、人文社会科学系の学位でした。学位取得分野が、特定の領域に集中していないのが特徴であり、ファシリテーションの専門家養成機関が国内の大学には少ない現状を示している可能性もあります。

学位授与大学名は、九州大学が4件であり、その他は1件ずつでした。九州大学が過半数を占めていましたが、4件の内、学位取得分野は、教育心理学、人間環境学、心理学と多岐に渡っており、特定の教員が指導して、学位取得に至ったわけではない可能性も考えられます。

本調査の限界として、キーワードを「ファシリテーション」としたため、今回の調査結果は、あくまでファシリテーションと題する博士論文の調査であって、ファシリテーションに関連する博士論文調査ではありません。ファシリテーションに関連すると考えられる博士論文はいくつか出版されている可能性が考えられますが、どのような基準をもってファシリテーションに関連している論文と見なすかが難しいという問題もあり、今後の調査課題となりました。

いずれにせよ、日本国内でファシリテーションと題する博士論文が今までに8件しかないという現状は、ファシリテーションを専門とする研究者養成機関が日本国内にほとんどないと言わざるを得ません。専門家を養成できなければ、大学でファシリテーションと冠した講義も非常勤講師に頼ることになります。さらには、専門家がいないと学術論文も出版されないため、学会を設立することも難しい状況です。

今後、ファシリテーションを普及するためには、日本国内の大学にファシリテーションの必要性を感じてもらい、大学内に講義の枠を作ること、専門家を養成する大学院の設立を訴えていくことなどが挙げられます。

●結論

日本国内で出版されたファシリテーションと題する博士論文を調査した結果、8件の論文が抽出されました。その中で本調査の趣旨に合う論文は7件でした。この結

果が示している現状は、日本国内にはファシリテーションを専門とする研究者養成機関がほとんどないと言わざるを得ません。

表1 国立国会図書館サーチで検索したファシリテーションと題する博士論文一覧

著者	発行年	タイトル	論文種別	学位	学位授与大学名
野島一彦	1998	エンカウンター・グループの発展段階におけるファシリテーション技法の体系化	博士論文	教育心理学	九州大学
中田行重	2001	研修型エンカウンター・グループにおける問題意識性を目標とするファシリテーション	博士論文	教育心理学	九州大学
安部恒久	2004	既知集団を対象としたエンカウンター・グループに関する研究：看護学生のグループ事例によるグループ・プロセスの明確化とファシリテーション技法の提示	博士論文	人間環境学	九州大学
Pitagan, Ferdinand Blancaflor	2010	The implications of collaborative grouping, learners' gender and facilitation leadership on interaction and cognitive engagements in asynchronous online discussion	博士論文	教育学	国際基督教大学
石田洋子	2010	技術協力プロジェクトにおける途上国行政官の主体的参画支援手法の開発：プロジェクト・ファシリテーション&モチベーション・モデルの構築	博士論文	国際協力学	東京大学
渡辺一洋	2011	保育者養成のための造形ワークショップによる学びに関する研究：ファシリテーションモデル構築による力量形成の実践的検討	博士論文	学校教育学	兵庫教育大学
中地展生	2012	不登校児の親グループに関する臨床心理学的研究：家族システムの変化とグループによる援助効果を視野に入れたファシリテーション	博士論文	心理学	九州大学
山川祐子	2012	薬物によるhERGチャネルファシリテーション作用の解析とファーマコフォアモデル構築	博士論文	保健学	大阪大学

3. 3 出版状況調査

●調査概要

タイトルに「ファシリテーション」「ファシリテータ」「ファシリテーター」とある書籍の点数をカウントしました。調査対象は、紀伊国屋 WEB とアマゾンです。期間は 2008 年から 2013 年末までに出版された書籍です。

●考察

前回、2008 年版ファシリテーション白書の出版数推移の内容と合わせて考察しますと、

- ・2008-2013 年で総計 61 点ありました。前回調査 2000-2007 では総計 46 点でしたので一年あたりの出版点数は増加傾向といえます。
- ・タイトルのみキーワード抽出しましたが、それ以外にもファシリテーション関連の本が調査中に多く見受けられました。
- ・出版内容を見ると、教育、医療、ビジネス、社会の分野と幅広く出版されていて、ファシリテーションの応用範囲が広いことが伺えます。

●発刊状況

横軸が発刊年、縦軸が発刊点数になります。詳細については付録 B を参照してください。

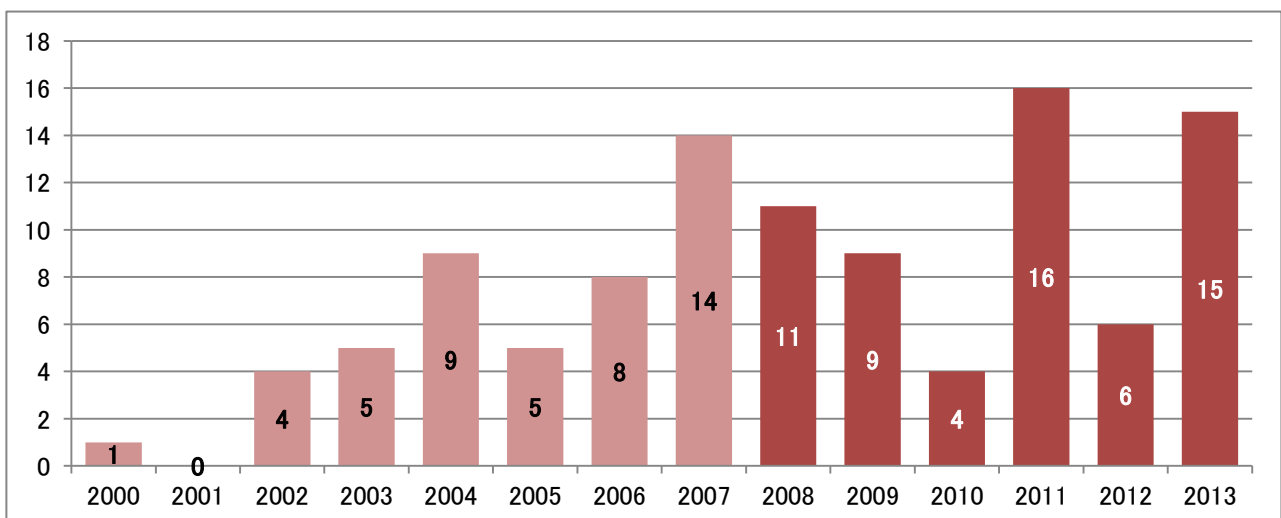


図 1 2000-2013 年までの該当タイトルの出版点数

第4部 地域活用調査

4. 1 地域活用事例調査

ファシリテーションの普及を進めていく際に、「それぞれの現場」で主体的にファシリテーションを活用していくことが、有効と考えられます。このため、今年度の白書では、各地域で話し合いの活性化や課題解決などに効果を示している事例を調査しました。

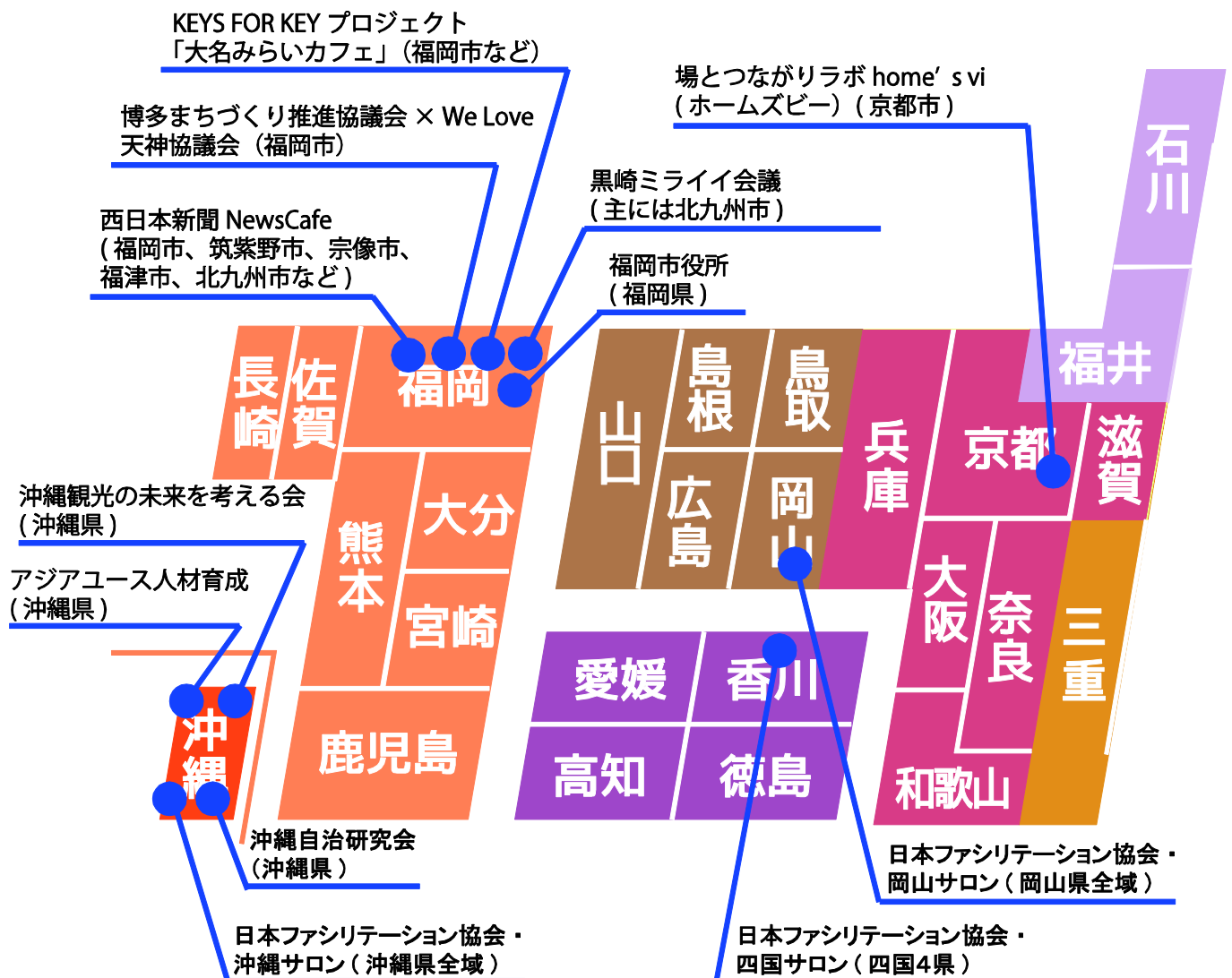
統計的に事例を探索することは困難であるため、日本の各地域で様々な活躍をしている方々に事例の紹介を依頼することで、適切な事例を抽出することとしました。抽出した事例には、地域の活性化等を図るための武器としてファシリテーションを活用しているものや、ファシリテーション自体の普及を目指すものなど、多様なタイプがあります。

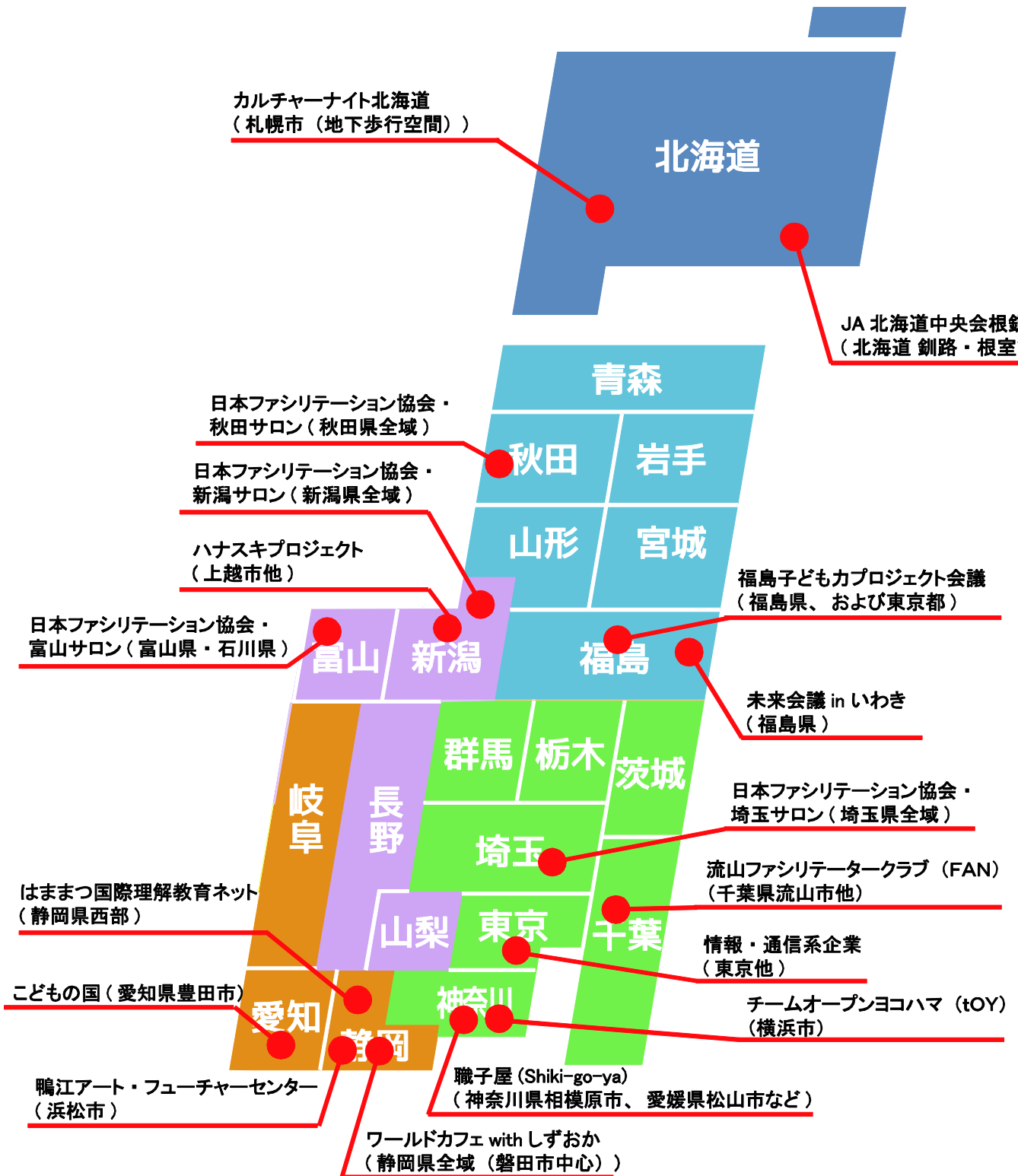
本白書を読まれた方々が、具体的な事例を通じて「ファシリテーションを活用してどのようなことができるのか」を理解し、自らの活動展開や社会変革を進めていく際の参考にしていただけると幸いです。

なお、本調査の紹介者にFAJの会員が多かったことから、FAJの活動と関わりの深い事例が中心になっています。FAJ以外の活動グループやコミュニティが取り組んでいる様々な活動にもいっそう光をあて、ファシリテーションの視点から事例を整理するという点は当調査の今後の課題であるといえます。

●全国に広がる地域での活用事例

地域活用調査を行った地域について、日本地図上に記しました。





主な活動地域	団体名・チーム名	活動の目的・内容・特徴	団体協力者
北海道 釧路・根室管内	JA 北海道中央会 根釧支所	釧路・根室管内の JA 並びに生産者(JA 青年部員・女性部員)へのファシリテーションの普及と、ファシリテーションを活用した対話活動や組織運営の活性化・イベント運営の円滑化を行う。	事務所は 7 名 中心は 1 名
北海道札幌市(地下歩行空間)	認定 NPO 法人 カルチャーナイト北海道	カルチャーナイトでは、毎年 7 月下旬の金曜日夜、札幌市内の企業や公共の文化施設等を活用し、様々な文化的なイベントが開かれている。このカルチャーナイトが 2012 年に 10 周年を迎えたのを機に、関係者がその未来について自由に語り合える場をつくり、出てきた様々な意見を、今後の運営の参考にすることを目的に、ワールドカフェ ¹ を実施した。	同法人の主要メンバーは 1 名 カフェ参加者 32 名
秋田県全域	日本ファシリテーション協会・秋田サロン	月に 1 度(第三木曜日の夕刻)に定例勉強会開催している。テーマを決めて話し合いやファシリテーションスキルに関することを学ぶ。定例会のメインファシリテーターは、立候補制としている。また、役所等から依頼をされた研修等を実施している。	登録 31 名、 毎回参加は 10 名以上 運営部は 5 名
福島県、および東京都	福島子どもカププロジェクト会議	公益財団法人東日本大震災復興支援財団は、3.11 以降、2011 年 4 月より、おもに福島県を活動地域として、その復興の、とりわけ子どもの育成に関する活動を資金的に支援してきた。その支援対象団体が自ら支援資金の最適な再分配を話しあえるような会議体を、と設置した。支援対象団体が相互交流の中で、自らのあり方を考える「震災 3 年後の思い直しの場」でもあった。	運営スタッフ 3 名 関係団体 15 団体
埼玉県全域	日本ファシリテーション協会・埼玉サロン	「埼玉周辺でファシリテーターの仲間を作ろう!」という言葉で合言葉に活動をしている。「埼玉だから」という例会参加理由も多く、地域密着で小回りの効くところにワクワク感を感じている。	12 名(2013 年 6 月現在)のメンバーで運営

¹ カフェにいるような気楽でオープンな対話が良い成果を産み出す、という考えに基づいた対話の手法

主な活動実績	活動展開の経緯	参照情報
2013 年度事例として、釧路・根室管内の JA や生産者組織でのグループワーク ² において、ファシリテーターやファシリテーション研修の講師としての対応を行った。	2011 年度よりJA青年部・女性部事務局担当職員を対象としたファシリテーション研修やグループワーク、全道の青年部員を対象にしたファシリテーション研修やグループワークも依頼を受け、対応してきた。	
運営方法や「問い」の立て方等について、討議を重ね運営に当たった。カルチャーナイト事務局では、テーブルクロスに書かれた情報などを整理し、参考資料として活用した。	カルチャーナイト事務局には、これからの 10 年を見据え、参加者や運営スタッフの意識を知りたいという要望があった。その吸い上げも主要な目的のひとつとして、ワールドカフェが実施された。	http://www.culture-night.com/
<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会は、2014 年 3 月まで 20 回以上定期的に開催し、参加人数はのべ 200 名となった。 ・市や地域NPO等からの依頼に基づき、研修や会議支援を 4 回実施(2013 年実績) 	<p>22012 年 5 月:ファシリテーションについて、実践して学ぶ場としてファシカフェ部を定期開催開始した。</p> <p>2014 年 2 月:FAJ 会員 2 名になったところで秋田サロンとしての認定申請作業をはじめた。</p> <p>2014 年 4 月:正式にFAJのサロンとして認定</p>	https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=3817
これまで財団への助成申請実績があり、かつ、活動に高い質を現出してきた団体 17 団体に声をかけ、福島および東京にて、対話的な会議を開催した。会議にあわせて受益者意識調査も実施した。これまでの活動に省察を加えるホールシステム・アプローチ ³ の手法を用いて、対話と議論を重ねた。	3.11 から 3 年の時間を経て、よりよい子ども育成活動と長期にわたる復興活動のための新しい復興支援のあり方を模索する必要があり、プロジェクトが立ち上がった。弱者支援では解決できない局面にあって、利害関係者である支援者受援者双方が、支援資金配分すら自ら話しあう、新しい支援プロジェクトのスタイルが誕生した。	http://minnade-ganbaro.jp/katsudou/project/fkp/
<p>2ヶ月に一度のペースで9回の定例会を実施して来た。現在は 3 ヶ月に 1 度のペースで例会を行っている。埼玉周辺(東京、神奈川、群馬、千葉など)のファシリテーションに興味のある方と交流の場を作っている。</p> <p>2014 年は埼玉県内の行政職員の方や越谷市民の皆様にファシリテーションの勉強会を実施している。</p>	埼玉サロンはFAJの東京支部内に 2011 年に発足した任意チーム「埼玉分会」を前身としている。2013 年に正式に埼玉サロンとしてFAJに承認され、同年 6 月に第一回例会を開催した。	https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=3100

² グループで共同作業を行い、メンバー間相互の影響を受け、個人が成長するプロセス

³ 関係するメンバー全員が一堂に会し、自分たちの課題や目指したい未来について話し合う大規模な会話の手法

主な活動地域	団体名・チーム名	活動の目的・内容・特徴	団体協力者
東京他	情報・通信系企業 (従業員・4,607人)	当企業では、複数の部門・職能の人間が集い、自分達自身で判断し高速でプロダクトアウト ⁴ を行うプロダクション体制が推奨され、小グループでの対応の必要性や要求が高まっていた。そのため、プロダクション組織を外部から直接間接的に支援できる人材をそろえたチームを発足。社内コーチ・ファシリテーターとしてプロダクション部門の指導・支援を行っている。	
新潟県全域	日本ファシリテーション協会・新潟サロン	「人と組織がイキイキわくわくする新潟をつくります！」というミッション ⁵ に基づき、「ファシリテーションを通じて、仲間づくり、情報交換、体験の場のキーステーションになる。」というビジョン ⁶ の実現に向け活動をしている。	運営メンバー18名、参加者は各回20名程度(運営メンバー除く)
新潟県上越市 ／妙高市／十日町市／魚沼市	ハナスキプロジェクト (地域NPOと共催する社会人の為の学びの場づくり)	ファシリテーションを学ぶ機会がほとんどない4市において、各地のNPOと共催し社会人向けの勉強会を毎月開催している。ファシリテーションを強調せず、「話し合いのスキル」と言い換えることで、敷居を低くしている。	協力団体は、くびき野NPOサポートセンター、ゆめきゃんぱす、市民活動ネットワークひとサポ他
静岡県全域(磐田市中心)	ワールドカフェ with しずおか	Seed of Happiness Projectとして「対話で繋ごう心と心」を合言葉に、個人の「経験」「知識」「知恵」を尊重し、対話による「共感」「繋がり」「わかち合い」を体験する場を作っている。目指しているのは、誰もが能力を発揮し、尊重しあえる社会づくり。旬な話題や生活全般をテーマに、対話している。	登録35名、実質15名

⁴ 市場ニーズを優先するのではなく、「自らが作りたいものを作る」という意識で商品を作り出すこと

⁵ 個人やグループに与えられた、果たすべき役割、使命、任務

⁶ ある時点までに「こうなっていたい」と考える到達点、ゴールイメージ

主な活動実績	活動展開の経緯	参照情報
<p>・直接・間接従事型として、2013年から役員も巻き込んだインタビュー・合宿等により、「ファシリテーション型開発スタイル」の導入、「企画書・プロジェクト憲章」作成などを支援している。</p> <p>・ワークショップ提供型として、月に1回程度のファシリテーション・ミニワークショップ等を継続的に実施している。</p>	<p>定期的に外部研修会社による「ファシリテーション講座」も行っているが、さらに頻度多く、より業務に身近な話題や社内ならではの課題に対応するファシリテーションスキル向上プログラムのニーズが高まっていた。FAJ 東京支部有志の活動「みんなのファシリテーション」の協力も得て、ワークショップを試行。2014年、社内講師講座として月1回頻度で定期開催継続中。</p>	<p>FAJ 東京支部</p>
<p>「多様性を認め合い、継続的にお互いを高めあおう！」というバリューに従い、概ね1ヶ月に1回の例会を、新潟市・長岡市など県内各地で開催している、ただし冬場は冬眠し、1年の振り返りと翌年度の事業計画等を話し合う。</p>	<p>Facilitation Niigata 愛称 Fanii</p> <p>2007年から県内4人のFAJ会員が集まって準備を開始し、自主勉強会を重ねて賛同者を募り、2010年の春に晴れて「新潟サロン」となった。</p>	<p>https://www.faj.or.jp/modules/content/index.php?content_id=1318</p> <p>公開 Facebook</p> <p>https://www.facebook.com/fajniigata</p>
<p>参加者の職業は、会社員、会社役員、福祉施設職員、主婦、自営業、教員、市民活動家、NPO スタッフ、公務員、市会議員、学生様々な立場、職業の方が集まっている。各地域の参加者は平均 15～20 人。</p>	<p>県都新潟市から離れている上越地域、魚沼地域でのファシリテーションの普及と地域で根ざした「支援型リーダー」の養成を目指し、各地の市民活動支援団体と共催して進めている。</p>	<p>http://kachi-labo.com/</p> <p>(吉崎氏 HP)</p>
<p>月に一回の体験会などを開催するほか、要望に応じての企画開催をしている。</p> <p>以下は活動例。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、企業代表及び労務担当者向け「ワークライフバランスについての交流会」 ・社会福祉協議会にて「みんなが主役の懇談会のつくり方」 ・2011年5月よりカフェプランナー⁷養成講座開始 	<p>2010年「無縁社会」という言葉が流行語になったが、お年寄りだけでなく、若者、家庭、社内でも起きていると感じていた。こういった孤独感を解消できる場所を作って行きたいと、ワールドカフェを体験する場に参加。そこで感じたワールドカフェの可能性を、多くの方に知ってほしいと、2011年1月より体験会を開始した。</p>	<p>https://www.facebook.com/Worldcafe.with.shizuoka</p>

⁷ ワールドカフェのプランナー(企画者)のこと

主な活動地域	団体名・チーム名	活動の目的・内容・特徴	団体協力者
主には静岡県西部。	はままつ国際理解教育ネット	世界中の人々が共に生きることのできる公正な地球社会を目指す。そのための手段として、参加型学習 ⁸ を通じて人権・環境・平和・多文化 共生など、人類共通のさまざまな課題を知り、理解し、そして解決に向けての行動を起こす力を育む国際理解教育(開発教育)を実践・普及する。	約 20 名
浜松市	鴨江アート・フューチャーセンター	「浜松市鴨江アートセンター」に新たな発想を喚起する創造的なまちづくり装置としての、フューチャーセンター ⁹ 機能があってほしいと考えた市民の声かけによって始まった活動。歴史的建造物でアートにかかわるフューチャーセッション ¹⁰ などを開催し、多様な人々が対話を通じて社会的な課題を解決する場とそれを運営するチームをつくりたいと考えている。	登録者 63 名
富山県、石川県等	日本ファシリテーション協会・富山サロン	「間口は広く、敷居は低く」がモットー。「話し合い」に関心のある方ならどなたでも、ご参加いただくことが可能。参加者に常に新しい気づきがあるよう、スキルの向上とさらなるファシリテーションの普及、そして仲間同士の繋がり拡大へともに学び頑張っている。	運営委員 30 名、参加者は平均 20～40 名
愛知県豊田市	こどもの国	青少年に対して多文化共生を支援することにより、人材育成、人権擁護に寄与することを目的に1998年より活動を開始し、2001年 NPO 法人として設立された。豊田市保見団地在住の来日外国人の子弟を対象に学習支援事業、社会参加の促進をはかる事業等を参加者を巻き込みながら行っている。	理事 6 名、監事 2 名、会員約 60 名
岡山県	日本ファシリテーション協会・岡山サロン	地域で話し合いに関心のある方々が、集って研鑽をしている。参加者は、サラリーマン、士業、研修講師、主婦、行政職員、NPO 関係者、学生等、多様である。	運営委員は 8 名、例会の参加者は毎回 12 名程度

⁸ 一方向の知識伝達型ではなく、学習者が積極的に参加することを促す学習形態

⁹ 多様な利害関係者を幅広く集め、対話を通して新たなアイデアや創造的な解決手法を見だし、実践につながるための施設

¹⁰ 内省や思考を深める対話を重視し未来思考、デザイン思考に基づき行われるワークショップを総称したもの

主な活動実績	活動展開の経緯	参照情報
<p>教員、会社員、学生など‘国際理解教育’に関心のある有志が、仕事の後や週末に集まり活動を実施。常設事務局はないが、浜松国際交流協会(HICE)や JICA 浜松デスクの協力も得ながら、有志メンバーで精力的に活動を行っている。</p>	<p>浜松市は多くの外国籍の人々が暮らしているが、お互いの価値観を認め合い、地域社会の一員として共に生きていくためには課題がたくさんある。2007 年、有志が学校等で活用できる多文化共生¹¹をテーマにした教材開発を行った。より効果的で継続的な活動を行っていくために、2010 年に団体を立ち上げた。</p>	<p>http://hamakokunet.hamazo.tv/</p>
<p>2013 年1月～5 月に「ひと×アート まちづくりフューチャーセッション(全 4 回)」を開催し、アートとまちづくりに関する対話やワークショップ¹²を行った。2013 年6月～2014 年3 月には「鴨江アート・フューチャーセンター(全 10 回)」を行った。</p>	<p>「ひと×アート まちづくりフューチャーセッション」において、長尾彰氏のファシリテーションに衝撃を受け、また参加したい、もっと続けたいと考えた市民がコアメンバーとなり、平成 25 年度は浜松市の助成金でフューチャーセンターのためのファシリテーター講座を実施した。</p>	<p>https://m.fac ebook.com/ka moeartfc</p>
<p>例会は、毎月第1土曜日を基本に、飽きのこないさまざまなワークに取り組みながら、ベテランから初心者まで、現場で使えるファシリテーションの極意を学んでいる。</p>	<p>2006 年1月から継続して例会を開き、2014 年には 100 回となる。北陸地域で話し合いに関心のある方々、諸団体と交流を続け、2013 年からはコミュニケーションフォーラム北陸というイベントの中心として地域の楽しい有意義な仲間の繋がりが拡大に取り組んでいる。</p>	<p>https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=1483</p>
<p>・青少年自立支援事業「そら」: 週1回開催(2-10 名参加)中学生就学年齢以上の青少年とスタッフが、職業や将来他あらゆる話題を話し合う場を提供した。 ・保護者・地域との交流会: 年1回開催(約 50 名参加) 総会后、会員、保護者、地域(県、市、学校等)との交流の場を運営。</p>	<p>2005 年頃よりFAJ会員が同法人の活動に携わり、ファシリテーションの導入を進めてきた。各事業対象に合わせて、ワークショップを組み込むことで当事者への支援を効果的に行ったり、当事者を取り巻くステークホルダー¹³(日本語が話せないメンバーを含む)に対しては、自主的な情報交換の場の提供や運営を行うようになった。</p>	<p>http://www.kodomonokuni-aichi.org/</p>
<p>皆「気軽に、楽しく、真面目」にファシリテーションの普及と、自己研鑽に励んでいる。FAJ 会員以外も参加可能。例会は、今年度は奇数月が平日水曜の夜、偶数月は土曜か日曜に長時間版で開催している。</p>	<p>2006 年に自主勉強会としてスタートした「岡山ファシリテーション研究会」が母体となり、2011 年4月に正式に発足した。</p>	<p>https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=1876</p>

¹¹ 国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係で共に生きること

¹² 参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりする双方向性のグループ学習

¹³ 利害関係者。該当事案に直接・間接的な利害関係を有する者を指す

主な活動地域	団体名・チーム名	活動の目的・内容・特徴	団体協力者
四国 4 県。中心は香川県	日本ファシリテーション協会・四国サロン	「気軽に」「身近に」ファシリテーションを楽しむ、をモットーに活動中。 「ファシリテーションって何？」という超初心者の方こそ、大歓迎している。	運営委員は 14 名、例会の参加者は毎回 15-20 名
福岡県福岡市など九州一円	西日本新聞 NEWS Cafe	新聞社の地域支援事業として、その地域ならではの創造活動を喚起する「地域の語り場」開催を「NEWS café」として多数回、開催した。参加者どうしが共同作業するプログラムにファシリテーションを組み込み、新聞をモチーフにした地域の語りあいの場を提供した。主にワールドカフェや OST、未来新聞のワークショップ、まわしよみ新聞のワークショップなどを行った。	運営メンバー 5 名 参加者 約 20~300 名 開催回数 60 回
長崎県長崎市、大分県大分市、熊本県熊本市、鹿児島県鹿児島市、広島県広島市	博多まちづくり推進協議会 × We Love 天神協議会「福岡誘客のための各都市意識調査」	福岡都心部への誘客策を探るために、女性を対象に、グループインタビュー ¹⁴ を行い、福岡都市訪問意向の調査・集計を行った。ワールドカフェ形式による対話マーケティング調査として、グループインタビューを福岡近隣中核都市にて行い、有意の意見を集計・整理した。	
福岡県北九州市	黒崎ミライイ会議	北九州市中心市街地活性化黒崎事業において、街区整備を終えた JR 黒崎駅周辺の整備の総仕上げとして、「ソフト・インフラの整備」「新たなまちづくりコミュニティづくり」を事業目的とするプロジェクトが行われた。「新しいまちづくりの担い手」を発掘することを目的に、「50人インタビュー」からプロジェクトをはじめ、その発掘された新しい担い手による地域活動立案・実施の活動体として、「黒崎ミライイ会議」が発足、対話と議論を重ね、街区イベントを主催し、市民への提言としての報告シンポジウムを行った。	運営スタッフは 6 名、参加者（実行者）55 名（クロージングイベントは 50 名）

¹⁴ 対象者を集め、司会者（モデレーター）の進行のもと、一定の事案について座談会形式で意見交換してもらった調査、インタビュー方法

主な活動実績	活動展開の経緯	参照情報
設立以降、通算で60回以上の例会を開き、四国各地での活動を拡大展開している。	2009年に四国でのファシリテーション普及を目指して、サロンとして発足している。	https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=788
「地域 NEWS Cafe」「読者 NEWS Cafe」「自治体 NEWS Cafe」「事業 NEWS Cafe」の4つの分野に即して、おもに3回シリーズワンセットで、多数回開催した。特筆すべきは、この「NEWS Cafe」がひな型となって、福岡県宗像市における総合計画立案のための市民意識調査を兼ねた「宗像みらいカフェ」、および、同合併10周年シンポジウム「宗像とことんトーク」に発展するなど「創造事業」としての波及効果が生じたことである。	2011年7月より「地域創造事業」プロジェクトが発足。新聞社を非営利企業と捉え、地域に根ざした新聞づくりのための対話集会の開催が決まった。2011年10月、第1弾として地域に対話を導入する目的で「地域 NEWS Cafe」を開始。校区単位(エリアセンター単位)で、校区のことを語りあう対話カフェイベントから、地域を創造的にするきっかけづくりをしていくこととなった。	http://newscafe.in/about/ Facebook http://www.facebook.com/NEWScafeNEWS
2012年1月～2月、5都市にて、ワールドカフェ形式によるグループインタビュー調査を実施した。 対話の成果として、キーワードの抽出を行い、抽出されたフレーズについてカテゴリごとの誘客策としてまとめられた。この調査集計の報告会も、ふたつの協議会の交流を促進するため対話形式で行われた。	福岡市の都心を構成するふたつのエリアマネジメント団体が、他都市の居住者がどんな来街意向を持つのかの調査を行うにあたって、2011年の福岡市ビジョンカフェの手法を取り入れることを検討した。結果、ワールドカフェを用いた本格的なマーケティング・リサーチとなった。対象は広島県広島市、大分県大分市、長崎県長崎市、熊本県熊本市、鹿児島県鹿児島市。	http://hakatan.jp/contents/about_biz-plan.html
50人インタビュー実施者の中から選考した、リーダーシップ意向を持つメンバーによる定例会議が「黒崎ミライイ会議」。ホールシステム・アプローチを導入した会議の成果として、新たな街区のコンセプトが提示され、その社会実験のための街区イベントも主催した。総仕上げとして成果を「中活クロージング・シンポジウム」を主催し発表した。	「新しいまちづくりの担い手調査事業」は3つの目的で進められた。街区整備が行われたその街の使い方を提案していけるリーダーシップある人材の発掘と、その人材を中心とする新しいコミュニティづくり、そしてそのコミュニティが編み出す新しいまちのビジョンの提示である。 人材発掘面で「50人インタビュー」を相互紹介式に行い、これまでのまちづくりの担い手とは違う新たな担い手を掘り起こした。	http://bookbuffet.jimdo.com/

主な活動地域	団体名・チーム名	活動の目的・内容・特徴	団体協力者
福岡県	福岡市役所	市役所内へのファシリテーションの導入・活用・普及を通じ市民サービスの向上を目指している。2000年4月から7年間続いた組織風土改革・業務改善運動「DNA運動」を源流とするオフサイトミーティングなどの市職員の自発的な場づくり、職場の活性化を目的とした研修体系とプログラムの再構築、行政運営の根幹となるビジョンや計画づくりの現場への具体的な活用が実現した。	主として研修部門、行財政改革部門、職員有志など多数
沖縄県	日本ファシリテーション協会・沖縄サロン	ファシリテーションの普及を図ることを目的として、毎月・研究例会を開催しており、2014年3月で通算57回目となる。例会だけでなく、イベント開催、各団体への協力・支援なども行っている。	例会の参加者は、平均で約25名
沖縄県	沖縄観光の未来を考える会	2006年の創立以来毎週のように定例会議を持ってきた中、2009年からは、毎年1回沖縄県内の観光事業者、行政、大学等の関係者が集まりワールドカフェやOSTなどのファシリテーション手法を活用して沖縄観光の将来像について議論し、具体的なアクションプランを考えたり、行政への提言などを行っている。	毎回50名～80名程度が参加
沖縄	沖縄自治研究会 (通称:自治研)	沖縄の地域的な課題を発見し解決策を探求する地域づくりの主体(担い手)、地域社会再生の主体者等としての力を話し合い学び会のプロセスの中で自分たちの手で作り上げていくことを目的に活動をしている。参加者の平等性、水平的連携を重視するため「代表」「会長」「事務局長」等の役職を一切置かず、参加者全員が平等に発案し発議することを原則としており、ファシリテーションの重要性や機能への認識は高く、実践的な活用が進んでいる。	学生・民間企業、意志、教職員、行政職員、議員、メディア関係者等約200名

主な活動実績	活動展開の経緯	参照情報
<p>「プロジェクト」として、2012 年のふくおか未来カフェ(総合計画パブリックコメントへのワールド・カフェの応用)、福岡市「職員憲章」策定ワーキング、2013 年は行財政改革プランの基軸として「対話」を導入、ふくおか未来カフェ2(政策推進プラン・行政改革プランのパブリックコメント)など実践が進んだ。</p>	<p>2004 年 1 月に福岡市役所職員有志による情報交換会、7 月にビジターズインダストリー都市塾へのファシリテーター導入などから始まる。</p> <p>2007 年の夜間講座研修、2008 年選択研修、2009 年職場訪問型研修などの形で広がり、2011 年にはプロジェクトとして「福岡市ビジョン策定へのワールド・カフェ導入」などへ展開した。</p>	<p>http://www.city.fukuoka.lg.jp/shisei/jigyoku-torikumi/index.html</p>
<p>FAJ 会員以外も参加でき、意欲的にファシリテーションの普及に取り組んでいる。</p>	<p>2007 年より自主勉強会を開催しており、2008 年 11 月に正式に「FAJ 沖縄サロン」として発足した。</p>	<p>https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?content_id=17</p>
<p>「沖縄観光の未来を考えるワールドカフェ」は毎年開催されて今年で 6 年目。日々のスタッフ運営会議でも様々なファシリテーションを活用して協働が促進されており、団体内で手法と効果に関する認知度が高まっている。ワールドカフェに参加した大学生等を中心に、「若者自身が観光の未来を考えよう」という動きが始まっている。</p>	<p>2006 年、観光を沖縄県のリーディング産業としてしっかりと位置づけ、相応の予算を確保できるよう、知事選挙候補者同士の公開討論会を開催したことがきっかけで発足した非営利団体。</p> <p>2009 年に初めてワールドカフェを実施して以来、観光関係参加者の評価が高いため、毎年同様のワークショップが開催されている。</p>	<p>http://www.kanako-mirai.com</p>
<p>2012 年度は、連続講座&ワークショップ形式で 5 回開催し実際に議会や首長に「請願・陳情」を出そうということになり、2 つの陳情と 1 つの請願を提出し採択された陳情もあった。</p> <p>そして、「市民も自治と議会に関われる ～ ちょっと考えて、やってみました請願と陳情～」という 報告書を完成させた。</p>	<p>自治研の活動期間は 12 年だが、ファシリテーションを取り入れた活動は 2008 年より開始。当初次年度のテーマ決めといった企画会議に関わる。2008 年～2011 年の間「地域自治組織の現状と課題」「市民と自治体の協働と『新しい公』のあり方」「地域にとって学校とは・学校にとって地域とは? ～地域再生と教育再生の相互作用」他のテーマによる議論の場を支援してきた。</p>	<p>http://plaza.arakuten.co.jp/jichiken/</p>

●個別参照事例1

未来会議 in いわき

福島県いわき市で、市民や避難者などが本音を語りあうことのできる場を継続的に開設している

[設立の経緯]

公益財団法人東日本大震災復興支援財団の被災者支援メニューづくりのヒアリングが開催された際、その場で出会ったいわき在住の市民が企画し、大震災と原発事故によって起きた価値観の相違をむしろ財産と捉え、地域や年齢、生活環境、ジャンルの違う多様な人たちが一堂に会して、現状や思いを語りあう場を開設した。

「それぞれがそれぞれのままでいられる」ことに寄り添い、相違や対立を解消することなく、それぞれの目指す未来を明確にしていく相互の支援のしあいを「復興」と呼ぶ、それを30年続けよう、との意図を持っている。その場での出会いから、いくつもの市民アクションが生まれている。

[活動の内容・具体例]

会議の開催にあたっては、公益財団法人東日本大震災復興支援財団からの支援を受けた。市民活動の担い手の育成を目的とする支援で、運営メンバーを対象に、話し合いの場を企画運営できる事務局スキルと、その話しあいにファシリテーションを導入するファシリテーターの養成講座を座学とOJT¹⁵で学ぶ場として「未来会議」に併催した。運営メンバーがファシリテーターの役割と効果性への理解を深めたことが、以後の継続的な運営につながっている。

■2013年1月 未来会議第1回 ワールドカフェ『30年後の未来のためにわたしが関わりたいこと』

■2013年2月 未来会議第2回 OST¹⁶『未来に向かって、自分たちでできること』

■2013年4月 未来会議第3回 OST『プロジェクトの種を育てる』

■2013年6月 未来会議第4回 ワールドカフェ『今だから言えること。今だから言っておきたいこと』

■2013年8月 未来会議第5回 with キッズプロジェクト ワールドカフェ『それぞれの未来を描く』

(第1回から第5回まで、会議と並行して事務局メンバーのためのOJTファシリテーター養成講座を併催した)

■2014年1月 未来会議第6回 フィッシュボール¹⁷+ワールドカフェ『対立を超えて』

[活動メンバー]

運営メンバーは20名程度。

[参考情報] <http://miraikaigi.org/>

¹⁵ OJT(オンザジョブトレーニング) 上司や先輩が部下や後輩に対し具体的な仕事を通じて仕事に必要な知識・技能・態度などを計画的・継続的に指導すること

¹⁶ OST(オープンスペーステクノロジー) ハリソン・オーウェン氏によって提唱された、関係者が一堂に会して話し合うホールシステム・アプローチの代表的な手法。参加者自らが解決したい問題や議論したい課題を提示、進行の段取りも自主的に決めて進める

¹⁷ 金魚鉢を外から観察するように、活動をしているグループの様子を外から観察する手法。観察の結果をフィードバックするなどのやり方で、相互研鑽にも利用する。

●個別参照事例2

流山ファシリテータークラブ(FAN)

千葉県・流山市を中心に東葛地域で「ファシリテーションの普及」をめざし活動中

【設立の経緯】

2009年度にファシリテーション活用プログラムを利用して「流山市の市民向け公開講座」を開催したことがきっかけ(講座は、4年連続で開講)。「公開講座受講が目的化し、その後の活用に繋がらないこと」に気づき、講座開始3年目にFANを設立し、受講者のフォローを図ると共に地域の支援活動を始めた。



【活動の内容・具体例】

定例の勉強会を月に1回、運営に関する企画会議も月に1回、実施を継続している。地域への支援は、市役所など自治体への協力を中心に実施している。年間で5回から8回程度。

支援団体と認定されているため、会場費は無料。会費も無料として、運営費は支援実施時の謝金の中からプールして使っている。

- 流山市役所の活動:防災に関する市民との意見交換会にファシリテーター&グラフィッカー¹⁸派遣。
- 流山市市民活動推進センター:登録団体の意見交換会にファシリテーター&アシスタント派遣。
- 千葉県生涯大学校に協力:ファシリテーション講座の講師&アシスタント派遣。
- かしわ市民大学の講師を派遣。
- NPOの活動報告会にファシリテーター派遣
- 議会の会派から市民による議員活動評価の場への協力
- 近隣自治体での公民館活動への協力要請

【活動メンバー】

年代は20代から70代まで幅広く、講座受講生を中心に代謝・変動も激しい。現状は、メンバー登録数50名程度。実質活動者は毎回20名程度。

【参考情報】

FAN ブログ・ホームページ <http://ameblo.jp/fan-faj/>

¹⁸ ファシリテーション・グラフィック(「何について、どのように話しているか」参加者の認識を一致させるために、発言を記録・図式化したもの 議論を「見える化」する手法)を実践する人

●個別参照事例 3

チームオープンヨコハマ(tOY)	ダイアログの手法を使い、新しい生き方、新しい社会をヨコハマから発信するべく、多様な活動を行っている
------------------	---------------------------------------------------

【設立の経緯】

2009年、開港150周年という記念すべき年に、横浜では、市民同士が横浜の未来を語り合い、横浜の未来像を描く「市民参加型都市ブランド共創プロジェクト“イマジン・ヨコハマ”」が行われた。事業終了後、描かれた横浜の未来像「OPEN YOKOHAMA」を自分たちの手で実現しようという想いを持ったボランティアメンバーや企画メンバー等が有志で集まった。

【活動の内容・具体例】

- 1.OPEN YOKOHAMAの思想を啓発することをきっかけに、地域での自発コミュニティを育む。
 - 2.多くのコミュニティが相互に学びあい、連携しあうことをサポートする。
 - 3.市民、企業、行政、教育機関の想いを共有、マッチングさせ高次のソリューションを生み出すプロジェクトを担う。
 - 4.コミュニティ・ビルディング¹⁹を担う市民ファシリテーターの育成。
 - 5.イマジン・ヨコハマ、team OPEN YOKOHAMAの活動を都市デザイン学、社会学、CSR経営学、心理学、組織学習学的視点から研究し、その成果を世の中に発信する。
- ワールドカフェなどの対話の手法を用いて、一人一人の想いが語られ、育まれ、自然と共感する仲間が繋がっていくことができる、対話の場を創造していきたい。

■2013年1月 ワールドカフェ実施サポート「tvk+UDCY future cafe : モビリティデザインカフェ第5回」

■2013年3月 ワールドカフェ実施サポート「Bo-sai2013 減災カフェ～地域まるごとで考える防災、減災～」

■2013年3月 ワールドカフェ実施サポート「『ハーブ&ドロシー』を見てみんなで語ろう」

■2013年5月 OPEN YOKOHAMA トークカフェ 2013 ～あつまれ、ヨコハマが好きな人！～

■2013年5月 ワールドカフェ実施サポート「ほ도가や語りべ会～今井・仏向エリア～」

■2013年5月 ワールドカフェ実施サポート「まちびとカレッジ 神奈川区のまちづくりを学ぶワークショップ」

■2013年7月 プチキャリアカフェ in YOKOHAMA～100人100色の未来。あなたの働く論を語り合おう～

■2013年8～11月 ダイアログ²⁰コーディネーター育ちの講座

■2014年5月 OPEN YOKOHAMA トークカフェ 2014 ～ヨコハマの願いをかなえよう～

【活動メンバー】

現状は、メンバー登録数50名程度。実質活動者は20名程度。

【参考情報】

<http://www.teamopenyokohama.org/p>

¹⁹ 様々なワークや働きかけによって、コミュニティが集団やチームとして力を発揮できるようにしていくこと

²⁰ 自分の立場や考えにとらわれず、意味を共有しながら共に探求する話し合いのプロセス

●個別参照事例 4

<p>職子屋(Shiki-go-ya)</p> <p>～キャリアのつなぎ場～</p>	<p>神奈川・相模原、四国・松山、福岡・久留米の各地で「仕事について考える」ワークショップを社会人、学生と一緒に運営する</p>
--------------------------------------------	------------------------------------------------------------------



【実施の経緯】

「シューカツ」などに見られる一面的な職業観・学生へのキャリア教育のあり方について問題意識を持ち、老若男女問わず一緒にワークで対話ができるような場を作りたいということで、2012年に開始したプロジェクト(しかも運営主体は学生さんに！)。

開催場所は、キーマンの縁故のあるところ中心で、現在は神奈川:相模原、四国:愛媛・松山、福岡:久留米と幅広く展開している。

【活動の内容・具体例】

基本コンセプトとして「学生×社会人で働くを語ろう」というものを置いており、「働き方について学び合う場」としている。

「キャリア」について問題意識のある老若男女がリアルに集い、「働き方」「生き方」を語る対話の場を毎月、運営している。世代を超えたヨコの関係の場で、毎回楽しく学び合っている。

キャリアというテーマを中心におき、ファシリテーションが道具として上手く機能している。高校生や若手を巻き込んだ展開が特徴的で、Facebookによる報告や情報発信も頻度高く行っている。

【活動メンバー】

参加メンバーは毎回20名前後。フェイスブック登録は、約250名

【参考情報】

<https://www.facebook.com/shikigoya>

●個別参照事例 5

場とつながりラボ home's vi(ホームズビー)	京都の「まちづくり活動」を進めるために、ファシリテーションの多様な手法を駆使して場づくりを実施
----------------------------	-------------------------------------------------

[実施の経緯]

組織や地域のなかにいる「個人と個人のつながり」に着目し、個人がどのように主体性を回復してパフォーマンスを発揮できるか。個人と個人がどのように組み合わせさせて最大限に化学反応しあうか。そこから生み出される「調和」や「創造性」をテーマに、実践・探究している。

地域づくりやコミュニティスペースの運営、紛争解決の手法、日本型ファシリテーションまで様々な場づくりを学ぶ中、オープンスペーステクノロジー(OST)というファシリテーション手法に出逢う。

これらを応用して、さまざまな京都のキーパーソンが集まって京都の未来を考える場作り「京都きずなサミット」を開催。その実績を活かし、2008年より3年間、「京都市未来まちづくり100人委員会」の運営委託を勤める。

その後、各種ファシリテーション手法などについて実践的研究を行い、企業・NPOを問わない団体の研修や、まちづくりの現場において、個人や地域の中に眠っている可能性を引き出すサポートを行っている。



「京都きずなサミット」

[活動の内容・具体例]

OST、マグネットテーブル²¹、ワールドカフェなどのファシリテーション技術を活用し、さまざまな主体とともに、参加者が主体的にまちづくり活動を興す場を運営。その他、人が集う場のコーディネート幅広く行なう。

勉強会として、以下を定期実施

- ファシリテーショングラフィック²²勉強会
- ICTラボ(ICTの学びあいの場の運営)
- 幼児共育コレクション
- こそだて寺子屋
- ぞうの湯(社会人のサードプレイス)

地域の実践活動として、以下を実施

- 京都府 安心・安全「絆」づくり推進事業
- 伏見をさかになにざっくばらん(月1回)
- 京田辺市市民活動座(委託)
- 京おんな☆プロジェクト
- 京都ちーびずマルシェ
- 上京区ふれあいネット・カミング。

[活動メンバー]

主メンバーは職員11名とインターン7名。協力者は約30名

[参考情報] <http://www.homes-vi.org/>

<https://ja-jp.facebook.com/homesvi>

²¹ ホームズビーオリジナルの対話手法であるファシリテーション技術

²² 「何について、どのように話しているか」参加者の認識を一致させるために、発言を記録・図式化したもの 議論を「見える化」する手法

●個別参照事例 6

KEYS FOR KEY プロジェクト「大名みらいカフェ」	都心で閉校となる小学校の跡地利用に関して、市民でまちの未来を描いたプロジェクト
-------------------------------	-----------------------------------------

【実施の経緯】

福岡市役所では、福岡市第9次総合計画の策定にあたり庁内公募に応募した職員自主チームによるまちの将来像提案を、市民にも見てもらおうと、職員有志が市民向けの発表会を開催したところ、このうちのひとつ、「福岡市中央区の新たな核づくりに関するビジョン」に強く共感した市民の発起で、市民職員の枠を超えてこのプランに関する活動がはじまった。都心の空洞化にともない統廃合される小学校の校舎跡地活用に関する研究と啓発の運動のプロジェクト「KEYS FOR KEY プロジェクト」は、2012年6月から準備にかかり、そのメインプログラムとして、市民といっしょに閉校後の跡地利用を考えるプロセスデザイン、「大名みらいカフェ」を開催した。

【活動の内容・具体例】

都心の児童減少による統廃合で、120年の歴史に幕を閉じる「大名小学校」の校舎跡地に関して、市役所、有識者、所有者である教育委員会だけでなく、地域はもとより、来街者、街の利用者である大名来訪者とともに考える取り組み。地域を地権者のものだけでなく、小学校をまちの財産として、若者が集積する都心の街区「大名」の未来を考えるきっかけにしようと、研究活動、啓発活動、ビジョンプランの市民公募に加え、語り場となる「大名みらいカフェ」を開催した(5回)。

- 第1回：ワールドカフェ交流会「大名みらいカフェ」が扱う3つのコンセプトカテゴリー(2012年12月)
- 第2回～第4回：コンセプトひとつひとつを読み解くシリーズ
- 第5回：若者の街らしく夜更かしする、深夜12時からの「ミッドナイトワールドカフェ」をラウンジで開催
- 第6回：完成した提言書の報告を兼ねた、大名の新しいキャッチフレーズづくりのカタルタ・ワールドカフェ
- 2014年3月・閉校の日のプログラムの一環として、小学校舎の教室にて、オープンスタイルのワールドカフェを開催

【活動メンバー】

運営メンバーは14名程度。
参加者はのべ250名

【参考情報】

<http://keysforkey.net/about/>



●個別参照事例 7

アジアユース人材育成プログラム

沖縄県内でアジア 14 カ国から 5～60 人の高校生が環境問題をテーマに約 3 週間合宿を行っている

[設立の経緯]

内閣府主催「アジア青年の家」事業が 2010 年より沖縄県に移管されて「アジアユース人材育成プログラム」として毎年 8 月に実施されている。2008 年の第 1 回「アジア青年の家」の当初は手探りのスタートだったが、2010 年よりファシリテーションを積極的かつ体系的に取り入れたプログラム設計と運営がなされたことで参加高校生の学びと絆が深まり、プログラムの成果が飛躍的に高まった。

[活動の内容・具体例]

アジア 14 カ国から様々な文化的背景を持った高校生が集う中で、約 3 週間のプログラム全体のデザインから毎日のワークショップ運営、成果発表の準備まで、ファシリテーションの理論と手法を積極的に活用し、高校生たちのチームビルディング、学びと成長の促進、短期間での協働作業による成果物の完成などを図っている。

これまで本プログラムを通して、日本、沖縄、アジア各国の高校生がファシリテーション



に支えられた成長と交流を体験し、その卒業生の累計は 500 人を超えており、沖縄県にとっても、将来を担うグローバルな若手人材の育成と、アジア各国とのネットワークづくりの面で大きな成果となっている。

また、社会人ファシリテーターと大学生チューターが学習サポートチームを形成して参加高校生をサポートする仕組みになっており、学習サポートチームが、3 週間全体のプログラムデザインはもとより、3 時間×10 数回のワークショップ実施を通して、さまざまなファシリテーション手法を活用したディスカッションや協働作業をファシリテートしている。

最近では、これまで本プログラムに参加した高校生たちが大学生チューターとなってサポートする立場として再参加する機会も増えており、継続的な学びあいの場となっている。

[活動メンバー]

運営メンバーは「学習サポートチーム」「ロジスティックチーム」からなり、毎年 20 名程度。

[参考情報]

<http://aydpo.com/>

第5部 大学調査

5. 1 ファシリテーション講義調査

●調査方法

現在、教育機関の中でも人々が社会に出る直前の大学で、どれくらいファシリテーションを講義として行っているのだろうかという調査を行いました。

対象となる大学の母集団の設定については、ホームページ「社会に開かれた大学・大学院展」を参照しました。

参照 URL (<http://www.daigakuten.com/search/gakka.html>)

この中では検索の選択肢に「ファシリテーション」がなかったため、ファシリテーションに関連の高いキーワードとして、次の3つで検索を実施しました。

コミュニケーション/ 教育/ 人間科学

その結果、680件が抽出され、大学名で絞り込んだ結果337大学が抽出されました。この337大学を母集団して調査を行いました。337校の内訳は、属性として国立72校、公立11校、私立254校になります。

各大学のシラバスを検索し、ファシリテーションに関連する講義の有無を調査した結果、関連がありそうな講義数は488件となりました。その中からファシリテーションに関連の高いものから6段階(A~F)に分類しました。

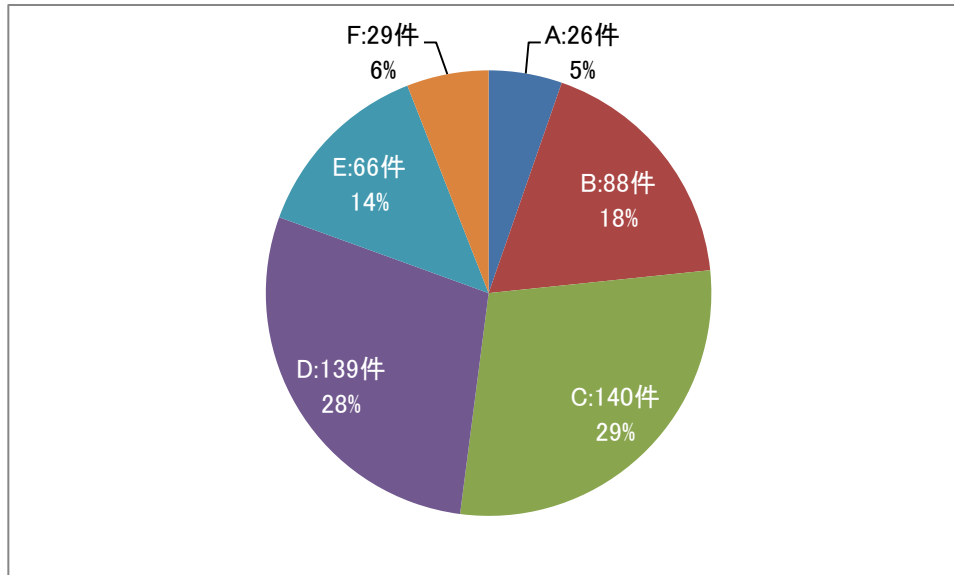
《ファシリテーションに関連する講義の分類基準》

- A: 講義名にファシリテーションを冠している。または内容がファシリテーションそのものを学ぶ内容になっている
- B: 講義の一部で、ファシリテーションを学ぶ機会がある
- C: シラバスの中にファシリテーションという文字がある(参考資料や講義説明)
- D: ファシリテーションそのものの言葉がない

E:掲載はしているが、PDFなので検索にかかるため調査を断念した
 F:シラバス非公開もしくは学生のみアクセス可能なので調査不可能

●調査結果

・ファシリテーションに関連する講義の分類



現時点、日本国内でファシリテーションそのものの講義は 26 件で全体の 5%でした。ついで、全講義の一部にファシリテーションを学ぶ講義が 88 件で全体の 18%であり、併せて 114 件で全体の 23%であるといえます。

なお、これらデータに属性(国公立)による偏りは見られませんでした。

調査チームの主観としては、ファシリテーションそのものの講義数については、例えばファシリテーションと同時期辺りに普及し始めたコーチングなどは、大学のみならず、官公庁や企業、各種団体にまでその知名度は広く普及しており、今回の調査結果は思った以上に少ないといった印象を拭えませんでした。

知る人ぞ知るといふ特殊技術ではないので、コーチングと対象は違えども、集団や個人の能力のスキルとしても、もう少しファシリテーションそのものを学ぶ機会があってほしいと望む次第です。

第6部 日本ファシリテーション協会について

6. 1 日本ファシリテーション協会とは

日本ファシリテーション協会((FAJ:Facilitators Association of Japan)は、ファシリテーションの普及・啓発を目的とした団体であり、2004年1月に、内閣府より特定非営利活動(NPO)法人の認証を受けました。プロフェッショナルからビギナーまで、ビジネス・まちづくり・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協調しあう自律分散型社会の発展を願い、幅広い活動を展開しています。

主な事業内容

- ① ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業
- ② ファシリテーター養成講座や講演・研修の斡旋などの教育・普及事業
- ③ 各種団体内及び団体相互の合意形成をサポートする支援・助言事業
- ④ ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

設立趣意(ミッション)

21世紀は、「自律分散型(ネットワーク型)社会」の時代です。ビジネス、社会活動、教育・文化活動、国際交流など、多様な場で多様な人々が協働しあうためには、中立的な立場で、チームのプロセスを管理し、チームワークを引き出し、チームの成果が最大となるように支援する、ファシリテーション(共創支援)が不可欠なものになっていきます。ファシリテーションは、21世紀のグローバル社会を支える最も重要なスキルといってもよいでしょう。

ファシリテーションは、欧米では既に広く普及しているにもかかわらず、日本では一部の外資系企業や先進的なまちづくりの場で活用されているにとどまり、普及が著しく遅れています。このままでは、多様な人々のパワーを十分に活かすことができず、社会の多元化・分散化に対応できなくなります。

ファシリテーションを普及させるには、個人や団体の枠組みをこえた、大きな活動にしていかなければならず、ファシリテーションを一過性のブームに終らせないためには、長期的な視野に立った公益的な活動を立ち上げなければなりません。

そのような観点に立ち私たちは、特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会を立ち上げ、ファシリテーションの調査・研究、ファシリテーター教育、協働プロセスの支援、ファシリテーターの交流などを通じて、日本にファシリテーションが普及し定着していくことを目指していきます。

そうすることによって、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民社会・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材が育成されることを願っています。

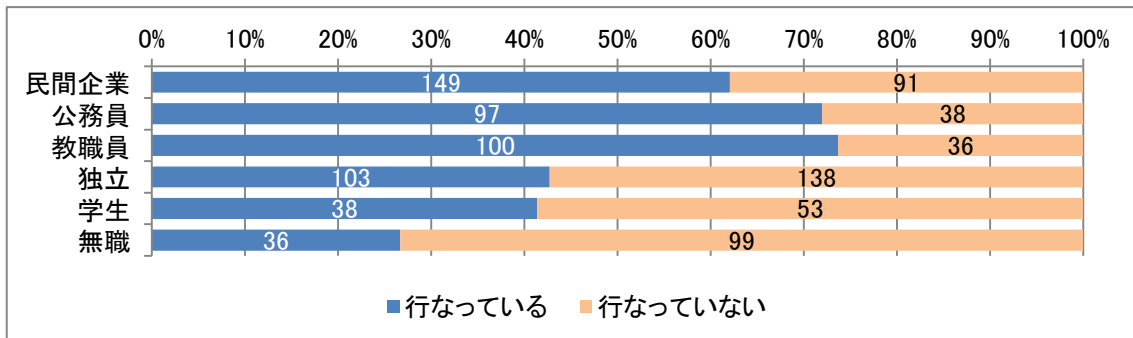
そして、協会の活動を通じて、多様な人々が協調しあう自律分散型社会の健全な発展と、協働の精神の増進に寄与していきます。

付録

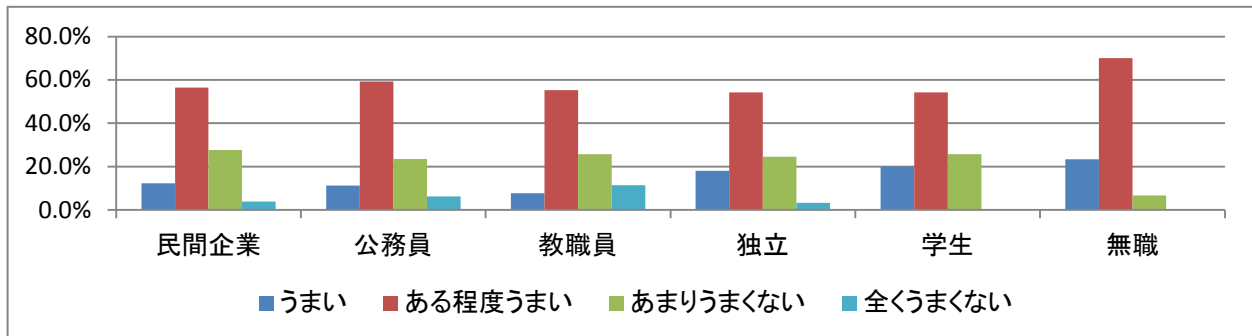
付録 A 調査 2 回答結果 職種別／会議種別毎

●調査2 A.情報共有や周知のための話し合い

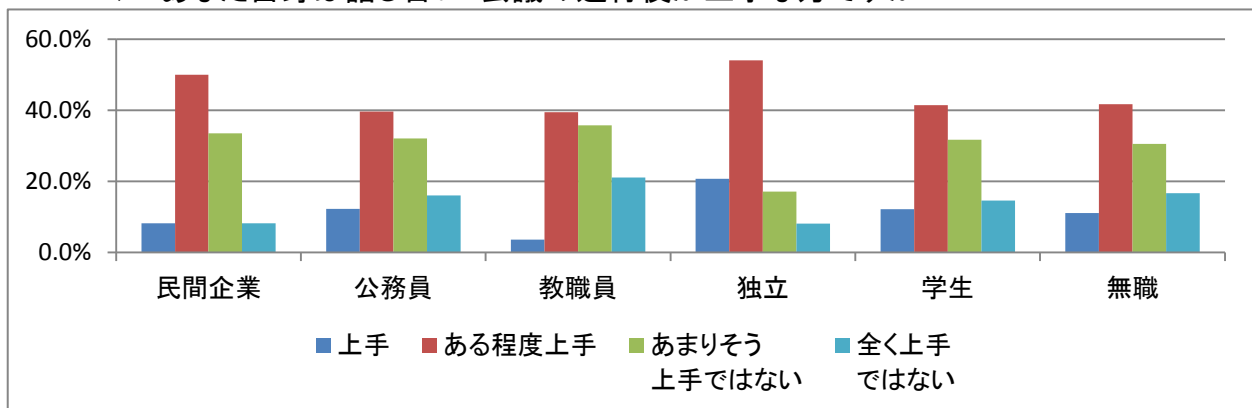
・情報共有や周知のための話し合いを行なっているかどうか



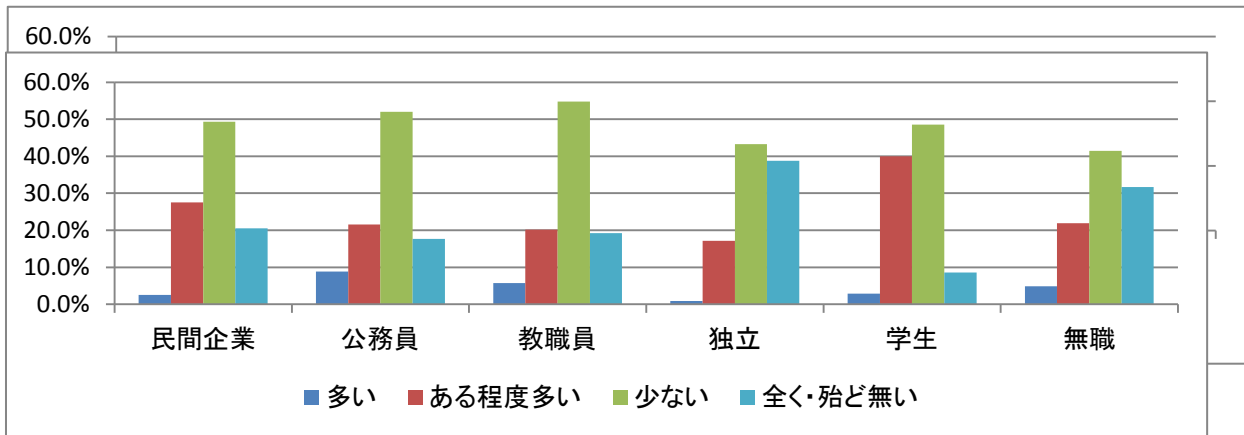
Q1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか



Q2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか



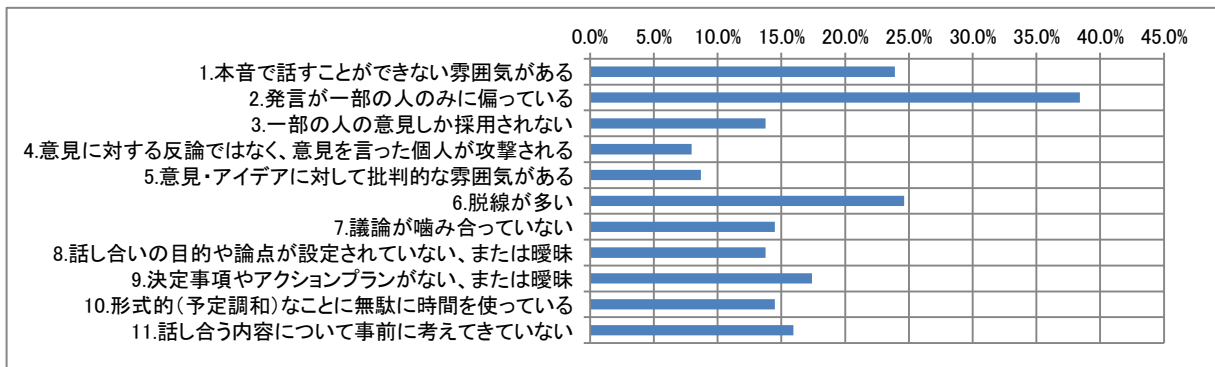
Q3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか



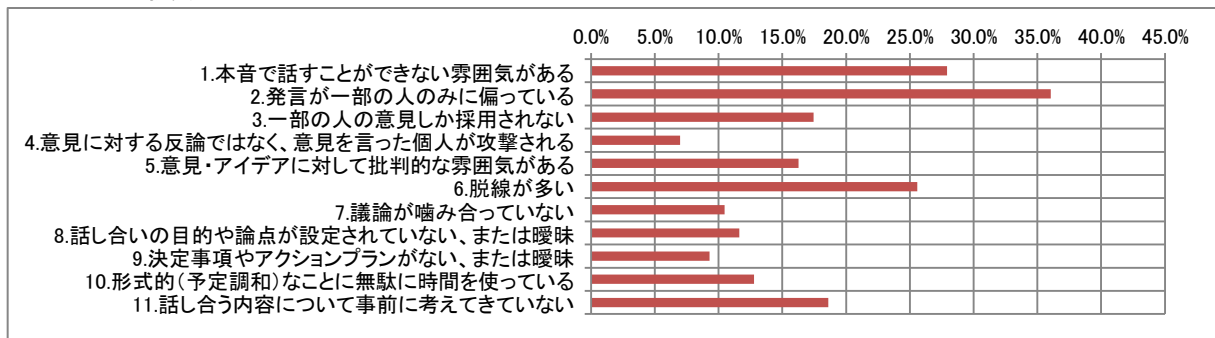
Q4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか

Q5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

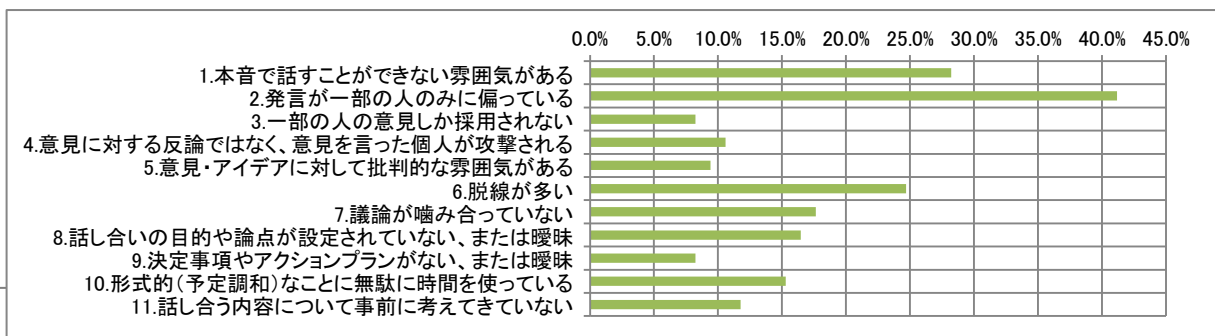
●民間企業



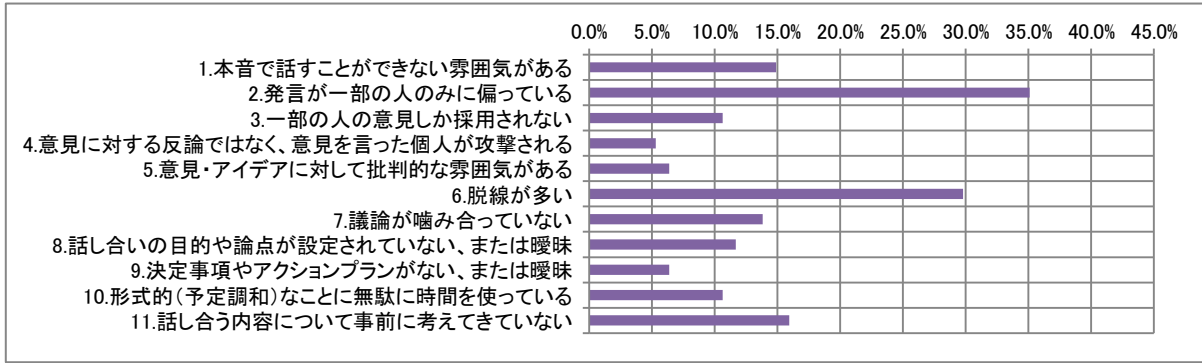
●公務員



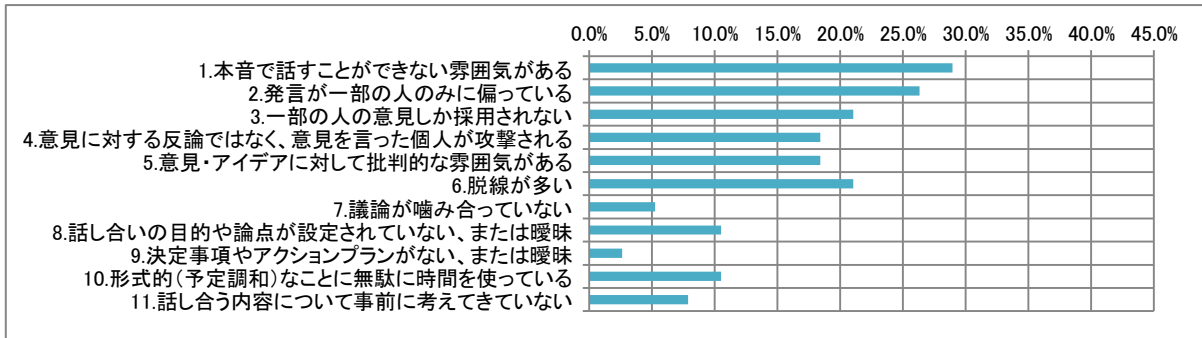
●教職員



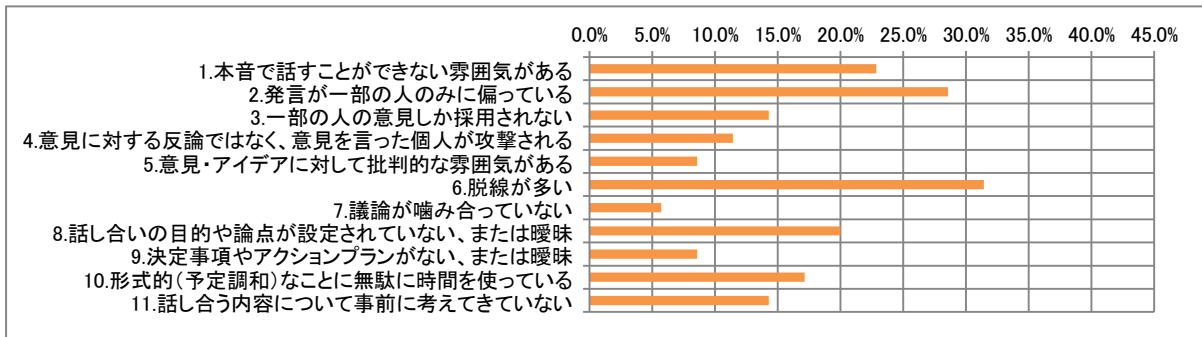
●独立事業者



●学生

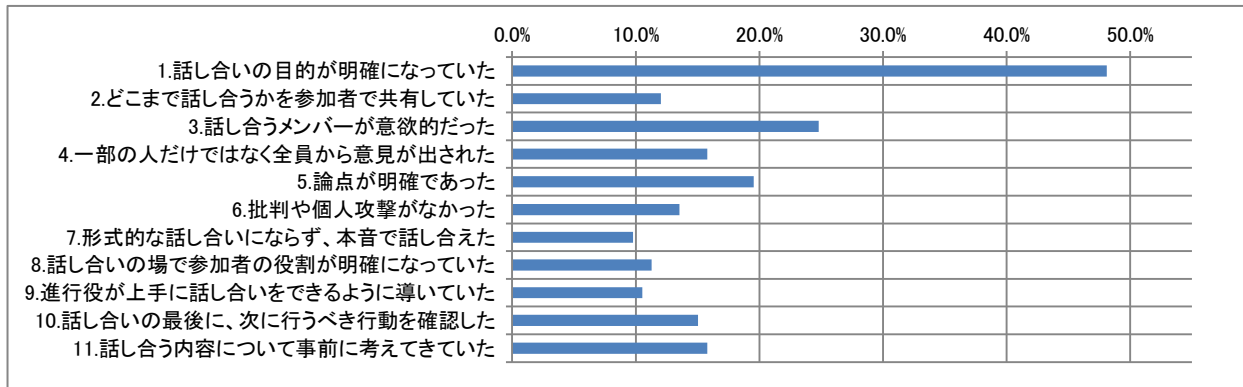


●無職・家事手伝い・その他

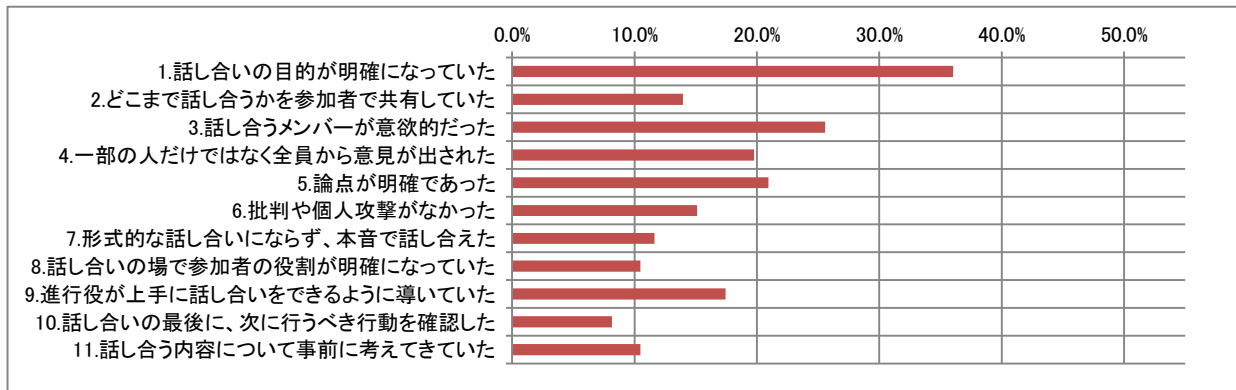


Q6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

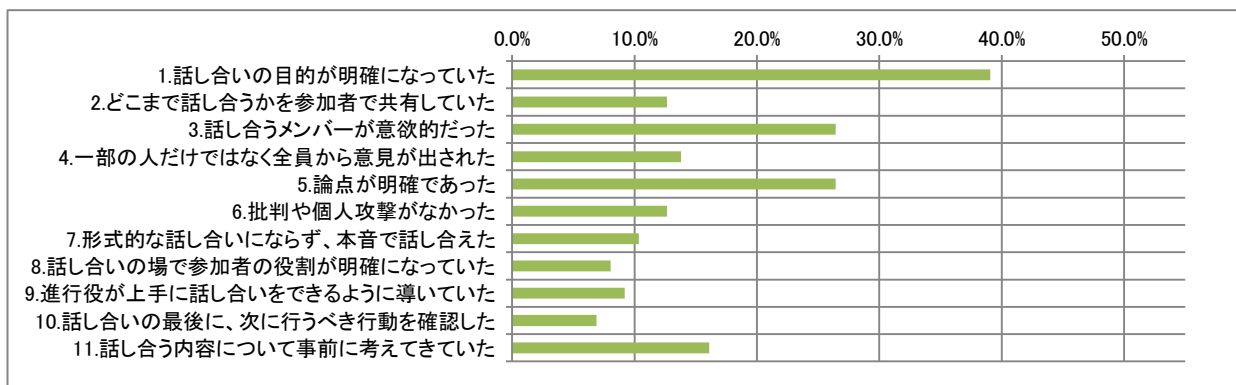
●民間企業



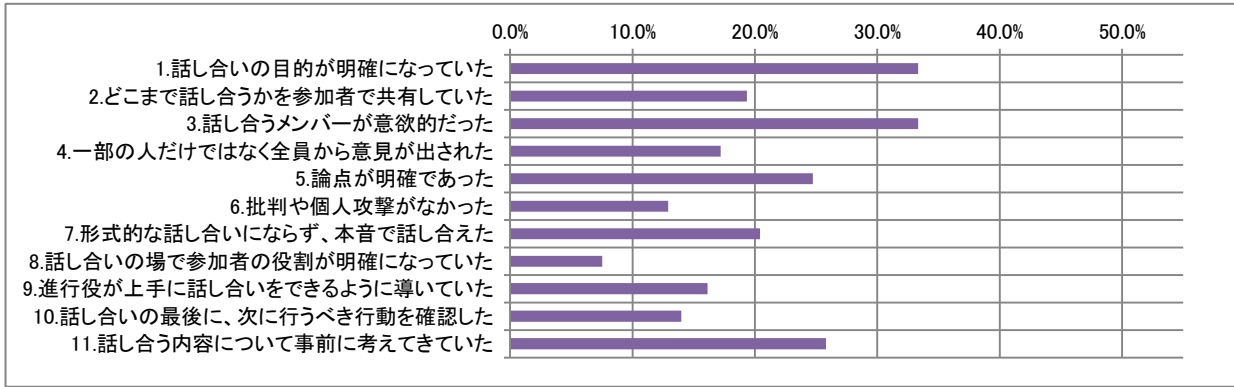
●公務員



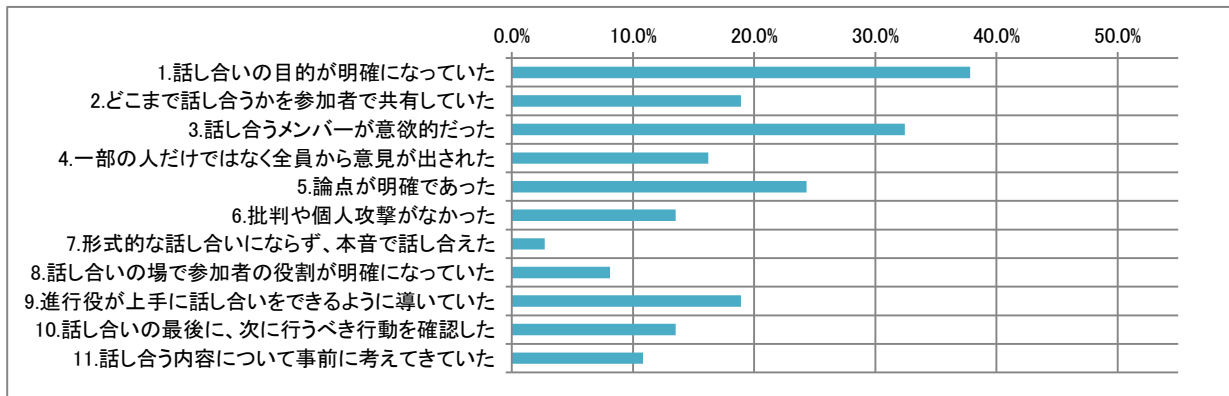
●教職員



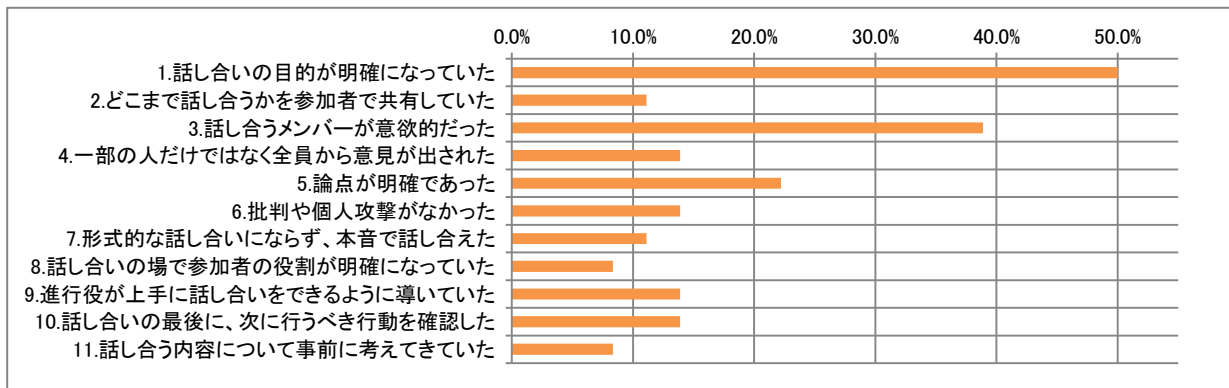
●独立事業者



●学生

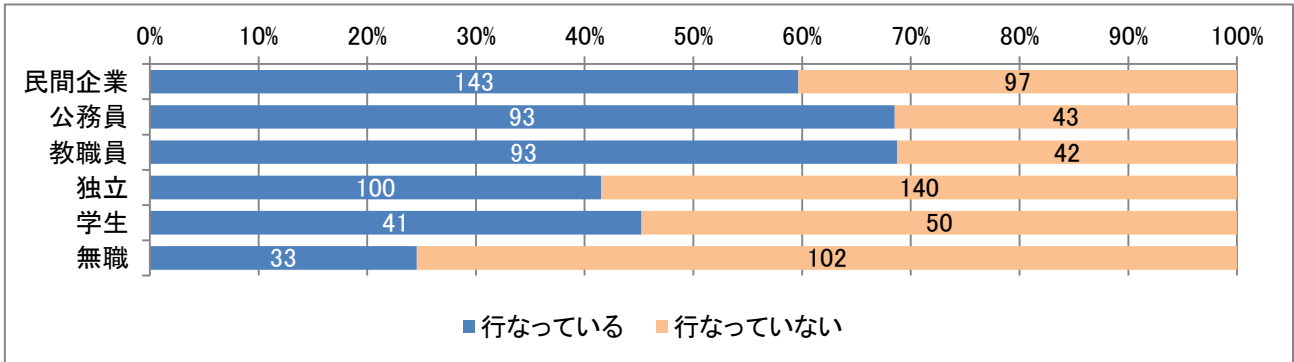


●無職・家事手伝い・その他

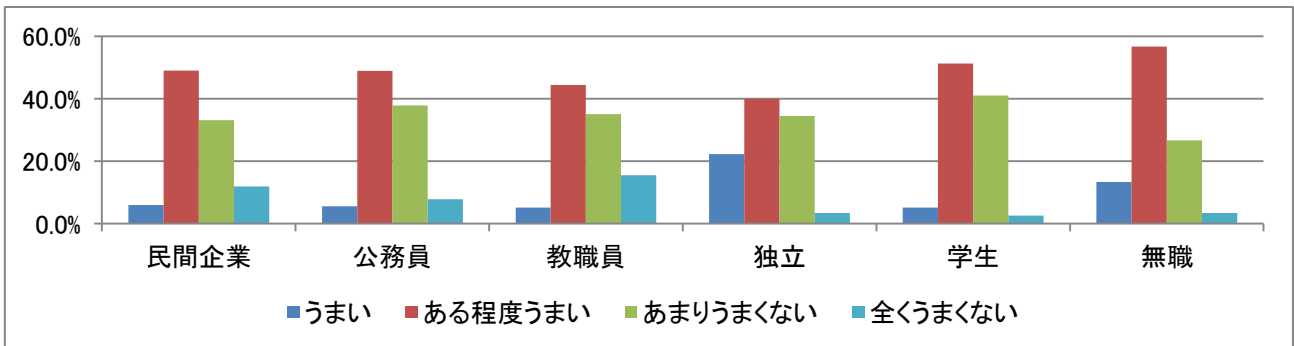


●調査2 B. アイデアを創造したり問題解決をするための話し合い

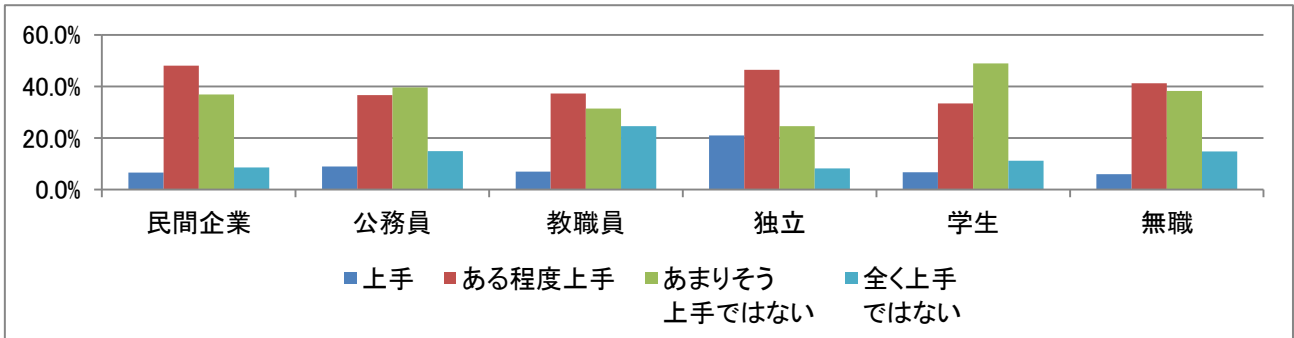
・アイデアを創造したり問題解決をするための話し合いを行なっているかどうか



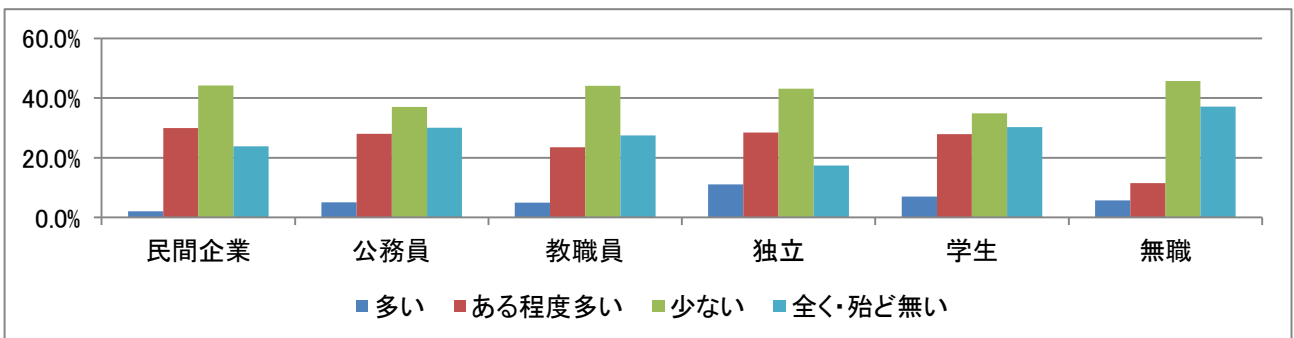
Q1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか



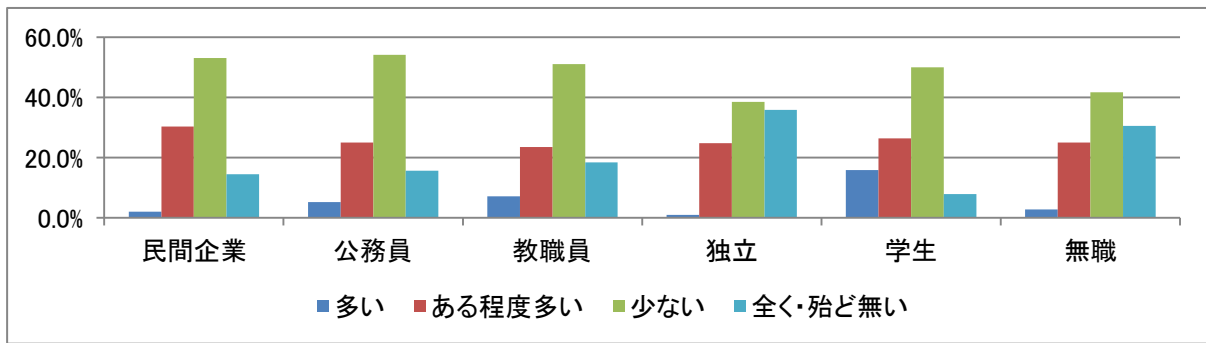
Q2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか



Q3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか

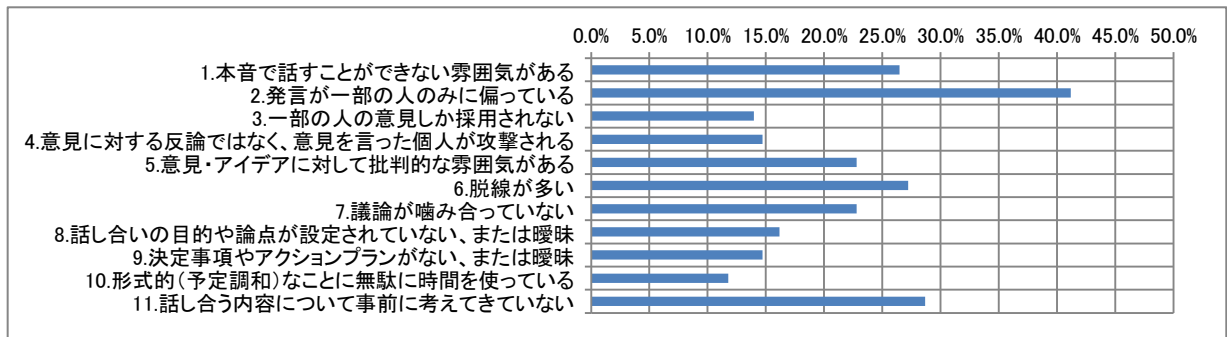


Q4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか

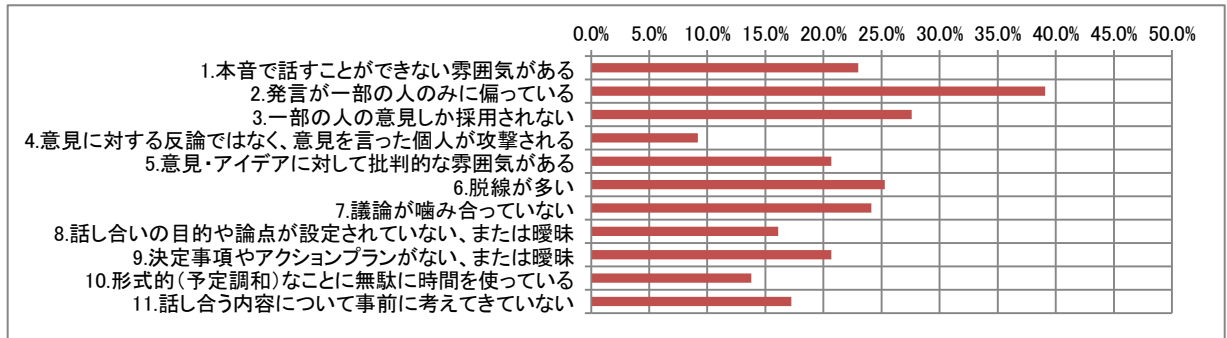


Q5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

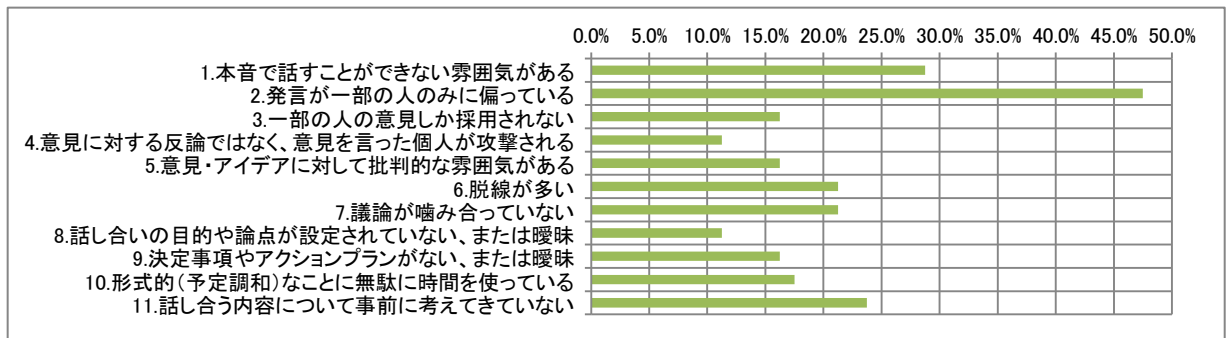
● 民間企業



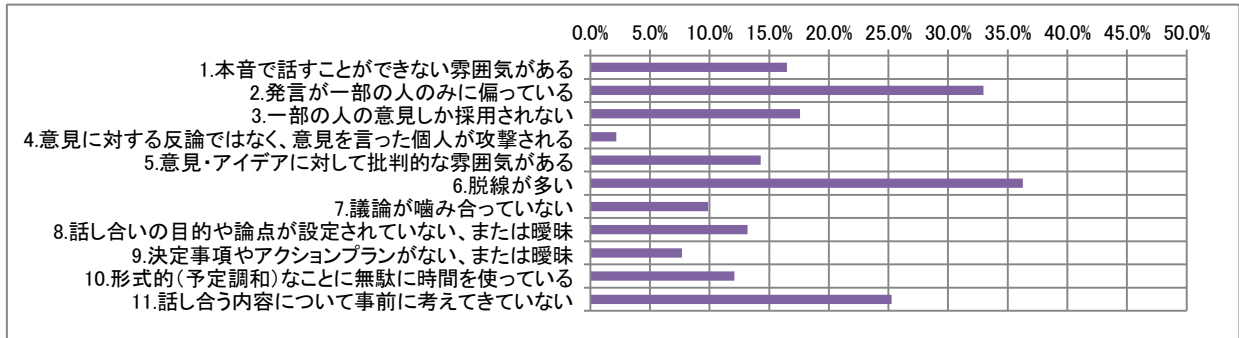
● 公務員



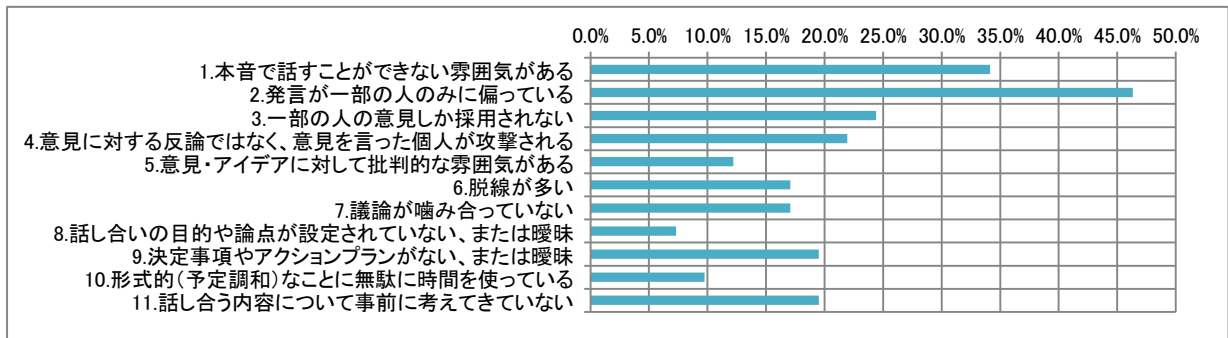
● 教職員



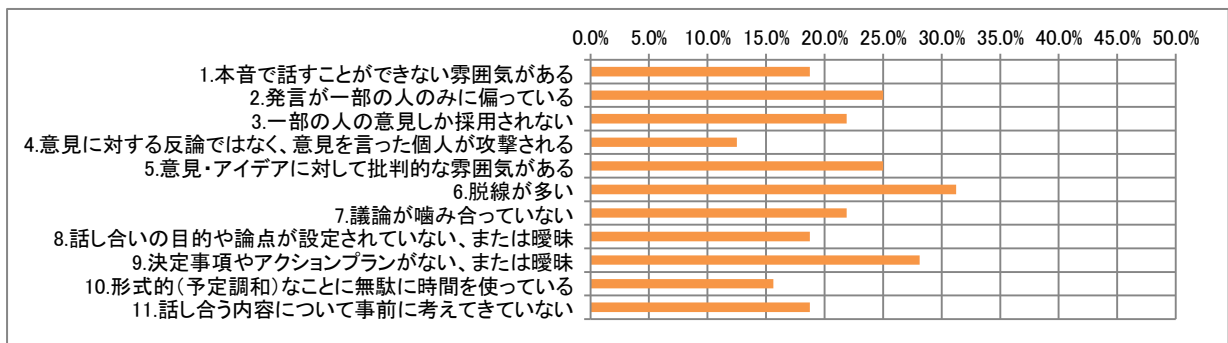
●独立事業者



●学生

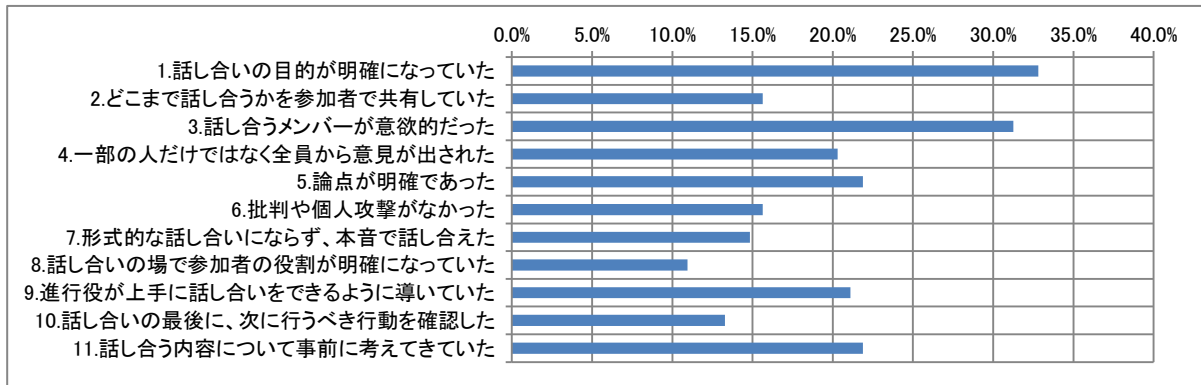


●無職・家事手伝い・その他

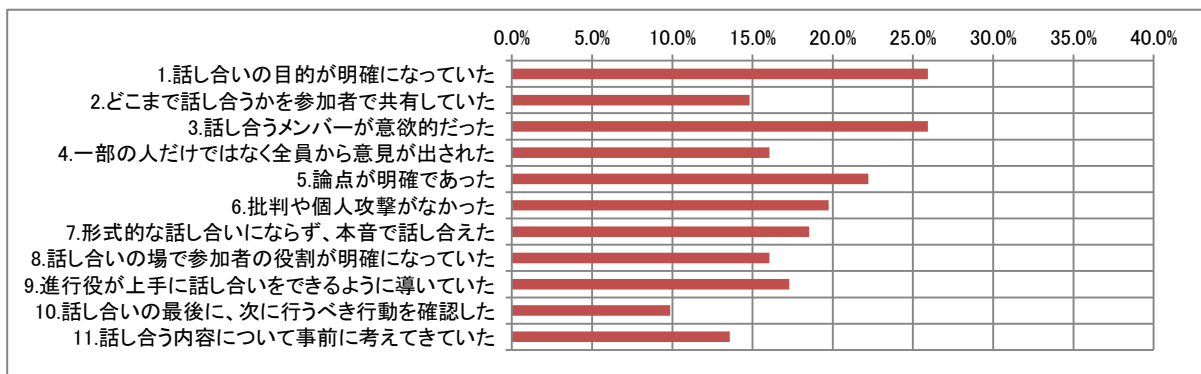


Q6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

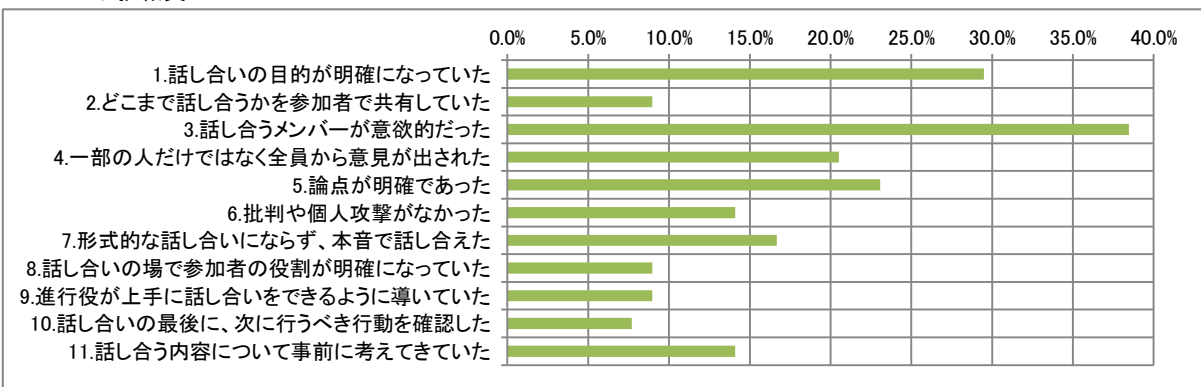
●民間企業



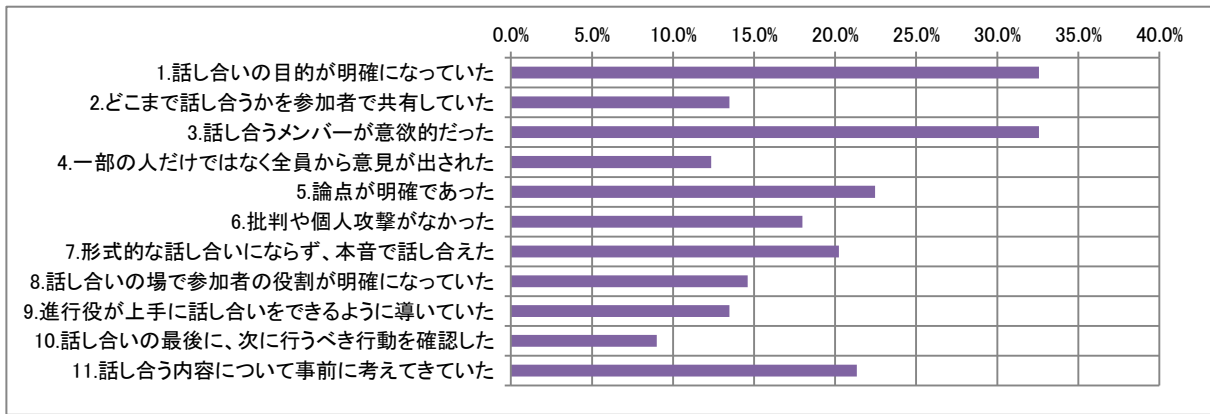
●公務員



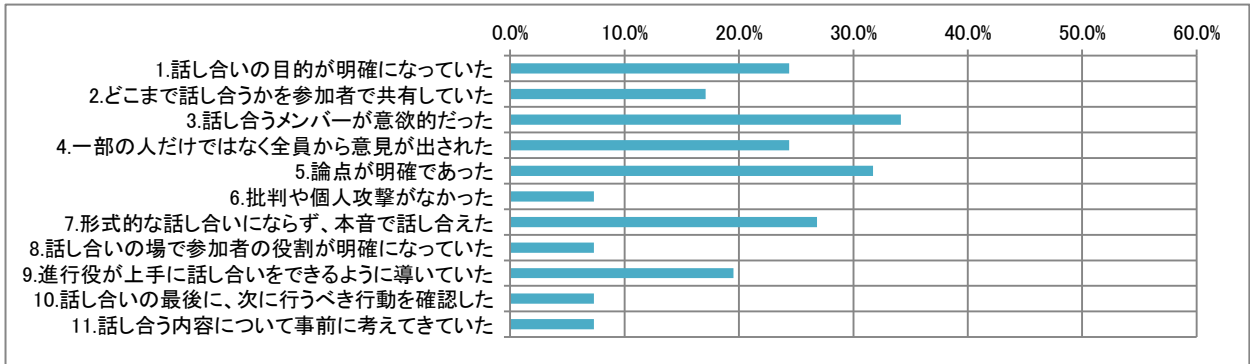
●教職員



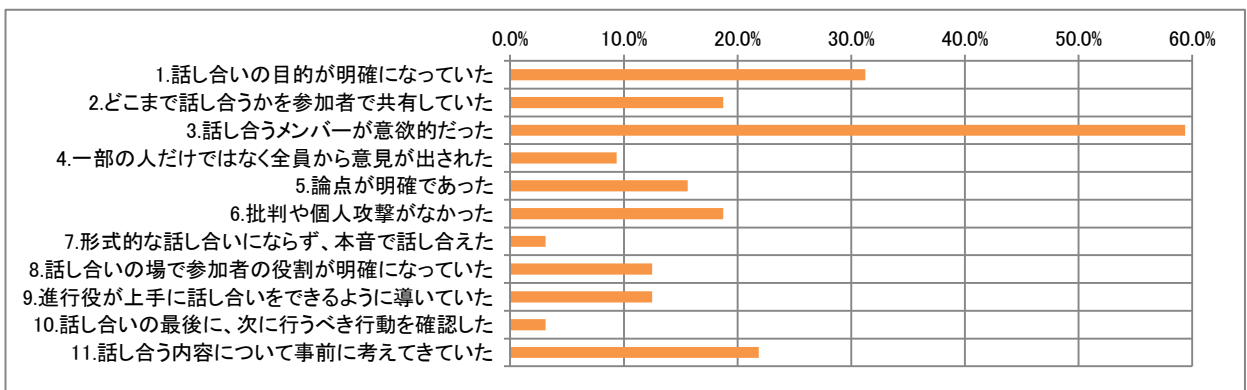
●独立事業者



●学生

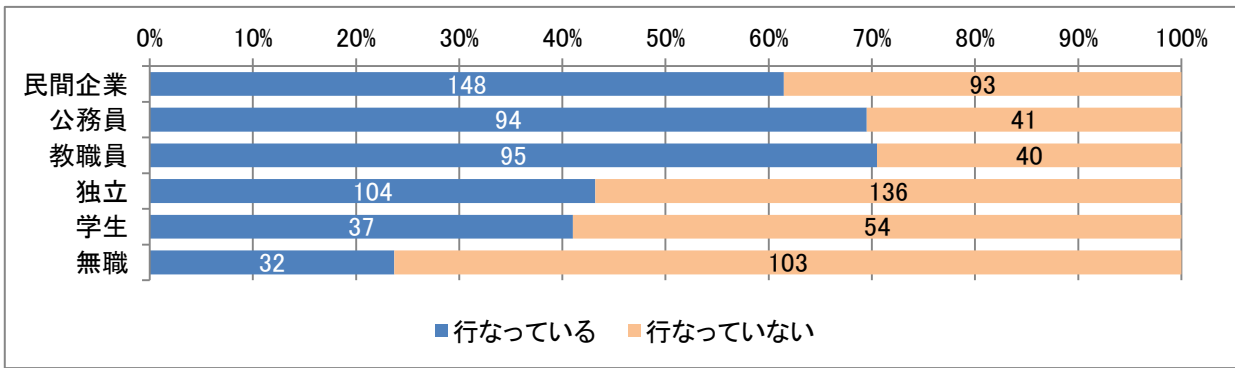


●無職・家事手伝い・その他

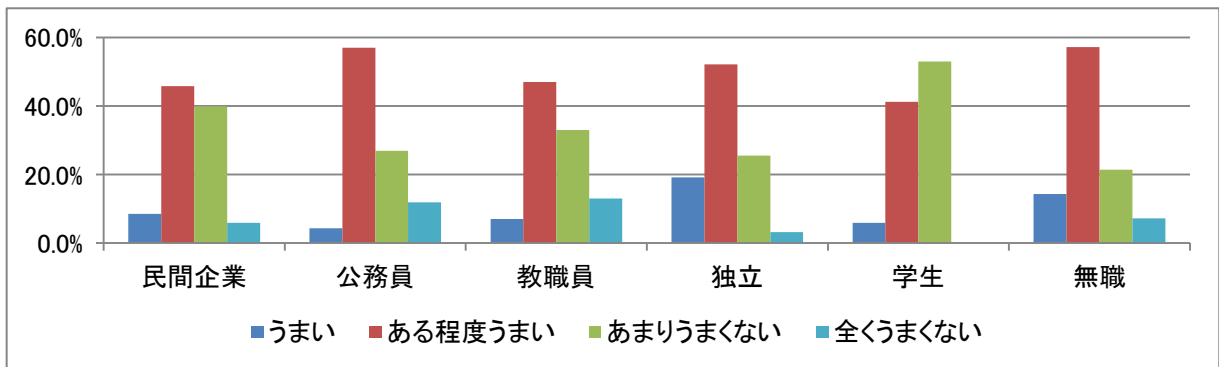


●調査2 C. 役割や利害を調整するための話し合い

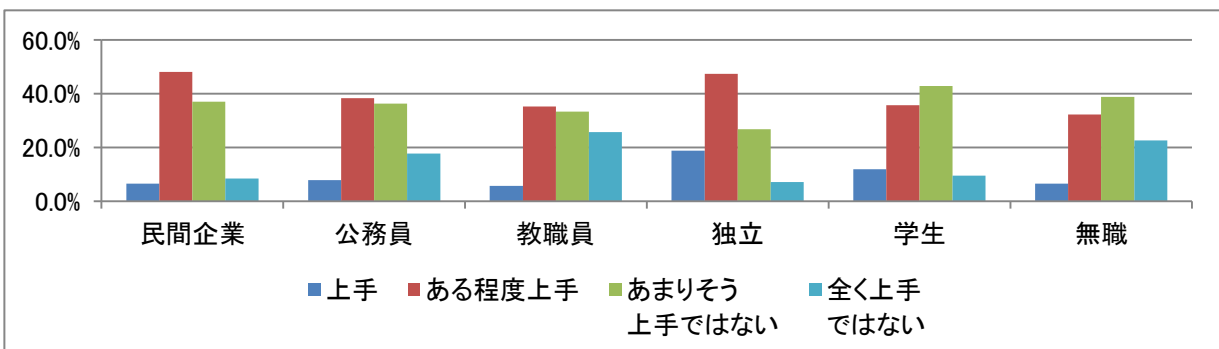
・役割や利害を調整するための話し合いを行なっているかどうか



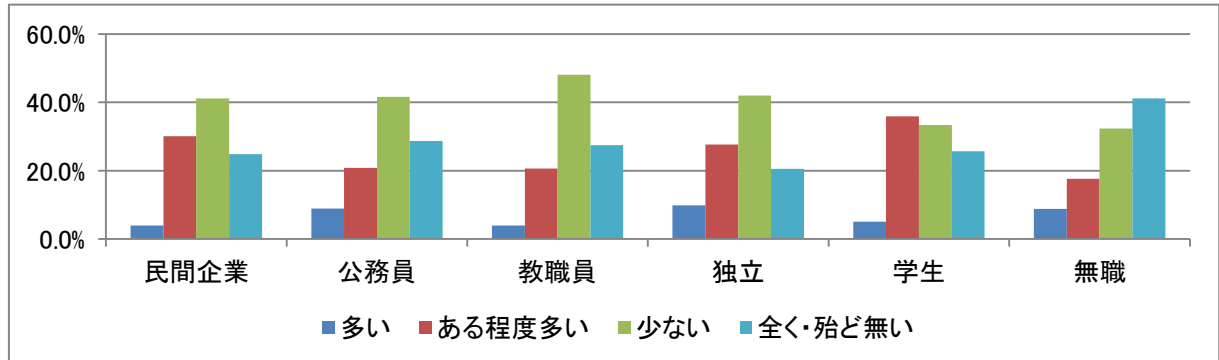
Q1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか



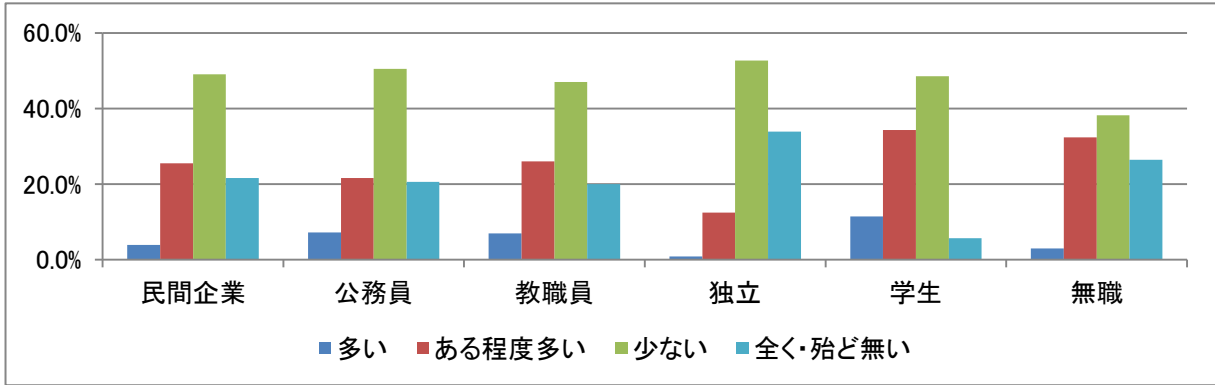
Q2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか



Q3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか

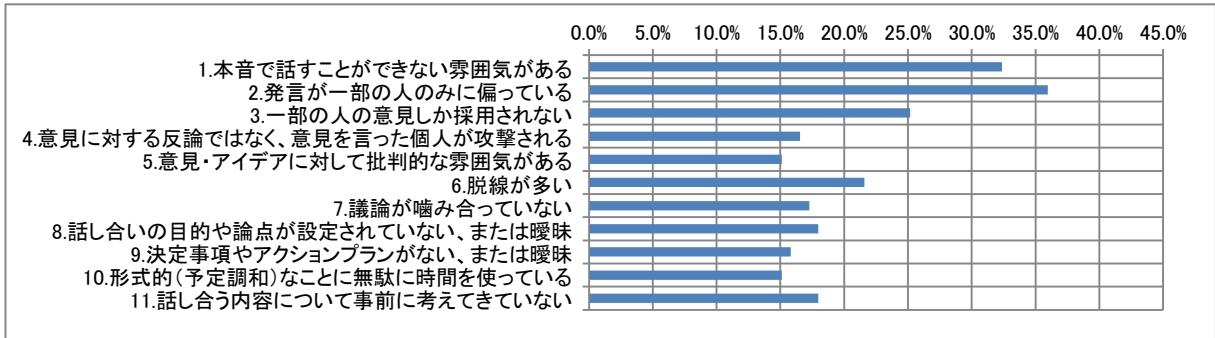


Q4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか

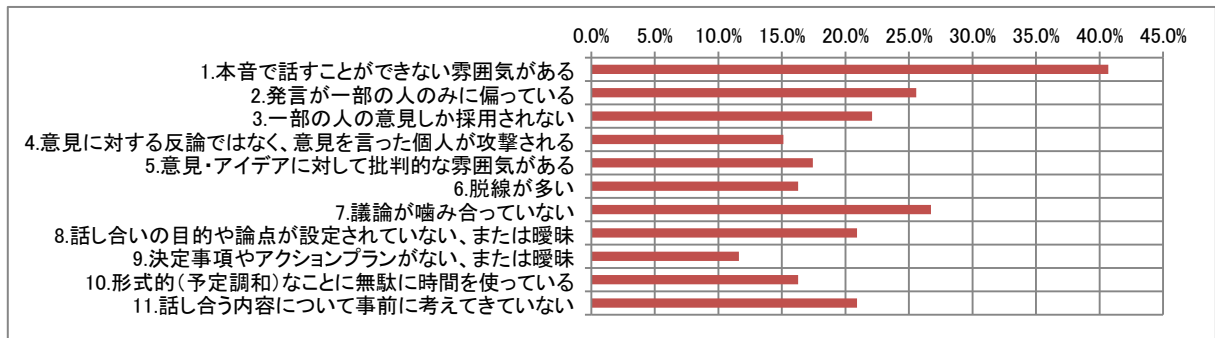


Q5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

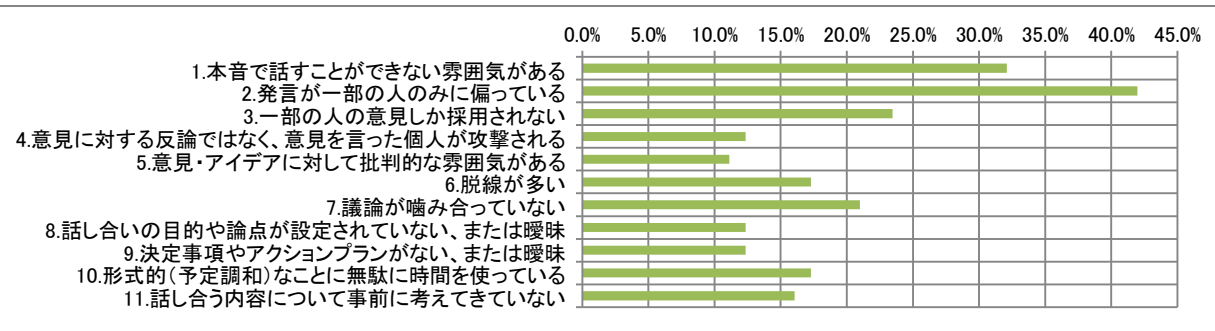
●民間企業



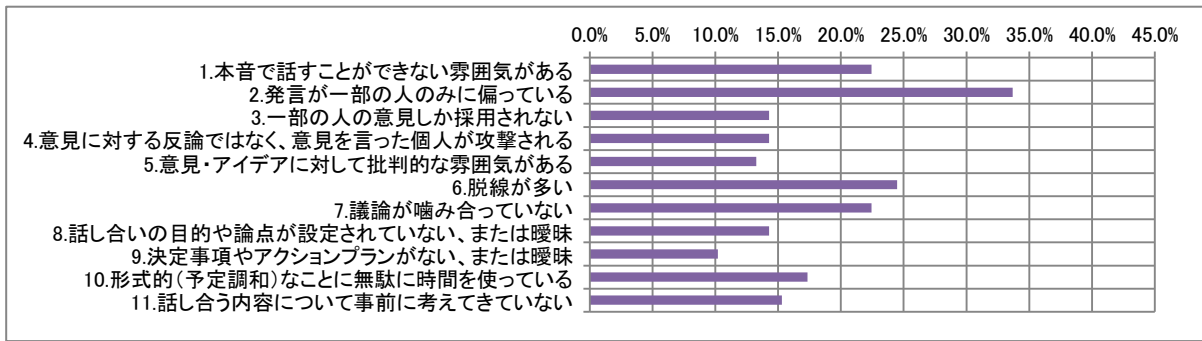
●公務員



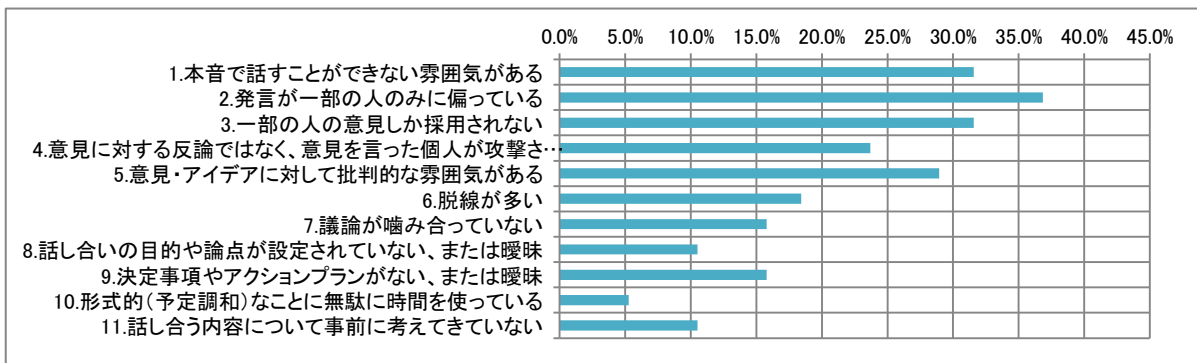
●教職員



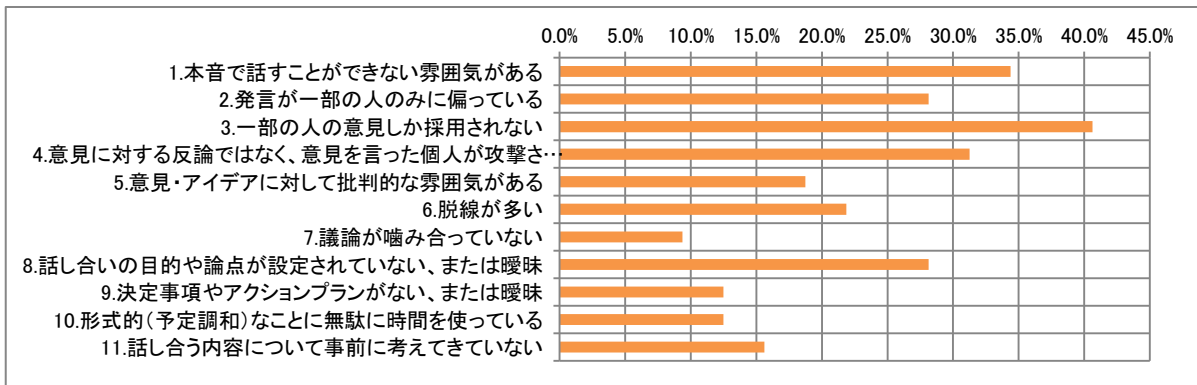
●独立事業者



●学生

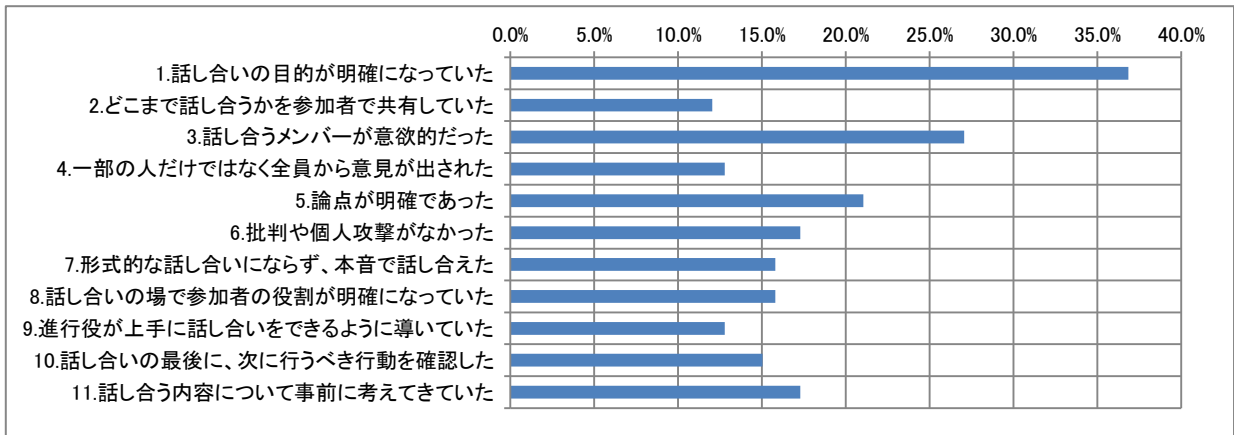


●無職・家事手伝い・その他

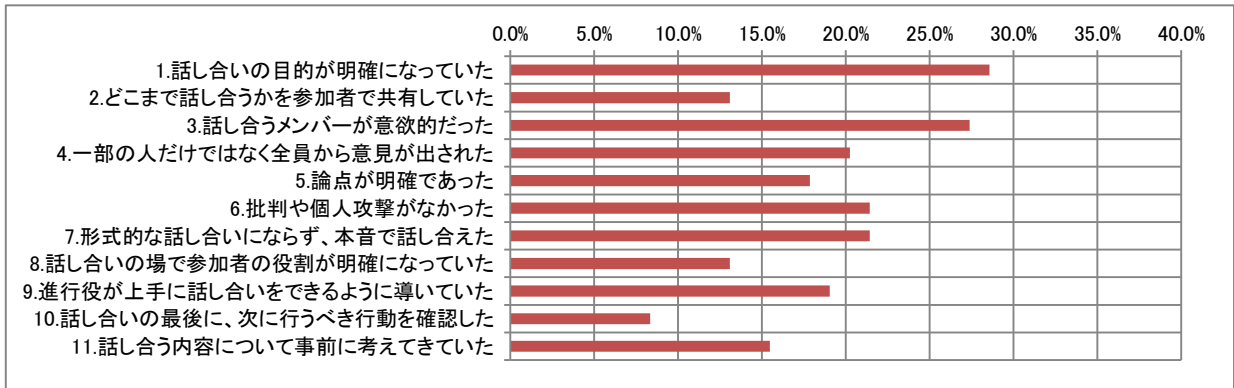


Q6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

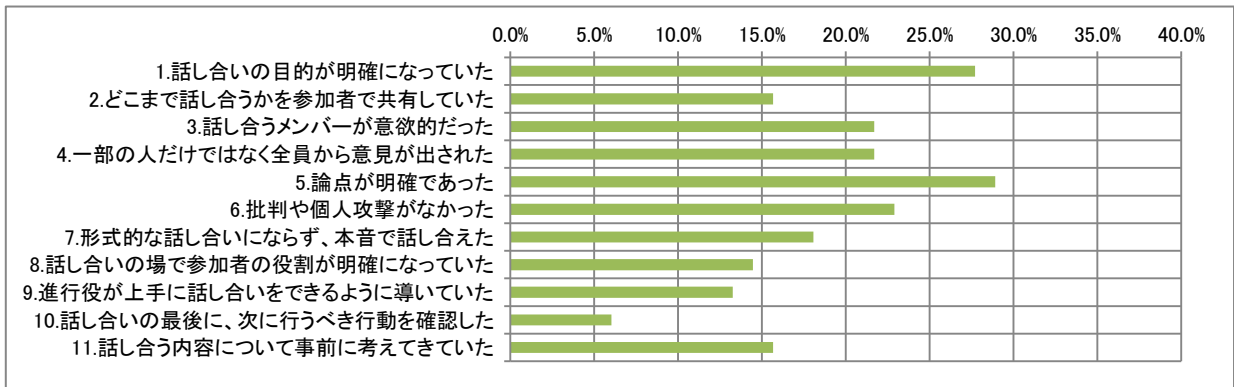
●民間企業



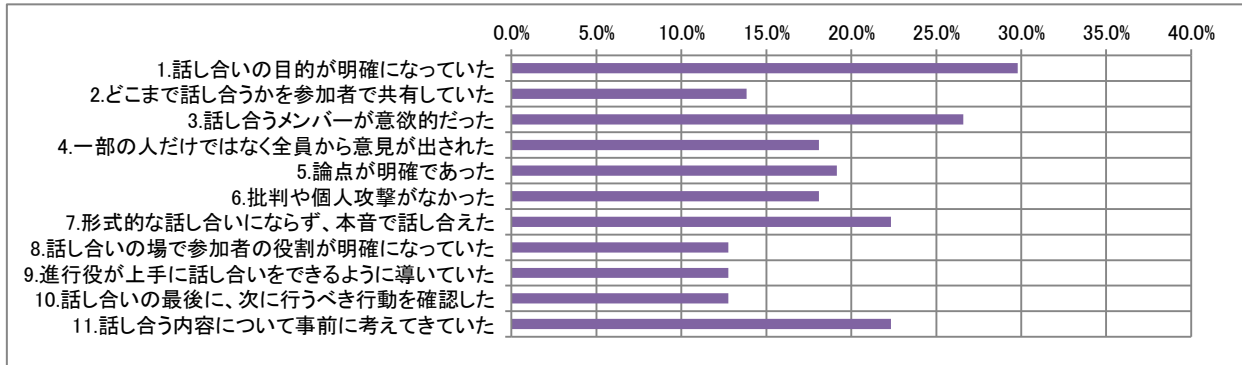
●公務員



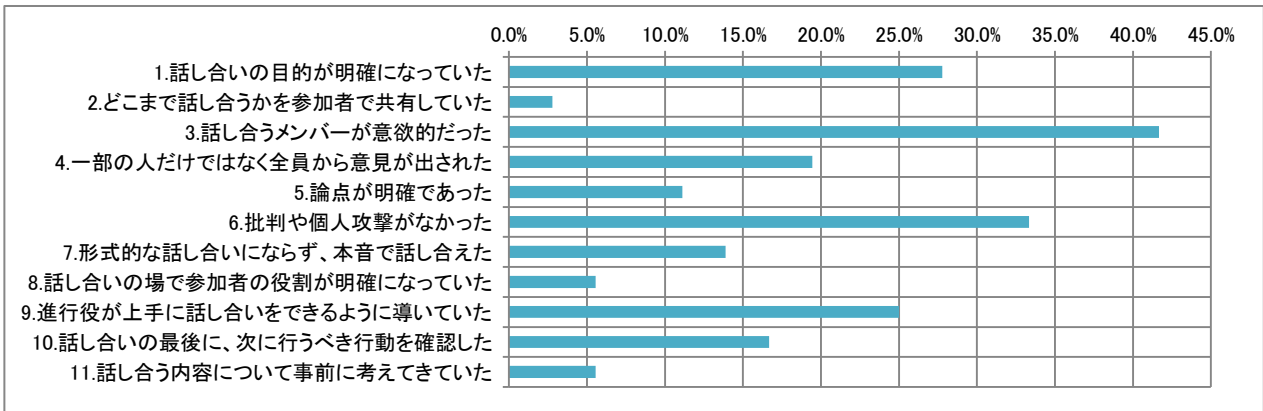
●教職員



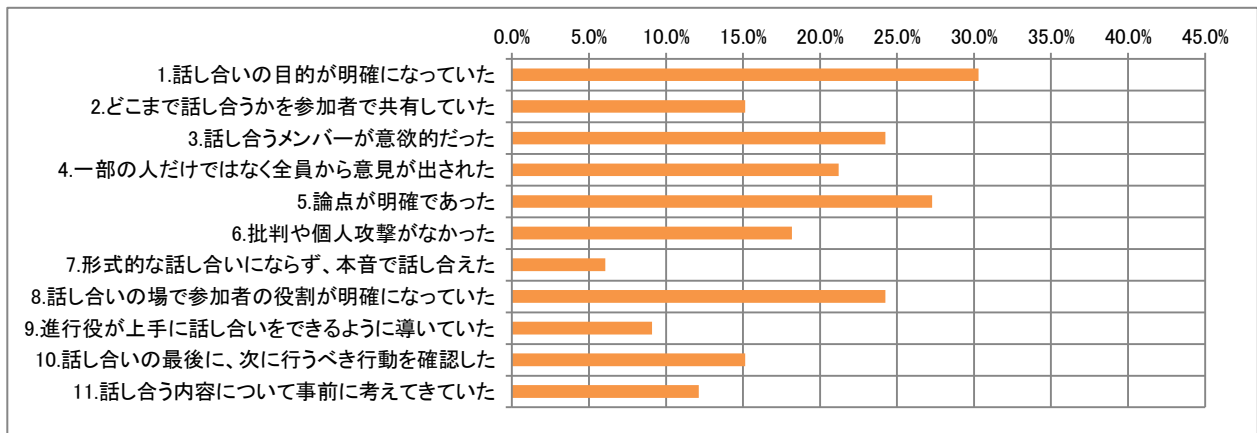
●独立事業者



●学生

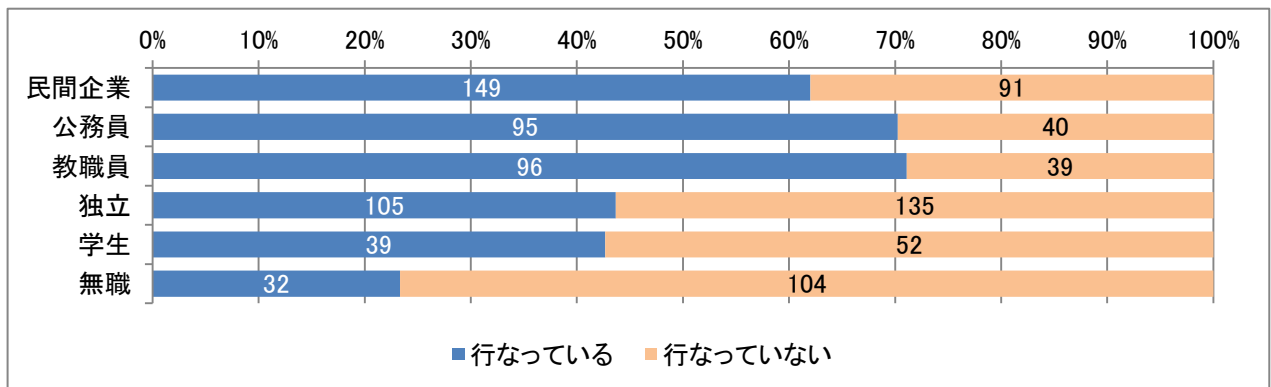


●無職・家事手伝い・その他

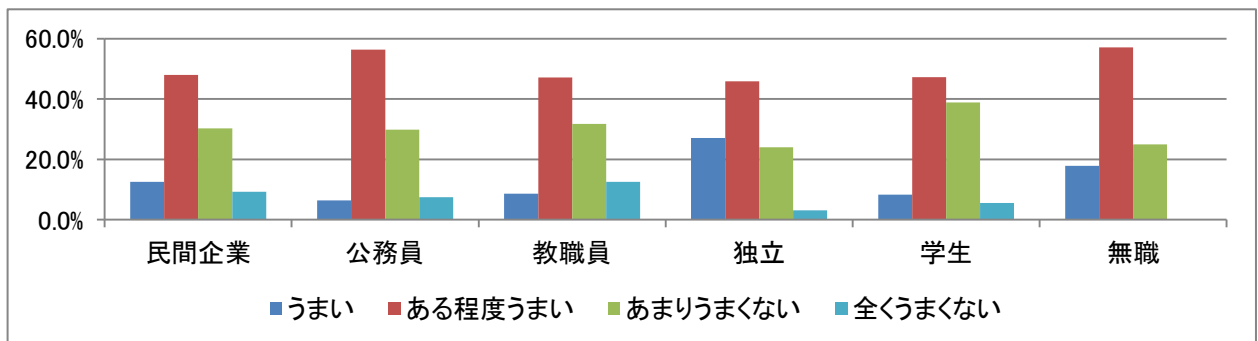


●調査2 D. 意思決定を行うための話し合い

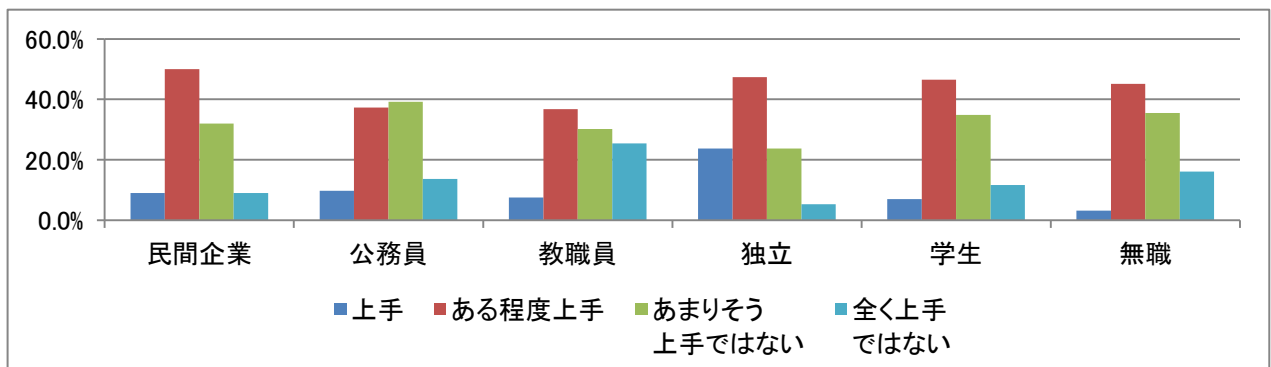
・意思決定を行うための話し合いを行なっているかどうか



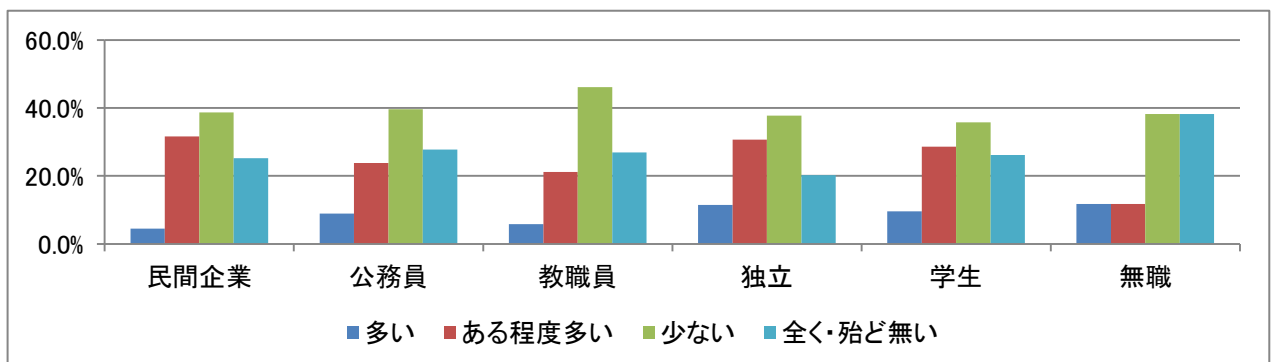
Q1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか



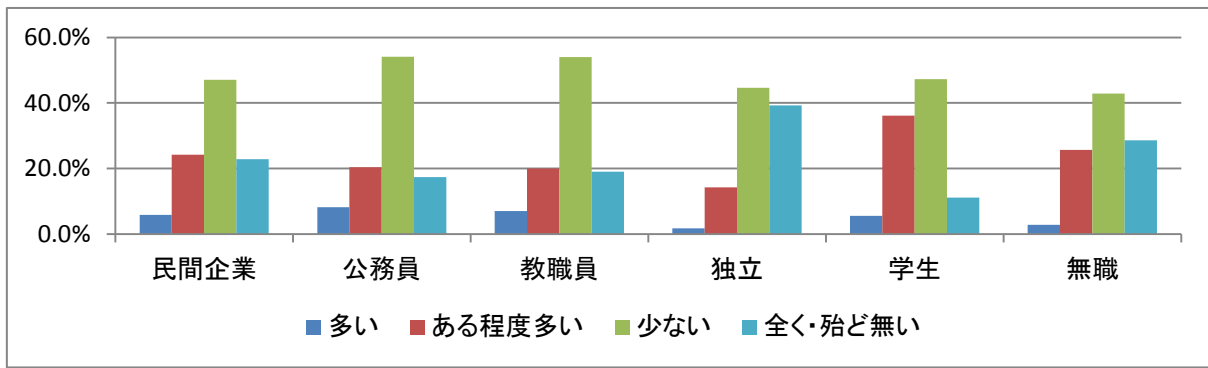
Q2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか



Q3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか

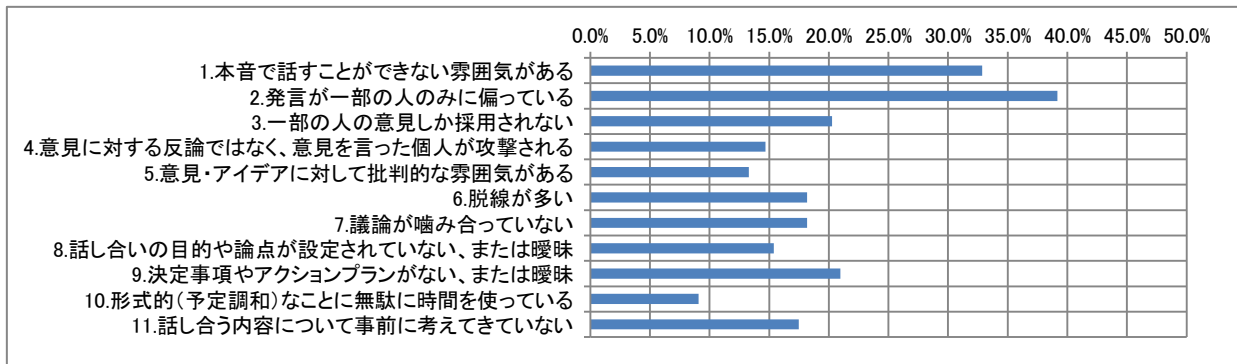


Q4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか

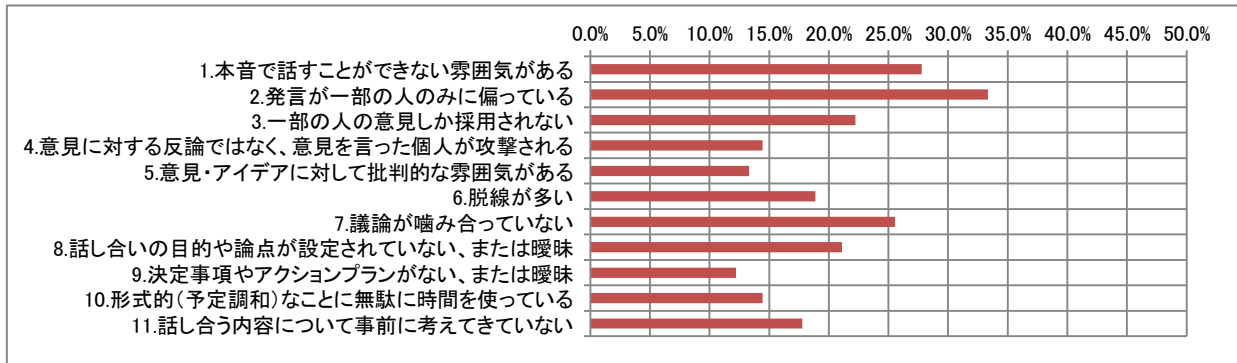


Q5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

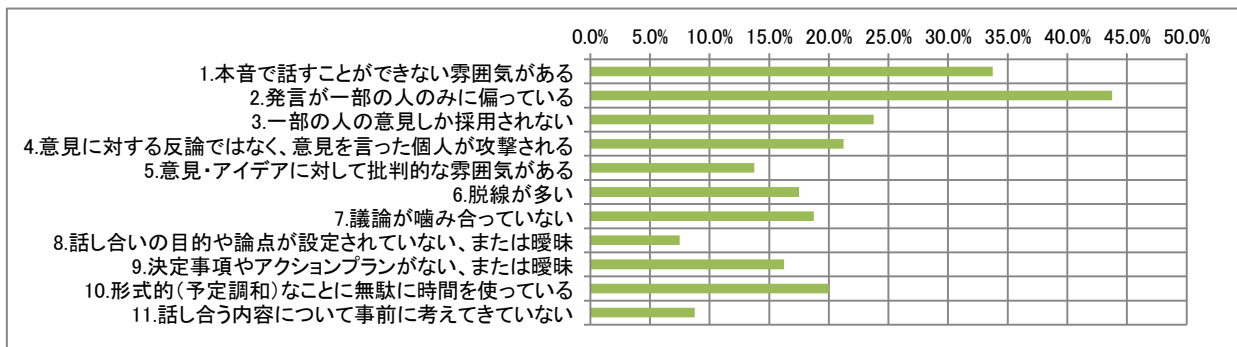
●民間企業



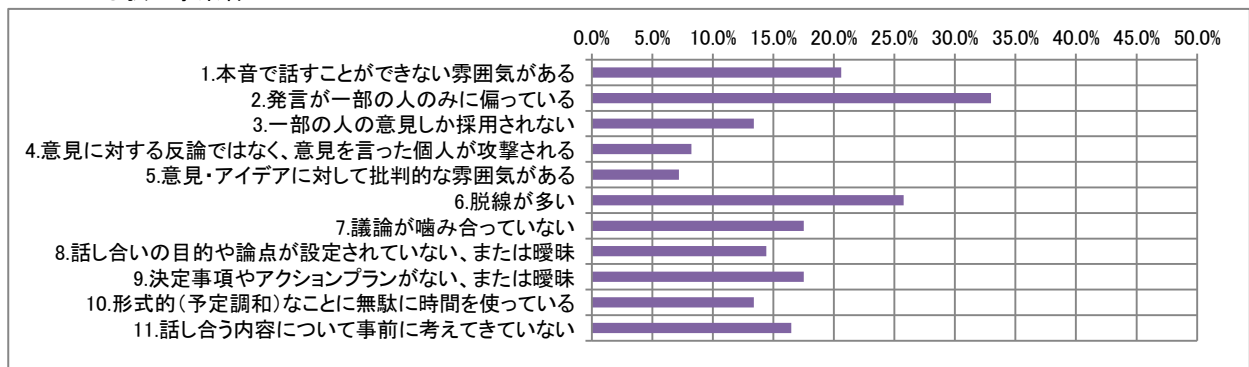
●公務員



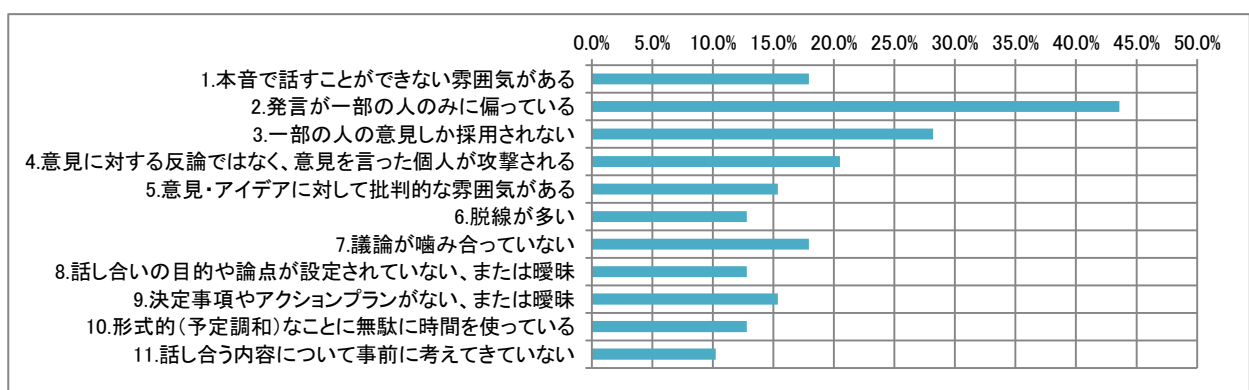
●教職員



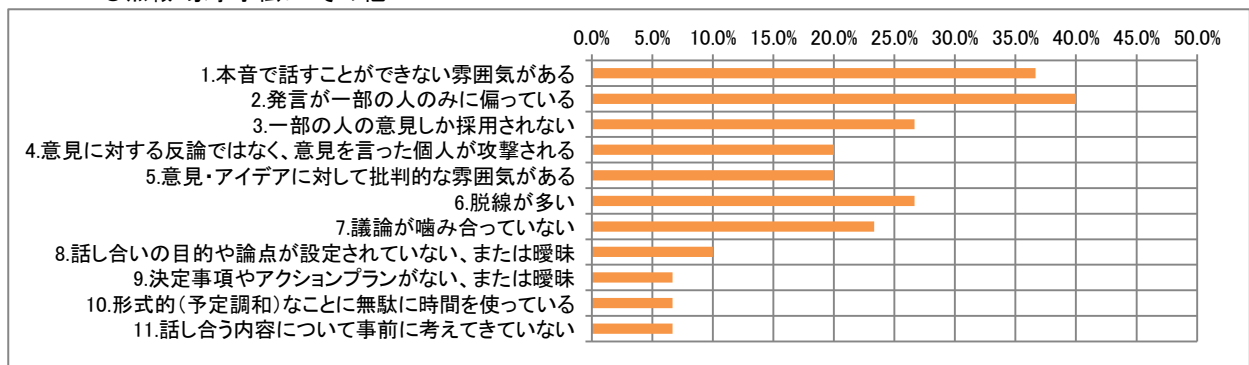
●独立事業者



●学生

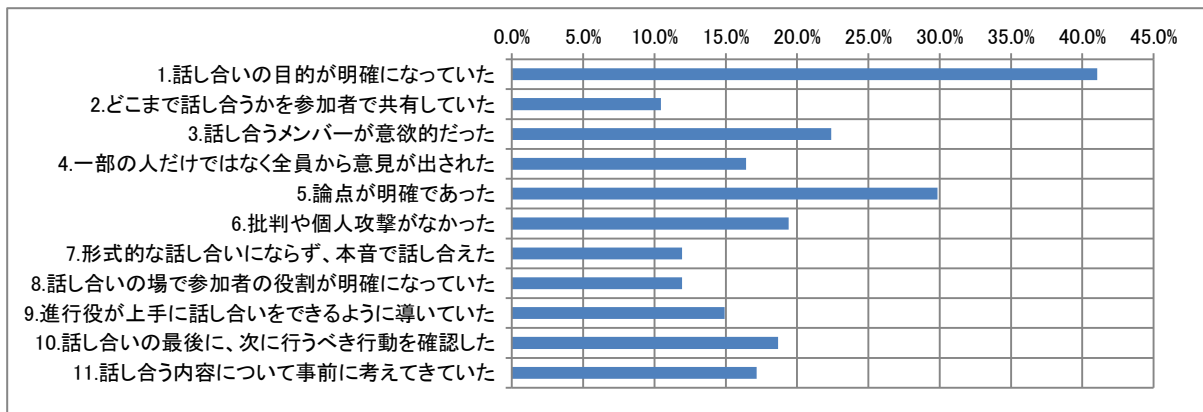


●無職・家事手伝い・その他

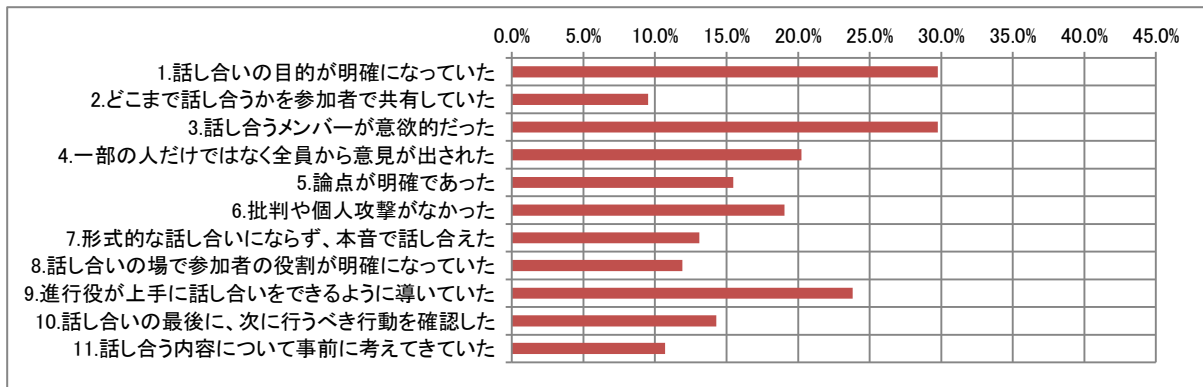


Q6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

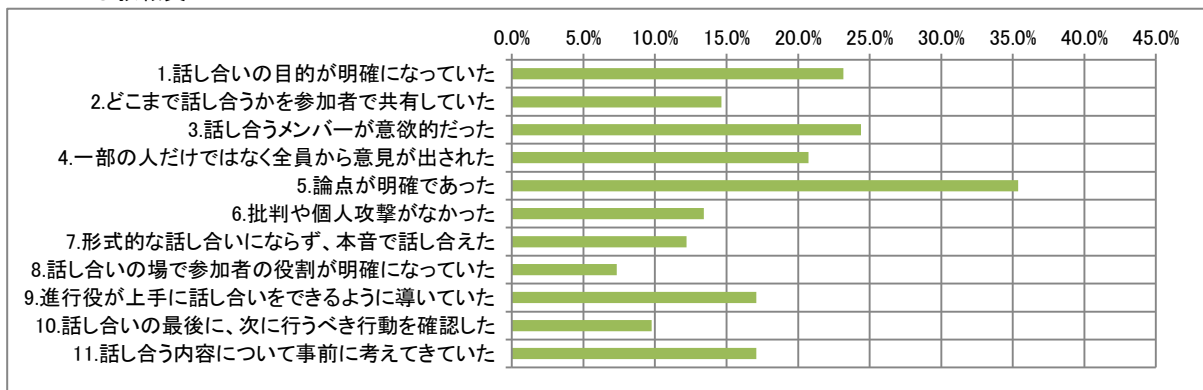
●民間企業



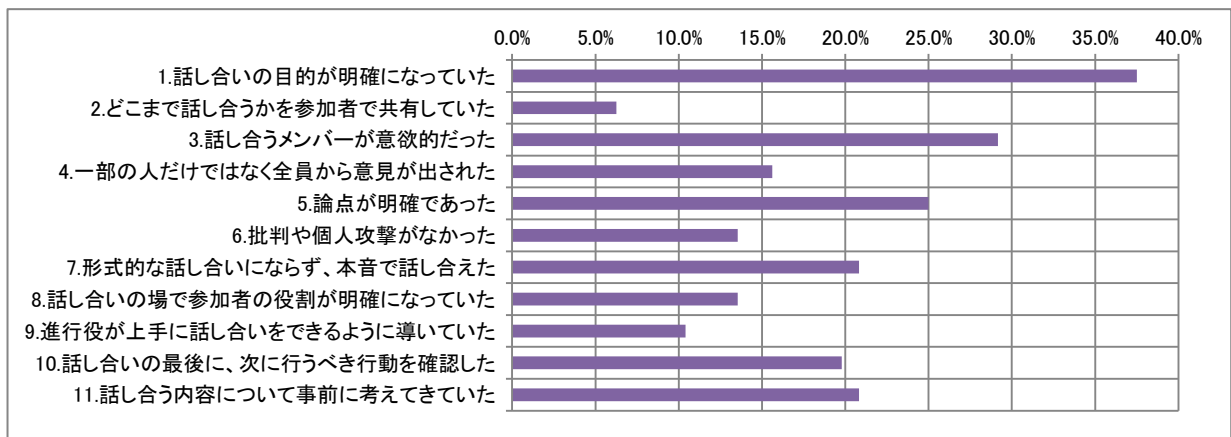
●公務員



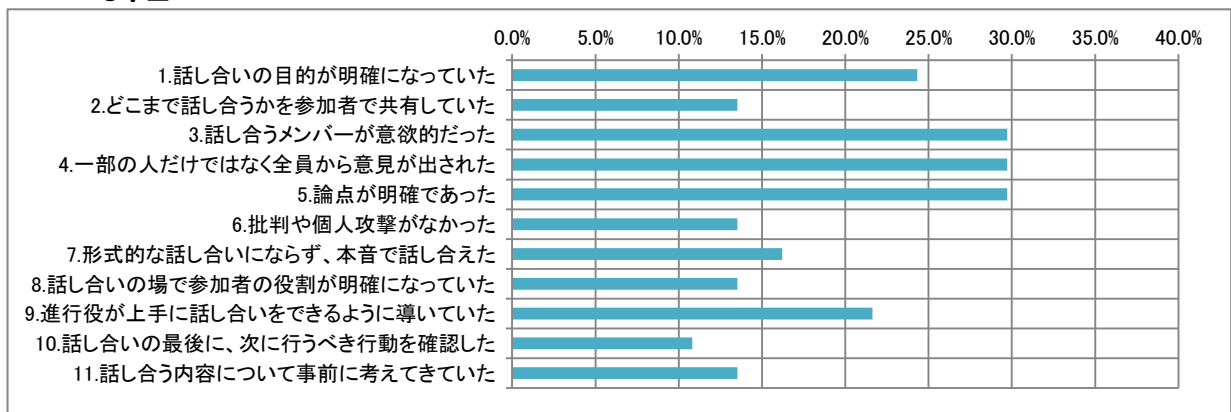
●教職員



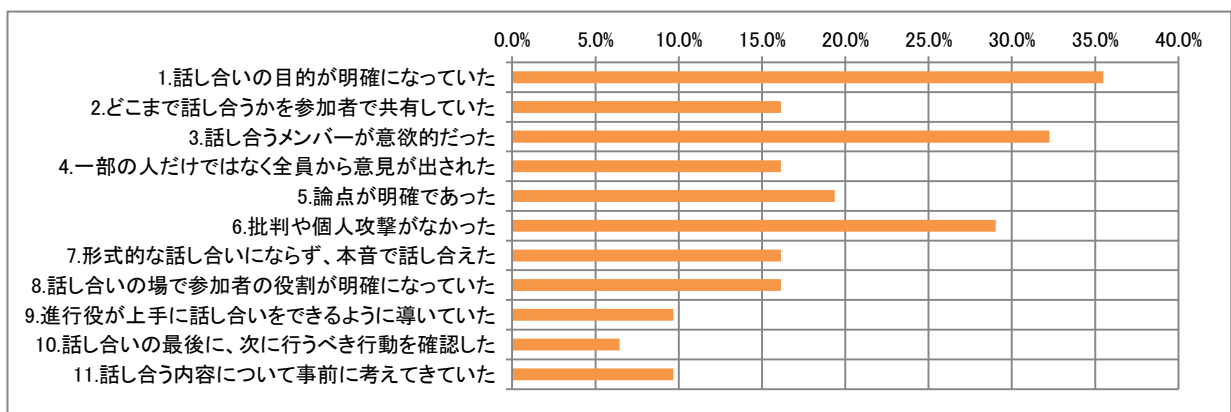
●独立事業者



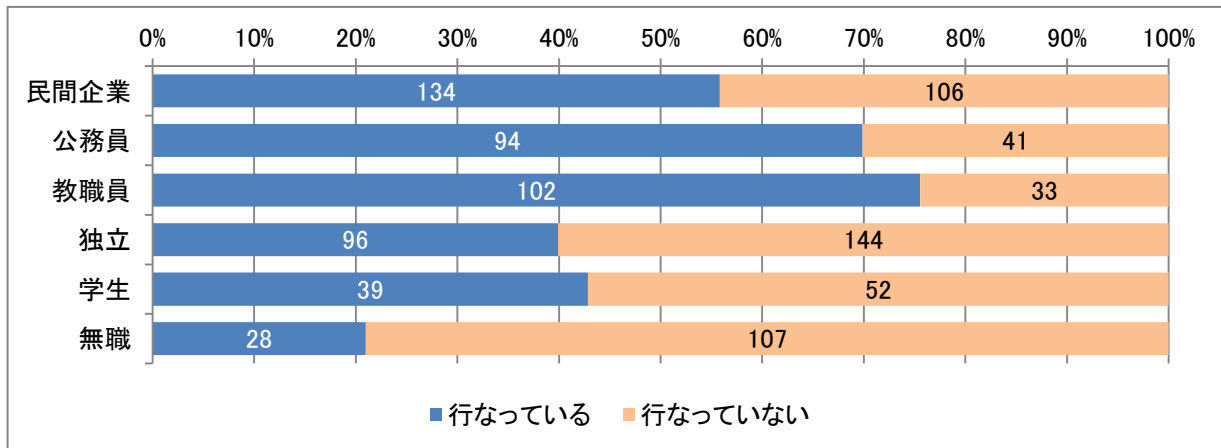
●学生



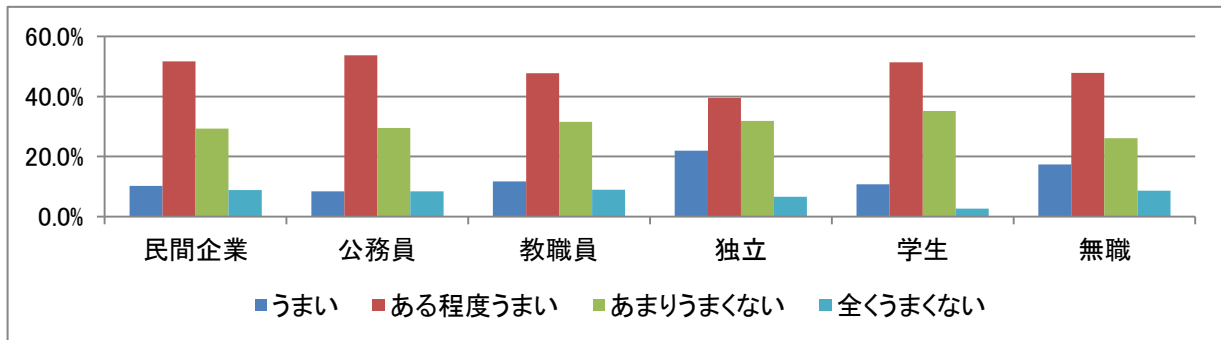
●無職・家事手伝い・その他



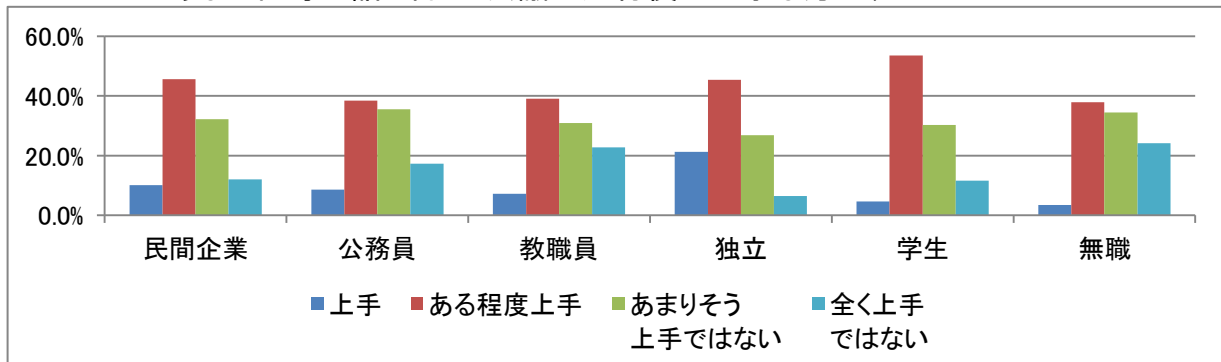
●調査2 E. 勉強会や研修など教育・指導のための話し合い
・勉強会や研修など教育・指導のための話し合いを行なっているかどうか



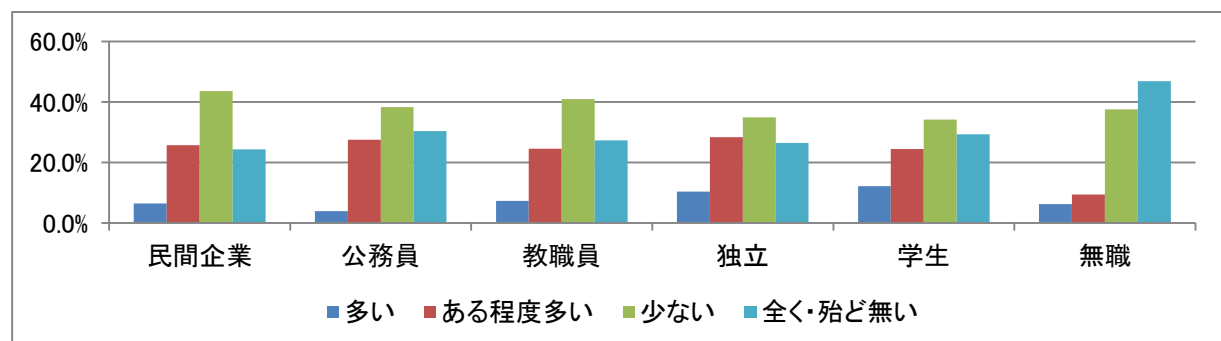
Q1. あなたの出席する話し合い・会議はうまく運営されていますか



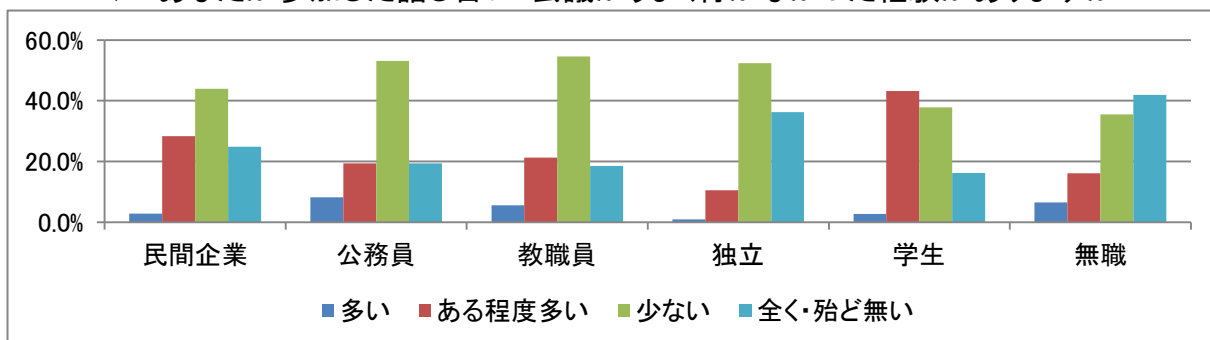
Q2. あなた自身は話し合い・会議の進行役が上手な方ですか



Q3. あなた自身は話し合い・会議の進行役をやることが多いですか

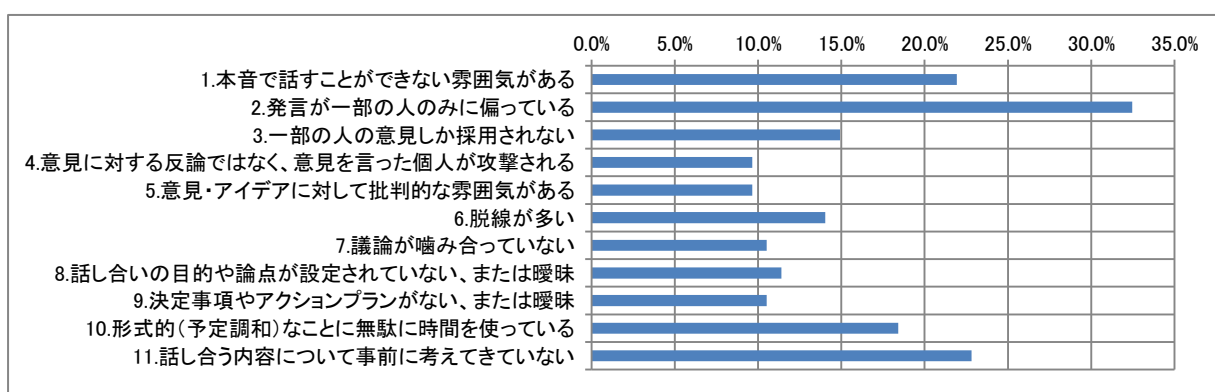


Q4. あなたが参加した話し合い・会議がうまく行かなかった経験がありますか

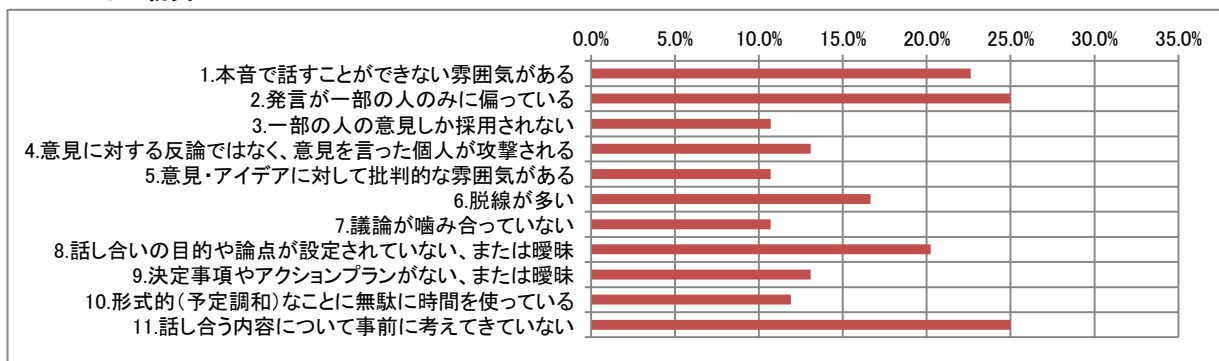


Q5. あなたが参加した話し合い・会議がうまくいかなかった要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

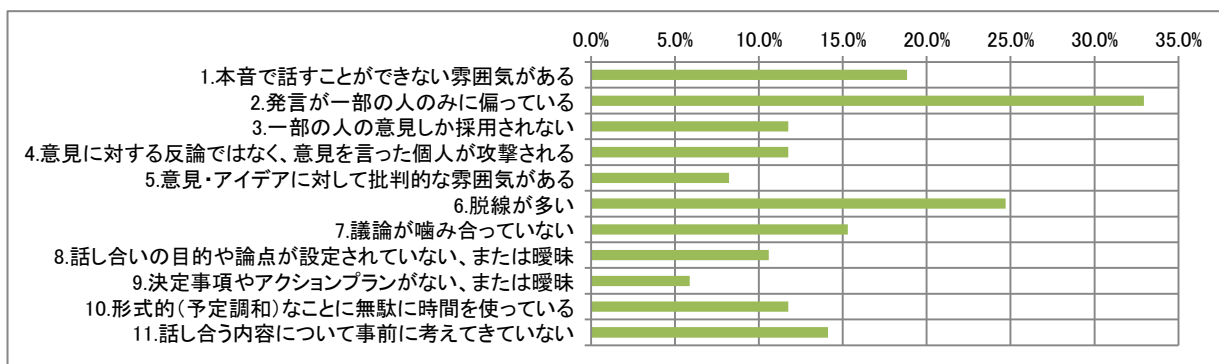
●民間企業



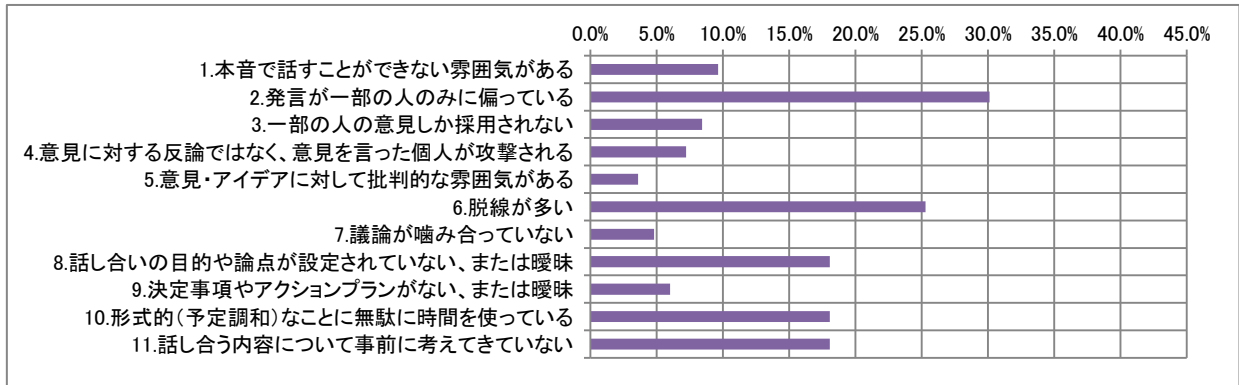
●公務員



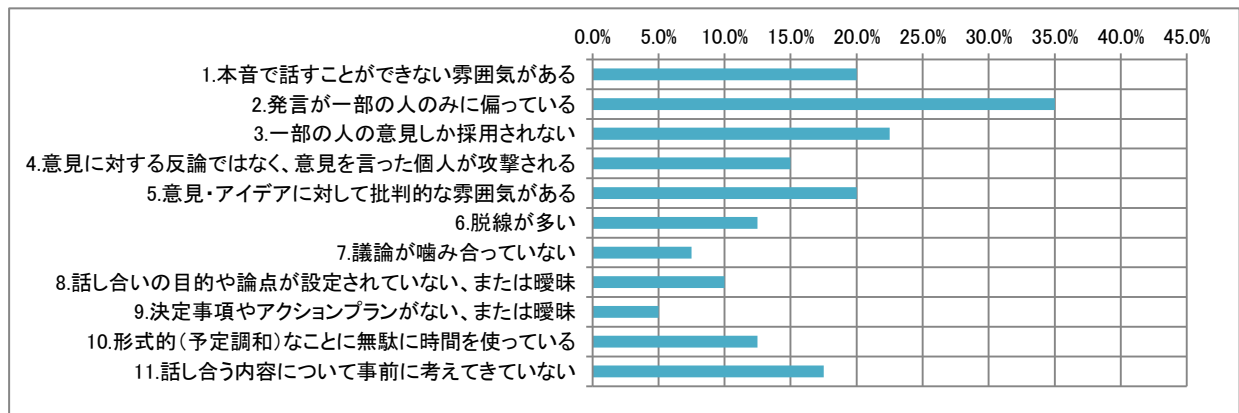
●教職員



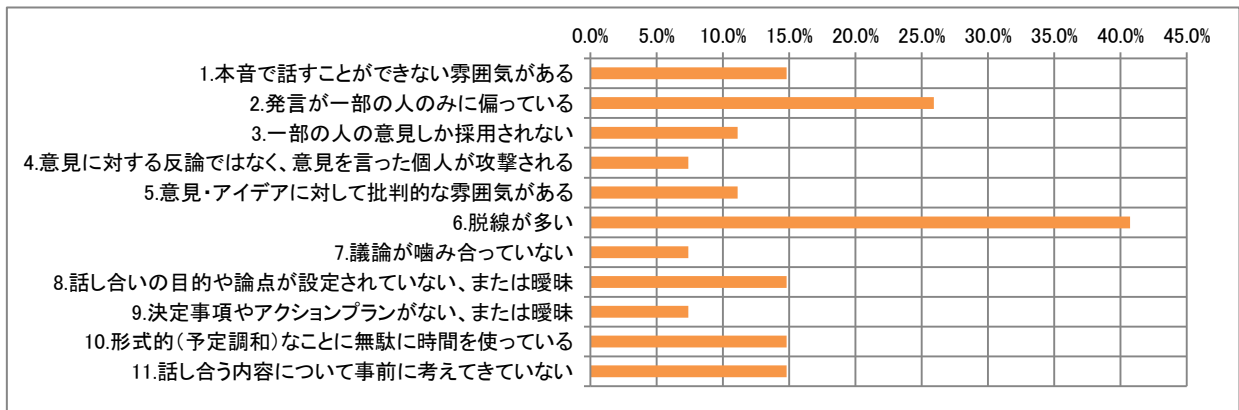
●独立事業者



●学生

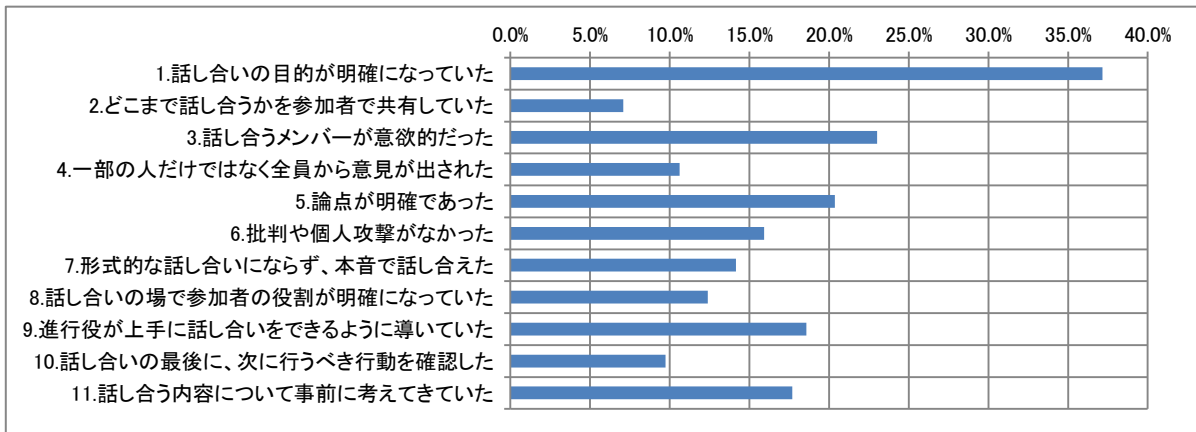


●無職・家事手伝い・その他

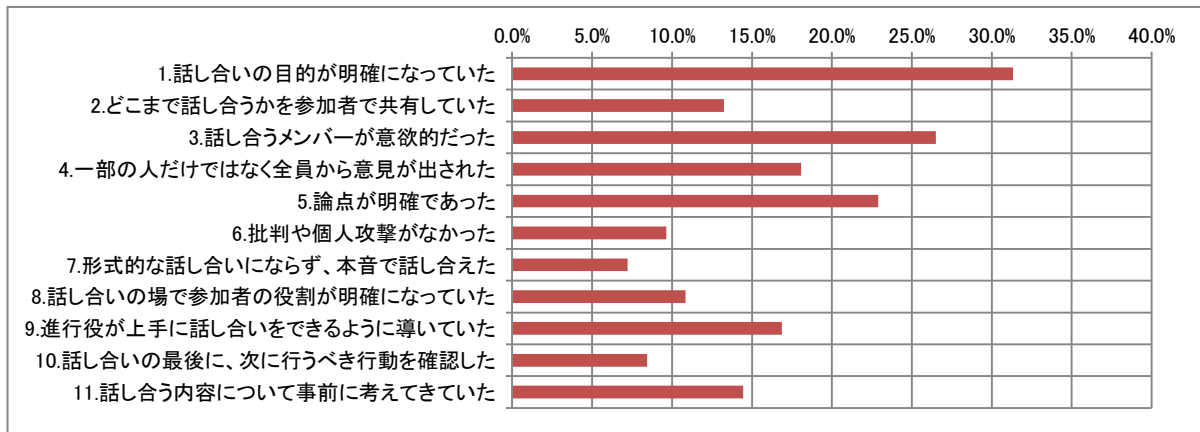


Q6. あなたが参加した話し合いや会議がうまく行った際の要因はなんでしたか
(頻度が高い要因を5個まで選択してください。)

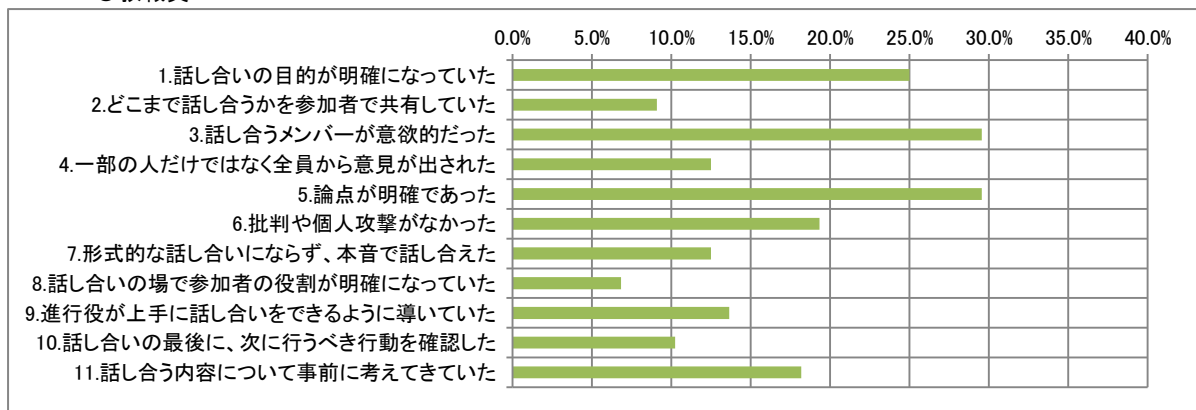
●民間企業



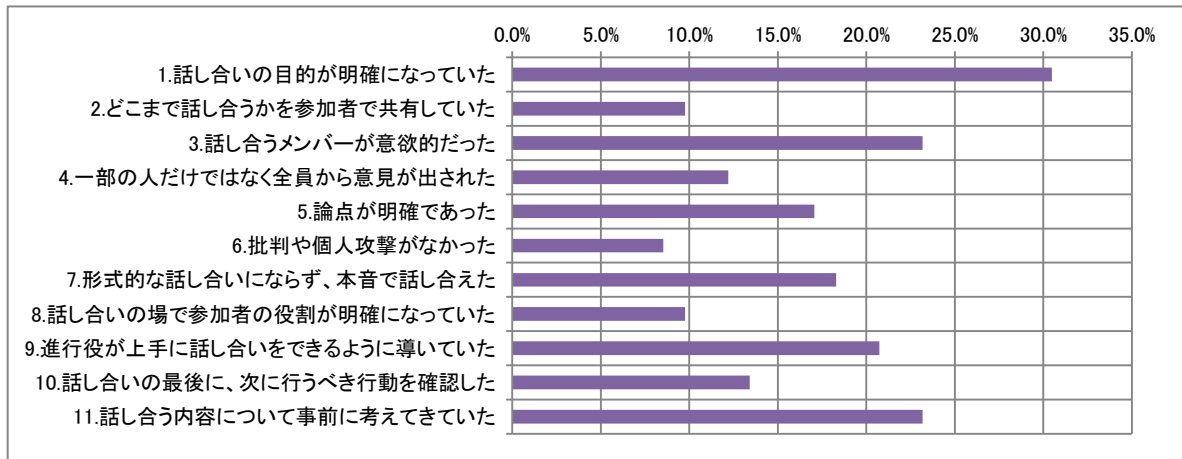
●公務員



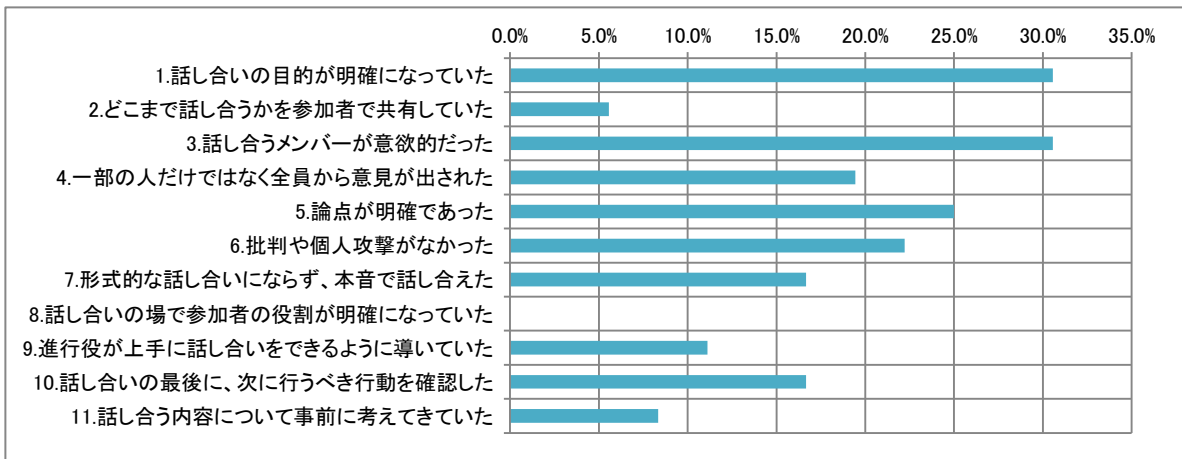
●教職員



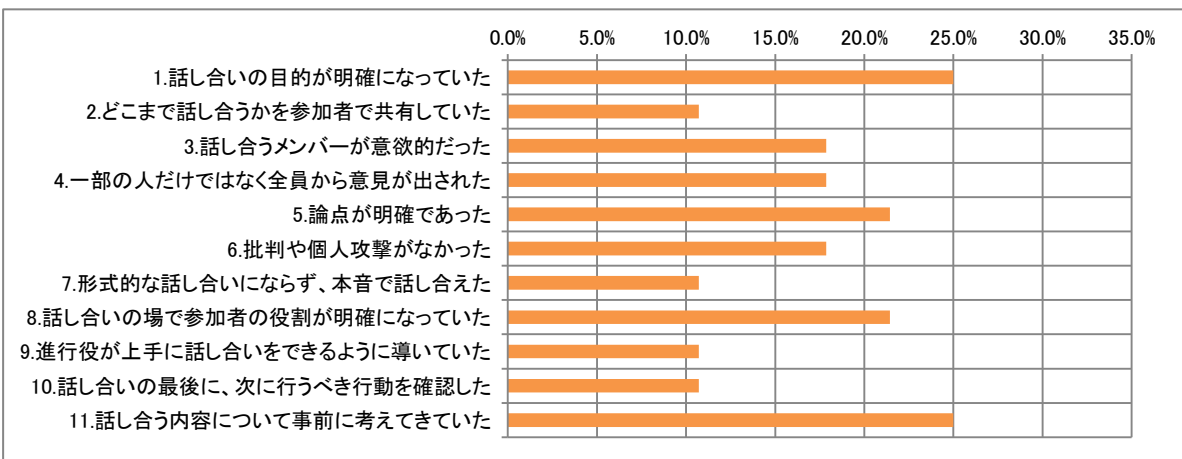
●独立事業者



●学生



●無職・家事手伝い・その他



付録 B 出版数調査詳細

表. 2008年-2013年末までの出版状況

発行日	著者名	題名	出版社名
2008/1/29	新岡 優子、前川 直也、西河 誠、小田 美奈子	システム開発現場のファシリテーション ~メンバーを活かす最強のチームづくり~	技術評論社
2008/3/14	森 時彦/ファシリテーターの道具研究会	ファシリテーターの道具箱—組織の問題解決に使えるパワーツール49	ダイヤモンド社
2008/3/21	釘山 健一	「会議ファシリテーション」の基本がイチから身につく本	すばる舎
2008/04	畠中智子	つぶやきの育て方—心づかいが生きるファシリテーション	南の風社
2008/06	堀 公俊、加藤 彰	ワークショップデザイン—知をつむぐ対話の場づくり(ファシリテーション・スキルズ)	日本経済新聞出版社
2008/07	多羅尾 美智代	人を動かす師長の手腕—ファシリテーション型看護管理の実践	日総研出版
2008/08	桑畑 幸博	目に見える議論—会議ファシリテーションの教科書	PHP研究所
2008/08	高野 文夫	ファシリテーション力が面白いほど身につく本—知りたいことがすぐわかる!ダメ会議が激的に変わる	中経出版
2008/09	八木 健夫	板書の極意—ファシリテーション・グラフィックで楽しくなる会議。	アメニモ
2008/11	林 俊行	国際協力専門員—技術と人々を結ぶファシリテーターたちの軌跡	新評論
2008/11/11	佐々木 薫	ファシリテーターの「在り方」エンパワメントドラマサークル	エー・ティ・エヌ
2009/02	芦崎 治	甦る組織—ファシリテーター	幻冬舎メディアコンサルティング
2009/4/10	ちよん せいこ	学校が元気になるファシリテーター入門講座	解放出版社
2009/4/24	中野 民夫、森 雅浩、鈴木まり子、富岡 武	ファシリテーション 実践から学ぶスキルとこころ	岩波書店
2009/05	中野 民夫、堀 公俊	対話するカーファシリテーター—23の問い	日本経済新聞出版社
2009/5/14	マーヴィン・ワイズボード、サンドラ・ジャノフ、ヒューマンバリュー、香取一昭	フューチャーサーチ ~利害を越えた対話から、みんなが望む未来を創り出すファシリテーション手法~	ヒューマンバリュー
2009/8/20	白川 克、関 尚弘	プロジェクトファシリテーション	日本経済新聞出版社
2009/10	開発教育協会『開発教育』編集委員会【編】	開発教育(2009 Vol. 56)特集 開発教育の教師・指導者とファシリテーター	明石書店
2009/12	寺田 佐代子、堤 寛	がん患者のためのピアサポート—個別相談のピアサポーターとグループワークのファシリテーターを育てよう!	テンタクル
2009/12/17	横井 真人	感情マネジメントがあなたのファシリテーションを変える!	日本経済新聞出版社
2010/5/7	堀 公俊	チーム・ファシリテーション 最強の組織をつくる12のステップ	朝日新聞出版
2010/10	大橋 邦吉	学級が変わる!授業が変わる!「クラスファシリテーション」入門	明治図書出版
2010/10/14	堀 公俊、加留部 貴行	教育研修ファシリテーター	日本経済新聞出版社
2010/11	和田 信明、中田 豊一	途上国の人々との話し方—国際協力メタファシリテーションの手法	みずのわ出版
2011/01	南山大学人文学部心理人間学科、津村 俊充、石田 裕久	ファシリテーター・トレーニング—自己実現を促す教育ファシリテーションへのアプローチ	ナカニシヤ出版
2011/02	中鉢 恵一、宮澤 信彦	リーディング・ファシリテーター—READING FACILITATOR	三修社
2011/2/4	武田 正則	教育現場の協働性を高める ファシリテーション実践学	学事出版
2011/2/17	田村 洋一	プロファシリテーターのどんな話もまとめる技術	クロスメディア・パブリッシング(インプレス)
2011/3/18	森 時彦	“結果”の出ない組織はこう変わる! ファシリテーションの応用と実践	朝日新聞出版
2011/3/22	岩瀬 直樹、ちよん せいこ	よくわかる学級ファシリテーション①—かわりスキル編— 信頼ベースのクラスをつくる	解放出版社
2011/6/9	影山 明	プロジェクトを変える12の知恵—ケンブリッジ式ファシリテーション—	日経BP社
2011/07	ネットワーク編集委員会	授業づくりネットワークNo. 2—ファシリテーションで授業を元気にする!	学事出版
2011/8/27	岩瀬 直樹、ちよん せいこ	よくわかる学級ファシリテーション②—子どもホワイトボード・ミーティング編— 信頼ベースのクラスをつくる	解放出版社
2011/9/8	野島 一彦、高橋 紀子	グループ臨床家を育てる: ファシリテーションを学ぶシステム・活かすプロセス	創元社
2011/10/8	大石加奈子	エンジニアリング・ファシリテーション—話し合いをうまくまとめるコミュニケーション・スキル—	森北出版
2011/11/21	水島 広子	続々・怖れを手放す アティテューディナル・ヒーリング・ファシリテーター・トレーニング	星和書店
2011/01	武田 正則	ファシリテーション実践学—教育現場の協働性を高める	学事出版
2011/11/25	水島 広子	DVD版 アティテューディナル・ヒーリング・ファシリテーター・トレーニング-続々・怖れを手放す-	星和書店
2011/12	藤原 友和	教師が変わる!授業が変わる!「ファシリテーション・グラフィック」入門	明治図書出版

発行日	著者名	題名	出版社名
2011/12/14	菊池 省三	話し合い活動を必ず成功させるファシリテーションのワザ	学事出版
2012	青木将幸、志賀壮史	市民の会議術 ミーティング・ファシリテーション入門	ハンズオン! 埼玉出版部
2012/3/5	堀 裕嗣	教室ファシリテーション 10のアイテム・100のステップ—授業への参加意欲が劇的に高まる110のメソッド	学事出版
2012/4/4	高橋 陽一	造形ワークショップを支える: ファシリテータのちから	武蔵野美術大学出版局
2012/4/27	岩瀬 直樹、ちよん せいこ	よくわかる学級ファシリテーション・テキスト—ホワイトボードケース会議編—	解放出版社
2012/4/28	久保田 康司	ビジネスリーダーのためのファシリテーション入門 DO BOOKS	同文館出版
2012/10/25	津村 俊充	プロセス・エデュケーション: 学びを支援するファシリテーションの理論と実際	金子書房
2013/3/22	研究集団ことのは、堀 裕嗣、山下 幸	目指せ! 国語の達人 魔法の「スピーチネタ」50 教室ファシリテーションへのステップ	明治図書出版
2013/3/22	研究集団ことのは、堀 裕嗣、山下 幸	目指せ! 国語の達人 魔法の「音読ネタ」50 教室ファシリテーションへのステップ	明治図書出版
2013/04	水江泰資	学生のためのファシリテーション入門 Life & career books	あしざき書房
2013/05	三田地 真実、中野 民夫	ファシリテーター行動指南書—意味ある場づくりのために	ナカニシヤ出版
2013/05	堀 公俊	実践ファシリテーション技法—組織のパワーを引き出す30の智恵	経団連出版
2013/5/20	岩瀬 直樹、ちよん せいこ	よくわかる学級ファシリテーション3—授業編— 信頼ベースのクラスをつくる	解放出版社
2013/6/27	ネットワーク編集委員会	授業づくりネットワークNo.10—授業ファシリテーション10のワザで子どもの学びが変わる!	学事出版
2013/7/12	研究集団ことのは、堀 裕嗣、山下 幸	目指せ! 国語の達人 魔法の「聞き方ネタ」50 教室ファシリテーションへのステップ	明治図書出版
2013/8/9	桑畑幸博	[臨機応変!] 日本で一番使える会議ファシリテーションの本 (リンキオウヘンシリーズ)	大和出版
2013/9/28	森 時彦、田中 淳子	本物の自信を手に入れる セルフ・ファシリテーション——自分を変える54のスキル	ダイヤモンド社
2013/10/22	関 尚弘、白川 克	反常識の業務改革ドキュメント プロジェクトファシリテーション<増補新装版>	日本経済新聞出版社
2013/11/1	深美 隆司	子どもと先生がともに育つ人間力向上の授業—深美隆司のファシリテーション出前研修	図書文化社
2013/11/28	にいがたファシリテーション 授業研究会	みんなが主役! わくわくファシリテーション授業	新潟日報事業社
2013/12/12	津村 俊充、星野 欣生	実践 人間関係づくりファシリテーション 日本体験学習研究所、	金子書房
2013/12/24	看護管理	看護管理 2014年1月号 特集/対話が現場を変える! ファシリテーター型リーダーシップ (雑誌)	医学書院

特定非営利活動法人

日本ファシリテーション協会

ファシリテーションの普及・啓発を目的とした特定非営利活動(NPO)法人です。プロフェッショナルからビギナーまで、ビジネス・まちづくり・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協調しあう自律分散型社会の発展を願い、幅広い活動を展開しています。

ファシリテーション白書 2014

2014年7月31日 1版

発行 日本ファシリテーション協会
発行人 平井 雅
編集担当 芥川朋代、岩城奈津、岡田栄作、糟谷勇児、加納叔子、清川典康、
大国兼道、竹本記子、檀野隆一、橋詰敦樹、増平貴之、水江泰資、
向山聡、村岡千種、本宮大輔
発行所 日本ファシリテーション協会 東京事務所
東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目12番8号
TEL 03-5771-7573
FAX 03-5771-7072
E-Mail webmaster@faj.or.jp

© 2014 Facilitators Association of Japan

著作権の許可なく無断複写・複製・転載を行うことは法律で禁じられています。